

# 教会学校教案誌

2008.10.11.12月号



No.31

日本キリスト改革派教会  
中部中会日曜学校委員会

# 2008年10～12月カリキュラム (第31号)

— 『子どもカテキズム』に基づく二年サイクル第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単元の目標			
10月5日	神の怒り	問20	ウ小19、ウ大27-29、ハイデ10-11
		ルカ13:1-5	ルカ13:5 (後半)
わたしも神の怒りに値する罪人である。神の御前に立ち、悔い改めに生きよう			
12日	贖い主の必要性	問21	ウ小20、ウ大30、ハイデ54
		エフェソ2:1-6	エフェソ1:5
怒りを受けるべきわたしたちを愛してキリストを与えてくださった神を仰ごう			
19日	二性一人格 (一)	問22	ウ小21-22
		ヨハネ1:14-18	ヨハネ1:14 (前半)
受肉の神秘を通して、人となられた神の御子が与えられていることを喜ぼう			
26日 宗教改革記念	二性一人格 (二)	問22	ウ小21-22
		ヨハネ3:31-36	ヨハネ3:34 (前半)
主イエスは上から来られたお方である。神の御子の権威を受け入れ、従おう			
11月2日	主は救い、イエス	問23	ハイデ29、34
		ヨハネ14:1-14	ヨハネ14:6
主イエスが道であり真理であり命である。主イエスの御名によって歩もう			
9日	神の御子、キリスト	問23	ハイ31、33、ウ大32、ジュネ34-36
		ヨハネ20:24-31	ヨハネ20:29
救い主に対する信仰を告白して、信じる者として生きる幸いを味わおう			
16日	謙卑のキリスト	問24	ウ小27、ウ大46-50、ハイデ43
		フィリピ2:6-8	フィリピ2:7-8
神の御子がへりくだり、しもべとなられた。へりくだりのキリストを喜ぼう			
23日	高擧のキリスト	問24	ウ小28、ウ大51-57、ハイデ45
		フィリピ2:9-11	フィリピ2:9
高く上げられ、今も働いておられる主イエス・キリストを仰ごう			
30日 アドベント	預言者イエス	問25	ウ小24
		ヨハネ1:1-5	ヨハネ1:18
まことの預言者として来られた主イエス・キリストの御声を聞こう			
12月7日 アドベント	大祭司イエス	問26	ウ小25
		イザヤ53章	ヘブライ7:24
わたしたちの罪を背負って犠牲となってくださった大祭司イエスを仰ごう			
14日 アドベント	真の王イエス	問27	ウ小26
		ルカ2:1-7	フィリピ2:9
皇帝アウグストゥスとの対比から、まことの王イエス・キリストの誕生を祝おう			
21日 降誕祭	御子イエスの誕生	—	—
		マタイ2:1-12	マタイ2:11
占星術の学者たちの物語。主イエスの前にひざまずき礼拝する人生を生きよう			
28日 年末	一年の感謝	—	—
		詩編146編	詩146:1-2
一年の歩みを振り返り、神の恵みに感謝し、主をほめたたえよう			

も く じ

2008年10・11・12月カリキュラム	
まえがき	芦田高之 4
巻頭説教	吉田 隆 5
日曜学校・教会学校訪問	
高知教会教会学校の紹介	久保浩文 7
特別寄稿・諸教派の教会教育事情	
日本同盟基督教団のキャンプ宣教	辻浦信生 10
副読本再発行のお知らせ	15
自由募金のお願い	16
聖書研究・説教展開例・分級展開例 17	
10月 5日	18
10月12日	26
10月19日	34
10月26日	42
11月 2日	50
11月 9日	58
11月16日	66
11月23日	74
11月30日	82
12月 7日	90
12月14日	98
12月21日	106
12月28日	113
小学科上級の答えの参考	120
いのちのパン（こども聖書日課）	121
2009年1・2・3月カリキュラム	135
2008年度年間カリキュラム	136
執筆者よりひとこと・あとがき	138

# まえがき

芦田高之（新浦安伝道所宣教教師）

## 【究極の礼拝】

私たちはやがて終末の時に神の民が大集合させられる「究極の礼拝」を思いめぐらしつつ、一定地域にすむ人々と共に、たいがい一つの言語で主の日の礼拝を週毎にささげています。

やがて神の民が神の御前に一つの大きな神の家族として大集合させられる日の光景を、使徒ヨハネは幻のうちに見させられました。

「……見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数え切れないほどの大群衆が、白い衣を身につけ、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って……」（ヨハネの黙示録7:9-10）

## 【統一性と多様性】

神の国は、あらゆる民族、言語の違う民のなから、神を礼拝する一つの大きな家族・民として集められる一つの大きな共同体です。三位一体の神を礼拝する統一性のある神の民・家族は、実に計り知れない多様性（国、種族、民族、言語、肌の色）をそのうちに含んでいます。

礼拝共同体という「統一性」と、その共同体が限りなく「多様性」に富んでいるという、両面が神の国・家族・民にはあるのです。

## 【地上における神の国のリアリティ】

地上の各個教会も、礼拝共同体であるという統一性と、そこにさまざまな人々が集まるという多様性が共存しています。そして、「統一性のうちに、いかに多様性が豊かに存在するか」というところに、「神の国・家族・民のリアリティ（現実感）」が浮き上がってくるのだと思います。

もし肌の色や言語の違う人々が、共に一人の神を礼拝する現実を実体験できるなら、神の国のリアリティがその多様性によって、より鮮やかに浮かび上がってくるでしょう。

## 【地上における多様性の限界と可能性】

しかし、実際は日本語以外の言語で同時通訳がなされる教会は、私たちの教派では実にまれです。したがって、異なる種族、民族、国語の人々が、一つの礼拝をささげることに於いて神の国のリアリティを体験するのは、非常に限りがあります、残念ながら。

でも、年代層という多様性においては、とにかく、一つの言語（日本語）で何とか賄うことが可能です。就学前の子ども、中学生も、高校生、おとなも、日本語という一つの言葉で、おおよそカバーできる点において、私たちの国の教会は恵まれていると言えましょう。

## 【世代を超えた礼拝に見る神の国のリアリティ】

子供、乳飲み子をも主イエスは御自身のもとに引き寄せられ、その小さな者たちが、神の国の構成員だと、はっきりとおっしゃいました。

子供たちが礼拝に招かれ、その礼拝において礼拝者として参加し、大人と共にイエス様の御言葉に耳を傾け、賛美をささげるなら、「多様な世代を含む」という点において、神の国のリアリティが浮かび上がってまいります。

子供は礼拝中、なるべく静かにさせ、大人の礼拝を邪魔しないようにさせるだけなら、子供を神の国の交わりから排除することにもつながります。「世代の多様性」という神の国の大事な一要素をかき消して、神の国のリアリティ（現実感）を貧弱にさせることにもつながります。

子供たちが、「自分たちも礼拝者として主イエスから招かれている」事実を意識し、大人と一緒に主の御声に耳を傾け、主を賛美するなら、そこに、肉の目では見えない神の国が、鮮やかなリアリティ（現実感）をもって浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

（大会教育委員会委員）

## 「イエスの喜びに仕える努め」

—ルカによる福音書10章21～24節による説教—

吉田隆（仙台教会牧師）

そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。

「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。

これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、

幼子のような者にお示しになりました。

そうです、父よ、これは御心に適うことでした。」

（ルカによる福音書10章21節）

神の国の福音を方々に伝え歩いた72人の弟子たちは「喜んで」帰ってまいりました(10:17)。ところが、その喜びの中に何か不純な、つまりは自分を誇るような喜びがあったようなのです。イエスは「むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」とおっしゃいました(20節)。福音を伝える者は、伝道の成果そのものよりも（それは主の御業です！）自分が救われていることの喜びを保ち続けるように、ということです。福音が単なる情報ではないからでしょう。それは人の中で、そして人を通して「生きて働く言葉」となる必要があるからなのでしょう。

そのとき、イエスが聖霊によって喜びにあふれたというのが、今回取り上げた御言葉です。「聖霊によって」とは、要するにこの世ではなく“神の”ということです。この世の人々がほくそえむ喜びとは違う、神の喜びとは何なのでしょう。イエスに満ち溢れた天上の喜びとは、いったい何だったのでしょうか。

一つは、「天地の主である父」がなさった御業に対する喜びです。

「これらのこと」とは、おそらく、弟子たちが伝えていた福音のことです。この福音が「知恵ある者や賢い者」には隠され、「幼子」に示

された（啓示された）ことをイエスはお喜びになりました。

幼子（「のような者」は原文にはない）とは、何も自分ではできない、あるいは社会的に弱く無力な人々一般を指しています。弱く無力であること自体がよいわけではありません。けれども、そのような人々にとって、イエスがお語りになった救いの言葉はより素直に“福音”として受けとめられたということなのでしょう。

神の国の福音なのですから、それこそ優れた人々だけが理解し受け入れる“高級な教え”と考えられなくもありません（教会にはそのような傾向がいつの時代でもあります）。ところが、それが神の願われたことではなかった。むしろ右も左もわからないような（わかる状況にないような）人々にこそ、「父」の心は示される必要があった。これが神の知恵であり「御心に適うこと」だとイエスは言われたのです。

クリスマスの夜、野宿をしていた羊飼いたちのもとに「大きな喜び」を告げると言って天の御使いたちが歌い交わした賛美を覚えておられるでしょう。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人々にあれ」(2:14)。この天と地を満たす神の栄光、神の御心。それが今「幼子」たちの上に実現していることを見て、クリスマスの主は喜んでおられる。

天地の主であればこそ、喜びの無い場所・喜び得ない境遇にある人々に光をもたらすことを意志され、それを実現なさる。その見事なまでの神の御業に、イエス御自身が喜びにあふれておられるのです。

第二に、イエスの喜びは、幼子たち自身に対する喜びだということです。

多くの預言者や王たちでさえ見ることも聞くこともできなかったこと(10:24)を、「あなたがた」は今見ており聞いていると言われました。それがイエス御自身であり、その御言葉です。

とは言え、当時、イエスを目にした者たち、その御言葉に耳にした者たちは何千何万といたことでしょう。しかし、そこに神の御業・神の啓啓を見て信じる者は多くはありませんでした。そのような澄んだ目、まっすぐにイエスを見つめて着いて来る、そのような「目」こそ幸いだといイエスは言われたのです(10:23)。

問題は、いつの時代に生きているか、どのような環境に生きているかでなく、そのような「目」を持っているかどうかです。それは、強い者賢い者が砕かれ、弱い者愚かな者が尊ばれるという、人間的に考えればまことに逆転した神の知恵を見抜く目です。

教育をテーマにした文学作品には、壺井栄の『二十四の瞳』や灰谷健次郎の『兎の眼』等、“目”に関わる作品が多いように思われます。前者は子供たちの、後者は教師の眼差しをそれぞれテーマにした作品ですが、それらは決して一方通行の眼差しでないことは言うまでもありません。教育とは、互いに向き合い、その眼差しが交差する人格的な関係があればこそ成立する営みだからです。

つまり、「わたしを見ているあなたがたの目は幸いだ」とおっしゃったイエスの御言葉には、それに先立つ主御自身の眼差し、無力な「幼子」を見つめる「父」の眼差し抜きに考えることはできないということです。

つき従ってきた人々は、主イエスが御自分のものにしようと思われ集められた人々です。知者や賢者ではなく、幼子のように、否、まさに無力な幼子として集まって来た私たちがイエスはずっと前から見つめておられた。そうして集った私たちが「本当に、よく来た！」と誰よりも喜んでくださっているのは、実は、主御自身であるということなのです。

日曜礼拝の子供説教の時に、毎回、「今日も来てくれてありがとう！ 神様もとっても喜んでいらっしゃると思いますよ」と言っています。子どもたちは「どうしてわかるの？」と言うのですが、これは何も勝手な思い込みによるリップサービスなのではありません。神様・イエス様が本当に喜んでくださっている。私たちのような「幼子」たちが教会に集まって来ることを本当に喜んでくださっている。喜びにあふれておられると思うからなのです。

自分の存在が誰かに喜ばれているということ。そういう確信を持つことは大切なことです。それがたった一人でも、自分がいるだけでその人が喜んでくれるなら私たちは生きていけるでしょう。そうであれば、天地の造り主であられる神様が私の存在を喜んでおられるとしたらどうでしょう。永遠の神の御子であられるお方が、御自分の命を捨てても惜しくないほどに私たちの存在を大切にしてくださるとしたら、喜んでくださるならどうでしょう。

# 高知教会教会学校の紹介

久保浩文（高知教会牧師）

## 1. 普段の活動

高知教会教会学校は、毎主日午前9時30分より10時まで、主日礼拝の始まる前の30分をあてています。

内容はつぎのようなものです。

- ①こどもさんびか
- ②主の祈り
- ③カテキズム

2000年より約3年間、つのぶえ社「初歩教理問答」、その後、稲毛海岸教会「らみいカテキズム」、2005年より、中部中会「子どもカテキズム」を使用。

一週につき1問または2問を教師と生徒が交読し、教師が解説を加えます。

### ④お話

数年前までは、『成長』（CS 成長センター）のカリキュラムに従って話をしていましたが、現在は、旧約聖書、新約聖書を通して、天地創造から始めて契約思想を主軸として族長物語、出エジプト、カナンの占領など、聖書物語のトピックを取り上げて話をしています。

そのときに工夫していることは、小学校低学年、幼稚科に該当する生徒のことを考えて、視覚に訴えつつ話すことです。主題と一致する聖書物語や紙芝居の挿絵を見せながら、出席者の最年少の生徒にわかてもらえるように言葉をかみ砕いて目をみながら話すようにしています。

### ⑤紙芝居

④のお話を紙芝居で代用することもあります。出席者の顔ぶれによって、別のさ

らにやさしい内容の紙芝居をすることもあります。

### ⑥献金

### ⑦聖句入りの出席カード

低学年の生徒に読んでもらいます。できれば、次週までに暗唱してくるように勧めます。わずか一節の短い聖句でも、記憶力のよいときに暗記させることで、御言葉が蓄えられていきます。私自身、平井教会（現 高松東教会）の教会学校出身ですが、小学生の頃に覚えた聖句は、今でも鮮明に脳裏に残っています。「キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。」





高知教会

平時は、中学生、小学生併せて3名の生徒ですが、時折、小学校低学年2名が出席します。生徒は、いずれも契約の子どもたちのみです。分級も一時期、考えたこともありましたが、分級した場合の教師の人数の確保の面から、行っておりません。

将来的には、信仰告白適齢期の子どもには、最初と終りのプログラムは同じにして、途中からカテキズムを中心とした準備会クラスを設ける予定にしています。

## 2. 特別な活動

2001年から2005年まで、毎月第四土曜日、午後2時から3時ごろまで「お話会」を開いていました。牧師の子どもが、各々学校の友だちを誘ってきて、平均7名～10名ほど集まっていました。クリスマスには、20名位集まったこともありました。私の妻が、主として、絵本の読み聞かせをしていました。

もちろん、教会の行事ですから、お祈りをして始め、お祈りで終わっています。途中、子どもさんびかも歌います。絵本または紙芝居の一

つは聖書物語、もう一つは一般的な名作とか、子どもに聞かせたい話を選びました。



現代っ子は、テレビ、ビデオに慣れているので、紙芝居というと、少し興味がわくようです。一つの話自体は、各々、十分弱なので、ざわつくことなく、集中して聞いてくれました。食い入るようにして、身を乗り出して聞いている子どももいました。終りに、出席カードにシールを一枚貼って、一杯になったら（十二回来れば）クリスマスプレゼントに準じて、マグカップや皿などをプレゼントしていました。毎回無欠席で来てくれていた子は、毎年何か記念品がもらえていました。

残念なことに、高知市は特に、進学熱心な所で、小学校高学年になると、中高一貫の有名私立学校に入るための受験進学塾に通い始める子が、クラスの大半を占めます。

私の長女が小学5年になったころから、こういった事情で、これまで、本人も楽しみにして熱心に通ってきてくれていた子どもが、土曜日に塾に行くようになり、足が遠のきました。2歳下の次女の友人も同様で、5年生ころから、急に出席者が減少しました。

私が、毎日の夕刻の犬の散歩時に、たまに、以前通って来てくれていた子どもに出会うこともあります。会うと挨拶はしてくれますが、教会に再び足を向けることは、困難なようです。「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。」とい



う聖句が思い起こされます。今は無理でも、かつて幼き日に教会に行ったことがあるという体験を、いつの日にか思い出して、どこかの教会に足を運んでくれるであろうことを祈り願いつつ、種まき伝道のつもりで奉仕させていただいています。現在は、年に一回か二回、イースターとクリスマスにお話をしています。

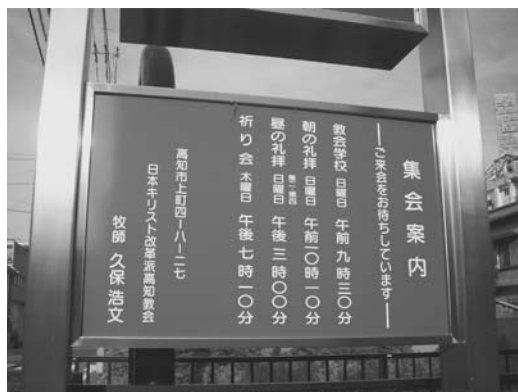


### 3. 将来に向けて

長期的なビジョンとしては、教会学校教師の養成です。子どもに聖書の話ができる、ということはすごいことです。かつて教会学校教師として奉仕して下さった方は、現在2、3名お

られますが、皆、高齢となり、ご奉仕は無理です。しかし、彼らの聖書理解と知識には、目を見張るものがあります。一朝一夕でできるものではないので、人材の養成が一番大きな課題だと思っています。それと、受験を控えている子どもたちにこそ、人生にとって何が大切かを、もっと積極的にアピールしていかなくては、と思っています。

以上、拙い奉仕の現状をお伝えしました。お読みくださった方で、何かご意見、提案がございましたら、よろしくお願いたします。



# 日本同盟基督教団のキャンプ宣教

辻浦信生（松原湖バイブルキャンプ ディレクター）

この度、日本同盟基督教団（以下、同盟教団）のキャンプ宣教について、紹介させていただけることに感謝いたします。

同盟教団には、現在、日高バイブルキャンプ（北海道・日高町）、浜名湖バイブルキャンプ（静岡県・湖西市）、松原湖バイブルキャンプ（長野県・小海町）があり、各キャンプ場が各キャンプ委員会の下で、プログラム・キャンプ（伝道と教育を目的としたキャンプ）を中心とした活動を展開しています。これらキャンプの働きは、同盟教団に与えられた霊的財産として、教団および諸教会によって支援されて来ました。今回は、最も歴史のある松原湖バイブルキャンプをモデルとして紹介いたします。

## 1. 教会に仕えるキャンプ

松原湖バイブルキャンプは、1951年に、アメリカ人宣教師ジョン・ショーン師が、日本においてイエス・キリストの教会を建て上げる働きを助けるために、キャンプをはじめたいというビジョンが与えられたことに端を発します。それ故、キャンプの働きは、設立当初から今日に至るまで、「教会に仕え」、「教会を建て上げ」、「教会と協力する」ものであることが貫かれて来ました。

毎年、春と夏と冬に開かれるプログラム・キャンプには、教団の枠を越えた全国各地の教会から、子どもから大人に至る、多くのキャンパーが集い、二泊三日から四泊五日のキャンプ生活の中で、魂の救いと信仰の成長へと導かれ、それぞれに信仰者としての決心を抱いて、教会に帰って行きます。



八ヶ岳を背にし、湖の畔に建つ新キャビン

松原湖バイブルキャンプには、湖の畔に位置する宿泊施設を拠点として行われるベースキャンプと、森の中であって、テントに宿泊し、キャンパーが自分たちで料理も行うアウトキャンプがあります。そこで、それぞれの特長を生かしたプログラム・キャンプを行っています。

ベースキャンプでは、施設を利用し、食事も提供されるため、整った音響設備の中でのメッセージ、様々な楽器を用いた賛美、そして思考を凝らしたプログラムを体験することができます。一方のアウトキャンプは、講師によるメッセージに加えて、ロッククライミングやアーチェリーや軽登山などの野外活動、また食事作りや後片付けなどの協同生活を通じて、信仰教育と人格教育を目指しています。

2007年の夏季キャンプに参加したキャンパーは、ベースキャンプとアウトキャンプを合わせて701名（内訳、小学生391名、中学生96名、高校生31名、その他183名）でした。そして、それらのキャンパーの内、主イエスを信じる決心に導かれた人が109名、救いの確信を得た人が52名、洗礼を受ける決心をした人が107

名、献身の決心に導かれた人が46名、信仰を再確認した人が210名、その他の決心（毎日デポーションをする。友人に伝道する。休まず礼拝または教会学校に出席するなど）に導かれた人が95名でした。このように、毎年、多くのキャンパーが教会から送り出されてキャンプに参加し、信仰的な決心に導かれ、そして、またそれぞれの教会に送り返されて行くという協力関係にあります。

毎年、キャンプの後に、教会からのお便りが届きますが、そこには、キャンプ以後、「子どもたちの教会生活が活き活きとしたものになった。」「喜んで賛美をささげるようになった。」などの嬉しい報告が記されています。キャンプを通して、子どもたちがこのような変化を見せるのには、やはり、それなりの理由があり、そこにはキャンプが有している効果やメリットが実を結んでいると言えるでしょう。では、キャンプが有している効果やメリットとは何か。それは、松原湖バイブルキャンプの理念と目的の中に見出すことができます。



軽登山を楽しむキャンパーとスタッフ

## 2. 松原湖バイブルキャンプの理念と目的

いく度かの改訂を経て、松原湖バイブルキャンプの理念は以下のように表されています。そしてここに、クリスチャン・キャンプとは何が定義され、続く目的と合わせて、キャンプの効果とメリットが整理されていると言えます。

### ○松原湖バイブルキャンプの理念

「松原湖バイブルキャンプの存立の使命は、神が造られ支配される自然環境の中で、みことばの養いとキリストを頭とした共同生活を通し、人々の救いと育成に努め、献身者を生み出すことにより、世界に広がる教会に仕え、神の栄光を現すことである。」

(2001年改訂)

キャンプとは、日常生活を離れ、自然の豊かな環境に身を置き、自然に親しむことが第一の要素ですが、私たちクリスチャンにとっては、創造主の御業である自然環境を通して、主の偉大さや恵みの豊かさを覚え、賛美へと導かれます。

そして、その非日常性と、創造主の御業を身近に感じる環境において、聖書のみことばに親しみ、説教を聴く中で、普段の生活とは違った強さ・深さをもってみことばに養われ、聖霊に取り扱われるのです。今日の社会において、子どもたち・青年たち・大人たちを取り巻いている環境は、罪への誘惑と、霊性を損なわせる情報や刺激が溢れています。そのような場から離れて、テレビも、ゲームも、パソコンも、そして出来れば携帯電話もない環境に身を置き、ゆったりとした時間の中で、山を間近に見上げたり、木々に囲まれながら鳥のさえずりに耳を傾けたり、木立を渡る風の心地よさを感じるだけでも、十分に意義のあることです。更にそこに、みことばの養いが加わり、朝のデポーションや、じっくりと時間を費やしながらか聴く説教、そして、仲間たちとの分かち合いによって、魂の救いと信仰の成長がもたらされるのです。このような営みの中で、毎年、多くのキャンパーが、主からのチャレンジを受け、決心へと導かれています。

### ○松原湖バイブルキャンプ（以下「MBC」）の目的

上記の理念に基づき、以下の七つの目的が掲

げられています。そしてここに、キャンプの持つ有効性とメリットを見出すことができます。

### ①福音による救霊

「MBCは、みことばの説教を中心とし、証し、実物教育および野外活動を通して、人々がイエス・キリストを知り、救い主として受け入れ、従うために活動する。」

松原湖バイブルキャンプが、プログラムの中で最も大切なものと位置づけているのは、ゴスペルタイムと呼ぶ、講師の説教を中心とした集会です。それは毎晩開かれ、講師を通して30分～1時間の説教が語られます。そして、期間中一度は必ず主イエス・キリストの十字架と復活が語られ、未信者であるキャンパーが主イエスを信じて魂の救いを得ることを目指しています。また、すでに信仰を持っているキャンパーには、救いの確信が更に強められるように、またキリストの弟子として確かな歩みができるように、みことばによる導きと励ましが行われています。

その他、ハイキングやロッククライミングやアーチェリーなどの野外活動も、単なる楽しむためではなく、信仰的な養いの機会として位置づけ、体験を通してみことばを学べるように工夫しています。



小学生キャンプの集会の様子

### ②霊的成長

「MBCは、神の御業である豊かな自然環境の中で、人々が、礼拝、賛美、みことばの学びと実践、デボーション、祈り、聖霊に満たされた生活、宣教の証しにおいて成長するためにある。」

プログラム・キャンプでは、毎晩持たれる集会で、その年の主題聖句をもとにしたテーマソングをはじめ、たくさんの賛美がささげられます。同世代の仲間たちと共に歌う賛美の喜びは、普段なかなか大きな声で歌うことをしない中高生をも、次第に生き活きと主を賛美する者へと変えていきます。そして賛美が生き活きとささげられるとき、霊的な雰囲気も整えられ、キャンパーの心も、主に対し、またみことばに対して開かれて行き、霊的な実を結びます。特に、中高生にとっては、受洗の決心や献身の決心をする貴重な機会となります。

また、一つのキャビンまたはテントに一人ずつカウンセラーが付き、5、6名のキャンパーと寝食を共にしながら、生活と信仰面での指導を行ない、キャンパーの決心と霊的成長を助ける働きを担っています。

### ③奉仕者の育成

「MBCは、各種の奉仕およびその学びと訓練の機会を提供することにより、教会およびキャンプにおいて用いられるキリスト者の育成に努める。」

プログラム・キャンプのためには、講師、リーダー、サブリーダー、ミュージックスタッフ、プログラム・ディレクター、カウンセラー、ナース、グランドワーカー、キッチンワーカー、オフィスワーカーといった様々な奉仕があり、教職者、教会スタッフ、神学生、社会人、大学生、そして、グランドワーカーとキッチンワーカーは高校生以上が奉仕に参加しています。

これらすべての奉仕者が、キャンパーの救いと信仰の成長のために奉仕し、グランドワーカーやキッチンワーカーといった裏方の奉仕者たちも、毎日30分間、祈禱室でキャンパー全員の名前を挙げながら、その救いと信仰の成長のために祈ることになっています。また、夜には奉仕者のための集会があり、そこでもキャンパーや奉仕者のために祈る時を持っています。そして、各プログラム・キャンプの最終夜に行われるキャンプファイヤーには、奉仕者全員でキャンパーが語る証しを聞くことを大切にしています。そこでキャンパーの決心や証しを聞くことによって、人の魂を救いに導かれる主の御業を覚えることが出来ると同時に、人が救われることの素晴らしさを味わい、またそのために奉仕することの喜びを知ることが出来るのです。そのような中から、献身の召しを受け、神学校に進む人が多く起こされて来ました。また、それぞれの教会において、主に仕え、教会に仕える人たちにとっても、良い訓練の機会となっています。また、インターンシップ・プログラムという奉仕者の訓練プログラムがあり、奉仕をしながら一日一回の講義を聞き、教会およびキャンプにおいて用いられる奉仕者となるための心得を学ぶ機会を提供しています。



キャンプファイヤーの祝福を祈るグランドワーカー

#### ④宣教への献身者を生み出す

「MBCは、宣教へのチャレンジを通して、日本と世界の宣教に献身する者を生み出す。」

キャンプの集会の中で、福音宣教のために献身することへのチャレンジと招きがなされます。また時には、帰国中の宣教師による宣教報告会を開いて、キャンパーが国外宣教に関心を持てるように働きかけています。

#### ⑤キリストにある交わり

「MBCは、クリスチャン・リーダーのもとの心身ともに安全な共同生活を提供し、人々がキリストを中心とした生活と交わりの喜びを体験するためにある。」

キャンプは楽しいものです。しかし、そのためには、心身ともに安全が確保されている必要があります。身体の安全は、病気やけが、事故に対する注意が払われ、守られていることですし、心の安全は、不必要な緊張や不安、また疎外感などから守られ、自分の存在が受け入れられているという安心感や周りの人からの愛情を感じ、喜んでそこで過ごせることを指しています。特に私たちクリスチャンの場合は、その交わりの中心に主イエス・キリストがおられ、主の十字架の愛と赦しが交わりを支え、潤してくれます。そんな主にある交わりの中で送られる協同生活を通して、キャンパーは愛される喜びを知り、また人を愛することや赦すことを学ぶことが出来るのです。

#### ⑥教会に仕える

「MBCは、宣教と教会形成に役立つ活動および環境と施設の提供をもって諸教会に仕える。」

松原湖バイブルキャンプは、プログラム・キャンプの開催だけでなく、諸教会に施設を貸

し出し、食事やその他のサービスを提供し、教会キャンプや修養会の会場として用いていただくこともできます。そして、一般の宿泊施設にはない、霊的に整えられた環境とサービスの提供をもって、教会に仕える働きを担っています。

### ⑦神の栄光を現す

「MBCの全ての活動および豊かな自然環境と施設は、神の栄光を現すためにある。」

プログラム・キャンプの開催やサービスの提供も、また豊かな自然環境を保全することや、施設を維持・拡充することも、宣教のためであり、教会に仕え、そして神の栄光を現すためにあります。

### 3. クリスチャンキャンプの今日的意義

世の終わりの兆候が色濃くなっている今日の社会は、間違った情報や有害な刺激や誘惑が

溢れています。そして、子どもも大人も多くの物に囲まれ、便利さの中にありながら、しかし、忙しさに流されて日々を過ごしているのではないのでしょうか。そのような状況にある時こそ、普段の生活を離れ、ゆったりと時間をとって、自然に親しむ環境に身を置くことが必要だと思います。

私たちクリスチャンは、この天地を造られた神を、「我が主」「我が父」と親しく呼び求める特権にあずかっているのですから、クリスチャンこそ、もっと主が造られた自然の雄大さ、美しさ、心地良さを楽しむべきですし、そのような環境にあって、主と向き合い、じっくりとみことばを味わい、霊肉共にリフレッシュすることは実に有益です。教会学校の働きでも、伝道と教会形成の働きにおいても、キャンプの効果とメリットを活かすことは、救霊と信仰の成長のために大きな力となるものなのです。

(日本同盟基督教団東御キリスト教会牧師)



# 副読本再発行のお知らせ

## 『主は羊飼―中高生のための教理入門―』

価 格 800円  
著 者 木下裕也

(名古屋教会牧師・教会学校教案誌編集委員・神戸改革派神学校講師)

再刷発行いたしました。ぜひお買い求めください。ご注文は教案誌編集部まで。

### ❶ 人生の目的―神礼拝

もうかなりのお年になってから教会に通い始められた方と聖書の学びをしていたときのことです。そのときまたま一緒に、ウェストミンスター小教理問答の問1を読みました。その問いは「人のおもな目的は何であるか」です。

この問いを読まれて、その方はつばやくようにおっしゃいました。わたしはもう何十年も生きてきたのに、人生のほんとうの目的などということを考えてこともありませんでした、と。

人生の目的とは何か。このことをはっきり知っているのと、知らずにいるのでは、やはり生きかたが大きくことになってくるのではないのでしょうか。

さまざまなことが人生の目的になり得ます。お金をもうけること、地位や名誉を得ること、仕事で成功をおさめること、熱烈な恋愛をすることなどです。これらのことは人生にある幸せをもたらすでしょう。

けれども一方で、そのどれもが不確かです。お金は一瞬にして失われることがあります。地位や名誉を得たとしても、たった一度のあやまちでそのすべてを棒にふることもあります。熱烈な恋もさめることがあります。とすれば、これらはいずれも人生の究極の目的とはなり得ないでしょう。

さらに、私たちの命そのものも不確かなのです。明日この地上に生きているという保証を、私たちはだれひとり持たないのです。

では、私たちはついに人生の確かさ、人生のほんとうの目的を見出すことはできないのでしょうか。

いいえ、私たちは人生の真の目的を知ることができます。ほんとうに確かで、生きがいのある命と人生を生きることができるのです。

もういちどウェストミンスター小教理問答の問1を見ましょう。

問 人のおもな目的は何であるか。

答 人のおもな目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことである。

もうひとつ信仰問答を見ましょう。ジャン・カルヴァンの手になるジュネーブ教会信仰問答の問1はこうです。

問 人生の目的は何ですか。

答 神を知ることです。

人生の目的は神さまを知り、神さまの栄光をあらわし、神さまを喜ぶことにあります。すなわち、神さまを礼拝することこそが人生の真の目的なのです。

人生の確かさは私たち自身の中にはありません。私たち自身何かを頼りにしているかぎり、私たちの人生は不確かです。

けれども神さまは確かなお方です。神さまこそ私たちの人生のゆるぎなき土台、岩、命のとりでです。なぜなら神さまは天地の造り主であられ、私たちの命の与え手であられ、この世界のいとみと私たちの人生の歩みのすべてをみ手のうちに握っておられるお方だからです。

## 『教会学校教案誌』発行のための 自由募金のお願い

教会のかしらなる主イエス・キリストの御名をあげます。

中部中会日曜学校委員会（2007年4月中部中会第一回定期会で教育委員会から改組）は、日本キリスト改革派教会をはじめとする改革・長老主義諸教会の教会学校・日曜学校教育に資することを目的として、『教会学校教案誌』を発行しています。2001年4月に始まり、すでに満7年となり、第31号まで発行して参りました。中部中会では7割ほどの教会により採用され、改革派教会全体でもおよそ60教会で採用されています。大会教育委員会もご支持を表明してくださっています。皆様のご支援に心からの感謝を申し上げます。

『教案誌』の発行は中部中会の事業として行われておりますが、中部中会日曜学校委員会では、あわせて皆様からの自由募金によってご支援いただきたいと願っています。子どもたちの信仰教育のために、ぜひ皆様からのお祈りと募金のご支援をいただきたく、よろしく願い申し上げます。教案誌を購入していただきやすくするために、教案誌の頒布価格を印刷・製本単価ぎりぎりにおさえています。『教案誌』をご購入くださることも発行のための支援となりますので、ご購入いただくことによってもご支援くださいますよう、お願いいたします。

目標金額	30万円
送金先	郵便振替 伊藤治郎
	00890-2-148183

※通信欄に「教案誌のための自由募金」と明記してください。



聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例

---

「見分けること」(12:56)、「何が正しいかを判断すること」(12:57)という流れを受ける形で「悔い改める」ということが言われている個所です。すでに洗礼者ヨハネの働きを「逆らう者に正しい人の分別を持たせる」(1:17) こととして語っていたルカ福音書は、「正しい者たちが復活する」(14:14) という主イエスの発言を経て、最後に十字架の前の百人隊長が「本当に、この人は正しい人だった」(23:47) と言うところまで、一貫して「何が正しいか」を示そうとし、それを復活の命と結ぶかたちで語っています。主イエスのお姿を見て、また主イエスの呼びかけを聞いて、わたしたちが「悔い改める」ことが「命」とのつながりで語られています。

ルカ福音書は1章からすでに、来るべきイエス・キリストの御業を「罪の赦しによる救い」(1:77)と要約していました。その「罪の赦し」を得るためにはどうしたらよいのかということも、すでに3章で「罪の赦しを得させるための悔い改めの洗礼」(3:3) という凝縮した言葉遣いで言っていました。マタイ福音書によれば洗礼者ヨハネの説教も主イエスの説教も、同じ「悔い改めよ。天の国は近づいた」(マタイ3:2、4:17)と、悔い改めへの招きとして要約されています。

ルカ福音書の主イエスは、わたしたちが特に心に刻まなければならないことがらを、ほとんど同じ言い方を畳み掛けるように繰り返すことによって教えてくださっています(たとえば6:32以下、6:37以下など)。

今日の個所でも2節と4節で同じ言い方を繰り返すことによって主イエスが特に重要なこととして教えてくださろうとしていることは3節と5節

で繰り返される「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」というただ一つのことです。滅びることのない「命」への道は「悔い改め」の道ただ一つであることが強調されています。

「ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜた」という意味ははっきりしませんが、ピラトがガリラヤ人(複数)を殺し、その血をユダヤ人が神殿で捧げる犠牲の動物の血に加えた、つまり犠牲が捧げられる同じ時に、あるいは同じ場所で、理不尽にも数人のガリラヤ人を処刑した、ということではないかと考えられます。歴史家ヨセフスはポンテオ・ピラトの非道ぶりを伝えていますが、このような出来事は語っていません。「シロアムの塔が倒れて18人が死んだ」ということも、聖書のこの個所以外にはデータがありません。しかしいずれにせよ、どちらの場合も、ゆえなき災いに遭った人々のことが言われています。ゆえなき不幸や試練をどう考えるか。それを罪ゆえと考えるというのがこの御言葉の背景にある常識的な考え方でした。彼らが「そのような災難に遭ったのは、ほかの人よりも罪深い者だったからだと思うのか」と、主イエスは時代の常識を問題にされました(ヨハネ福音書9:1以下も参照)。その切り口から、たとえそのような災難に遭わなくても、わたしたち全員が神の怒りに値する罪人であると言われ、わたしたちが目の覚めるような仕方で、悔い改めの必要を教えてくださいました。そしてそれは「命」への招きに他ならないのです。

主イエスの語られたアラム語では「悔い改める」という言葉は父なる神さまのもとに「帰る」という意味です。(赤石純也)

## カテキズム 子どもカテキズム 問20

## 子どもカテキズム

問20 あなたも神さまの怒りを受けなければなりませんか。

答 はい。私も神さまの怒りを受けなければなりません。

「あなたも神さまの怒りを受けなければなりませんか」と(何の脈絡もなく)突然聞かれると、「さあ、どうかなあ」とか、「えっ? そういうことになってるの?」と戸惑ってしまうかもしれない。何を問われているのかが、ピンと来ないのだ。そういう意味で、これほど不可思議な問いはない。言葉遣いの難しさもあるであろうが、内容について言えば、子供たちにとって、自分が神さまから怒られねばならないとは、夢にも思わぬことだろう。少なくとも、いまこの時、よもや神さまが、この私のことを怒っているとは思えないのだ。こういう経験は、子供たちにもあることだろう。何かよく分からないけれども、親や先生や周りの大人が自分のことを怒ってて、こっぴどく叱られてしまった。一応、許してはもらえたようだけれども、意味が分からない。これは、大人たちも感じていることである。「何で私が怒られなきゃならないんだ!」? そう思うことは、時々あるもの。大人になれば、ある程度、そういう事態に対する処し方は身に着けているものだが、子供たちはまだ術を知らないことが多い。それで、戸惑ってしまうというわけだ。

それに、親や先生などから、十分に愛を注いでもらえなかった子供にとっては、周りの人たち(特に大人)から気に入ってもらうことは、何にもまして重要課題である。そういう子供にとって、自分が神さまからも怒られて、嫌われてしまうことは、あまりにも恐ろしいことである。そこで、何とか機嫌を直してもらおうと、最大限のエネルギーで、良い子を演じ始める。そうでなければ、

身が持たないから。

こういうことを考えながら、問20に接すると、語り方に気をつけねばならないことを肝に銘じさせられる。つまり、神さまが怒りを向けているのは、あくまで罪に対してであって、この私という存在そのものは、深く愛して、受け入れてくださっているということを、忘れないようにせねばならない。そうでないと、怒り=嫌われた・愛されていない、という構図が出来上がってしまう。しかし、この問いが、また聖書が語っているのは、私たちが神さまから、とても善いものに造ってもらったのに、それを私たちの方で裏切って、台無しにしてしまった、ということである。その責任は人間にあるが、それでも、神さまは人間を見捨ててはいないし、その証拠に、墮落したばかりのアダムとエバに、神さまは早くも救いを約束してくださった。それだから、子供たちと共に、この問いに接する時には、大前提には、神さまから深く愛してもらっているということがあって、愛しているからこそ、罪の言葉や行いに対して、厳しく怒るのだ、という枠組みを、見失わないようにしないといけない。そんなことを思う。

そうして初めて、子供たちは、神さまと周りの大人たちの変わらぬ愛に囲まれながら、ようやく、「はい。わたしも神さまの怒りを受けなければなりません」と答えることができる。それは、まず大人たちが、先頭を切って、この言葉を告白してくれるからだ。信仰の先達に助けられてこそ、告白できる言葉であろう。(梶浦和城)

テキスト            ルカによる福音書 13章1～5節  
カテキズム        子どもカテキズム 問21

### 〔単元のねらい〕

第31号は、集中的に救い主イエス・キリストを学びます。その歩み全体が、降誕祭のよき準備となることと思います。日曜学校にとって、とりわけ教理を主題にしたカリキュラムにおいて、主イエスを紹介することにまさって大切なことはありません。聖霊なる神が、私どもを通して、子どもたちの心の中に、イエスさまへの愛を灯し、燃やしてくださいますように。

今朝は、神の怒りを語ります。ここが不明確であれば、罪人であるということの深さや深刻さ、そして何よりも赦しの恵みの深さや尊さがぼやけてしまいます。つまり、福音の輪郭がぼけるのです。ただし、神の怒りと裁きを語るときこそ、私どもの福音理解が問われます。福音として神の裁きを語る、そこでこそ、主イエス・キリストの恵みを語るができるはずです。神の怒りを受けなければならない私のために、御子が受けてくださった。そこに現された神の怒りの厳しさと愛とを、聖霊なる神のお働きを信じて、語りましょう。

## 「神さまの怒り、私を通り過ぎ、イエスさまに」

皆さんは、「わあ、怖い！ きゃあ、怖い！」って叫ぶような経験をしたことがありますか。実は、先生が小学校の3年生のとき、とても怖い経験をしました。それは火事です。ちょうど晩御飯を食べていたときのことで。「火事だあ！」という声がありました。なんだか煙の臭いがしました。なんだろうと思っていると、その内、すごい音がするのです。それは、メラメラと木が燃える音です。「火事だ、外に逃げなさい」とお母さんに言われました。外に出るときは、玄関からでますね。靴を履くためにもです。ところが、廊下の向こうから火が走って来るのです。本当にびっくりしました。後は、詳しく覚えていません。気づいたらお兄ちゃんとはだして、外に出ていました。隣の家から火が出て、先生の家だけではなく、何軒もの家が丸焼けになってしまいました。怪我をしたり亡くなった人はいませんでしたが、先生は、一年間、アパートで暮らすことになりました。

こんな経験をしたことのある人は、珍しいと思います。でも、車の事故とか大地震とかの被害にあった人は、少なくありませんね。実は先生は、子どもの頃、「どうして、自分たちだけがこんな

災難に遭うのだろうか、本当に不幸だな」と考えていました。

さて、今日のお話は、ちょっと怖いですね。ユダヤ人を支配するためのローマの総督ピラトが、ガリラヤに住んでいたユダヤ人たちを殺してしまいました。さらに、その血を彼らの神にいけにえとして捧げる動物の血に混ぜたというのです。何かの「みせしめ」のためかもしれません。それにしても、なんてひどいことをするのでしょうか。

その恐ろしいありさまを、イエスさまに知らせに来た人たちがいました。青ざめた顔をしながらも、ポソッとこう言ったのかもしれません。「あの人たちがあんなに酷い殺され方をしたのは、やっぱり特別に重い罪を犯していたからでしょうか、特別に罪深い人たちだったからかもしれませんね」するとイエスさまは、真剣なお顔で、こう仰いました。「決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」

恐ろしい知らせを告げに来た人たちは、自分たちとは関係がないことだと思っていたのかもしれ

ません。

確かに僕たち私たちも、事故や事件で誰かが死んでも、家族や親戚、友達や知り合いがいなかったら、ほとんど心が動かないと思います。けれども、イエスさまは、そんな僕たち私たちに、このように仰います。「他人事ではありまへんよ。自分たちのこととして考えなさい。」僕たち私たちがそのような苦しい目、恐ろしい目に遭ってしまってもおかしくなかったのだということです。

イエスさまはさらにこうも仰いました。「あなたがたも神さまの前に、罪を悔い改めなければ、皆、同じように滅びます。」これはどういう意味なのでしょう。僕たち私たちは、ああ、事故や災害に遭った人を横目で見て、心のなかで、言うかもしれません。「ああ、運が良かった。助かった。」確かに、良かったでしょう。今日も皆がここに来てくれることを先生は、どれほど嬉しく思っていることでしょう。でも、僕たち私たちにそのようなことが起こらなかったなら、「そんなの関係ない」って、言って済むのでしょうか。

今朝のお話の一番大切なことを一緒に学びたいと思います。先週のおさらいですが、子どもカテキズムの問19をもう一度見てください。「あなたは罪人ですか。はい、わたしも神さまの御前に罪人です。」そして今日は、問20「あなたがたも神さまの怒りを受けなければなりませんか。はい、私も神さまの怒りを受けなければなりません。」神さまの前に罪人は、神さまの正しい裁き、正しいお怒りを受けることは当然のことです。罪や悪を、見て見ぬふりをするようなカミさまなんて、真の神さまでは決してありません。正しい神さまは、すべてをちゃんと見てくださり、裁かれるのです。それが、聖書の神さまです。

それなら、僕たち私たちは、今、神さまのそのような怒りを受けていますか？ 受けていませんね。でも人間には、死んだ後に、必ず神さまの審判、裁きを受けることが定まっています。それなら、僕たち私たちもやっぱり、死んだ後に神さま

の裁きを受けて、永遠の滅び、地獄の裁きを受けるのですか？ 違います！ 僕たち私たちは、決して受けません。いいえ、丁寧に、正確に言いますよ。僕たち私たちは、もうすでに神さまの怒りと裁きを受けてしまったのです。

「エー、そんなことありえない。」と思いますか。でも、神さまは、もうすでに、罪人に対する裁きと怒りを現してしまわれました。それは、どこにでしようが。イエスさまの十字架の上に、です。天のお父さまは、独り子のイエスさまを僕たち私たちの代表にして、身代わりに、罪の刑罰の永遠の死を与えられました。イエスさまは、天のお父さまの独り子、罪のないきよいお方なのに、罪人として、天のお父さまの怒りと裁きを受けてくださったのです。

その恐ろしさは、廊下に火が走って、裸足で逃げ出すときなどと、比べることはできません。そればかりか、これまで世界中で起こったどんな恐ろしい災害や戦争や殺人も、イエスさまが受けられた神さまの怒りの恐ろしさと比べることはできません。イエスさまを信じている僕たち私たちは、決して神さまのこの怒りを受けることはありません。神さまの怒りは、僕たち私たちを通りこしてイエスさまに与えられたからです。そのイエスさまは三日目によみがえらされました。

「やったー」ですね。救われて喜びに溢れることができる僕たち私たちだからこそ、罪を犯すと、どれほど、神さまが悲しまれ、憤られるかが分かります。ですから、イエスさまに心から感謝する人は、天のお父さまの前に、熱心に悔い改め、神さまに喜ばれるように、罪と戦って生きることができるのです。そして、事故や災害にあったり、国や学校や家庭が原因で苦しんだり悲しんだりしている人のために、そんなの関係ない、なんて思わず、イエスさまがなさったように、自分のことのようにお祈りしましょう。今、幸せに生きられるのは、ただ神さまの憐れみによってなのだ、心から感謝しましょう。(相馬伸郎)

---

[今週の暗唱聖句] ルカによる福音書 13章5節後半

言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。

---

## 〈ねらい〉

幼児には難しいが、神の怒りに値する自分であることをしっかり教えよう。この取り組みが、救いの豊かさ・恵みへの深い感謝につながる。

## 〈展開例〉

アキラ君はお父さんと遊園地に出かけました。お父さんとふたりで出かけるのは初めてだったので、ウキウキしました。途中でポテトチップスをひと袋買ってもらいました。歩きながらすぐひとりで全部食べても、空っぽの袋を道にポイと捨てても、お父さんは何も言いませんでした。遊園地の乗り物の前には長い行列ができていてすぐには乗れそうにありません。待つのがいやだったアキラ君は、前のほうにこっそり入って並ぼうとしました。それでもお父さんは何も言いませんでしたが、よそのおじさんに「ダメだよ、ちゃんと並ばないと」と叱られました。

もし、こういうお父さんがいたらみんなはどう思いますか。「いいなあ、全然怒らないお父さん」。それとも「ぼくのこどもちゃんを見てくれるのかなあ。ひょっとして乗り物からぼくが落ちても

ただ黙って見ているだけかも知れない」。どう思いますか？ みんなのことを大切に思っている人は、お父さんでもお母さんでも幼稚園の先生でも誰でも、みんながお行儀の悪いことをしたり、間違ったことをしたら叱ります。みんなを愛しているからです。

前に習ったように、わたしたちは誰に教えてもらわなくても嘘を言ったり、お友だちに意地悪をしたりごまかしたりしてしまいます。たとえママや先生やお友だちに見つからなくても悪いことは全部神さまが知っていらっしゃいます。そういう罪があるかぎり、神さまは悲しまれ、怒っておられます。それは誰もどうすることもできません。お父さんだって助けることはできません。恐ろしいことです。でもこれは、神さまがわたしたちを愛していてくださる証拠でもあるのですよ。

## 〈お祈り〉

天の父なる神さま、ぼくやわたしに罪があること、それを誰も消すことができないことを悲しく思います。どうぞ助けてください。イエスさまによって、アーメン。

## 〈やってみよう〉

「こどもよどこをみてる」の1節をみんなでうたいましょう！

(いのちのことは社、『ふくいんこどもさんびか』22番)

- 教師も初めてのさんびかでしたら、旋律を口ずさめる位までにしておきましょう。  
覚えやすいメロディです。

## こどもよどこをみてる

Old Melody  
Arr. by H. D. L.

1. こどもよどこをみてる --- こどもよなに  
をみてる --- きをつけなさいてん  
からみてる おかたがいるのですよ

Copyright 1944 by Singaporean Inc. All rights reserved.  
Used by permission.

**〈ねらい〉**

みんな神様の裁きに価する存在であることを自覚する。しかし、悔い改めることによって、「永遠の罰」から「永遠の命」という大転換が起こる。それはイエス様がわたしたちの代わりに罰をすべて受け、よみがえってくださったからであることを覚え、子どもたちを悔い改めと感謝に導く。

**〈展開例〉****○誰でも神様の怒りに価する**

テレビを見ているとたくさん怖いニュースがありますね。強盗や殺人を犯した人が警察に捕まって、牢屋に入れられたりして罰を受けます。お店からお菓子やおもちゃなんかを、お金を払わないで持って行ってしまう子どももいます。それももちろん捕まって、子どもとして罰を受けることになります。

そういう事件を見て、「自分はああいう悪いことはしてないから、罰を受けるなんて関係ない」と思うかな。確かに警察にはお世話になったことがないかもしれない。でも、聖書は、警察につかまるような悪いことをしてなくても、だれもが受けなければいけない「罰」があることを教えています。すべての人は「罪」を持っていて、すべての人はこの「罪」のために神様の恐ろしい罰を受けなければならない、と教えています。

これは、「ぼくには関係ない」とは絶対に言えないことです。ここにいるみんなが、大人も子どもも、赤ちゃんだって罪をもって生まれてきているから、神様の怒りを受けなければならないんだよ。だから誰でも神様の前に「ごめんなさい」と自分の罪を認めて悔い改めないといけないんだね。

**○罰から祝福への大転換**

みんなが悪いことをすると、お父さんお母さんに怒られるよね。「お昼ご飯はなしだよ」なんて罰を受けたりもする。素直に自分が悪かったことを認めて「ごめんなさい」とあやまったら、「よし、

赦してあげる。でももうやっちゃダメだよ」と言われるだろうね。でも、あやまったからといって、大好きなおもちゃを買ってもらえとか、遊園地につれていってくれるとか、そんなことはきっとないだろうね。

ぼくたちには「罪」があって、いつも神様を悲しませてしまう。神様の罰は「お昼ご飯はなし」というような、ちょっと我慢すれば大丈夫という罰ではない。「永遠の苦しみ」という恐ろしい罰を受けなければならない。そう聖書は教えている。けれども、それだけではない。とても驚くことが教えられている。もしぼくたちが「神様、ぼくはあなたを悲しませてしまう罪人です。赦してください」と言って悔い改めたら、ぼくたちの罪を赦してくれるだけでなく、「永遠の命」まで神様はくださるんだよ。悪いことしているぼくたちがあやまるのは当然なのに、神様からプレゼントをもらえる。神様は「永遠の命」という最高のプレゼントをくださると約束してくれる。どうしてだろう？

それはイエス様のおかげなんだ。イエス様がぼくたちの受けなければいけない神様の怒りと罪の罰を全部十字架で受けて死んでくださったから。そして、イエス様は死んでから三日目によみがえられた。つまりぼくたちが神様に「ごめんなさい」とあやまったら神様が赦してくれるのも、「永遠の命」をいただけるのも、みんなイエス様のおかげなんだよ。この十字架と復活のイエス様を信じることが、悔い改めになって、そして永遠の命につながっていくんだよ。感謝してお祈りしよう。

**〈祈り〉**

神様、ぼくたちはあなたの目に罪人です。ごめんなさい。でもイエス様がぼくたちの代わりに罰を受けてくださったことをありがとうございます。そしてイエス様の命という素晴らしいプレゼントを感謝します。

✠ 聖書をひらいて (ルカによる福音書 13章1~5節)

⇒

カ	ミ	ク	サ	マ	ピ	ノ
イ	ホ	イ	ガ	リ	ラ	ヤ
シ	ロ	ア	ム	ノ	ト	ウ
カ	ビ	ラ	レ	リ	ヲ	ウ
ケ	ル	タ	サ	イ	ナ	ン
ナ	ケ	メ	ル	エ	レ	バ
ナ	リ	マ	エ	ス	セ	ン

☞今日の聖書箇所に出てきたことばが、8つかくれています (タテ・ヨコ・さかさま)。そのことばをぬりつぶすと、文が出てきます。何と書いてあるのかな？

(ピラト・ガリラヤ・イエス・さいなん・くいあらため・ほろびる・シロアムのとう・エルサレム)

✠ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒「わたしは、飼育係の時、ウサギのエサをやり忘れたのに『やりました』と、ウソをついたことと、お母さんにたのまれたお使いのおつりをごまかして、もらってしまった以外は、あまり悪いことをしていません。それでも、『くいあらため』なければ、『ほろびる』のですか？」(M子・10才)

✠ 言ってみよう (ひらがなを入れてね)



問20  
あなたも神さまの怒りを受けなければなりませんか？

はい。わたしも、神さまの□□□を受けなければなりません。

✠ やってみよう ワン・ツー工作 「フーメランを作ろう」

☞イエスさまの語られた「くいあらためる」ということばは、父なる神さまのもとに「帰る」という意味です。

- ①画用紙をY字形に切ります。
- ②手のひらのはしにのせて、指先ではじき飛ばします！



✠ 今週の暗唱聖句 (ルカによる福音書 13章5節後半)

言っておくが、あなたがたも□□□□□□なければ、皆同じようにほろびる。



〈ねらい〉

1. 「神様の怒り」について考える。

神様が「優しい方」、「憐れみ深い方」というイメージはとても大切だが、同時に、神様は罪に対して絶大な怒りを示されるということをしっかりと教えたい。

2. イエス・キリストの十字架に神の怒りを見る。

神様の怒りは、何よりも「イエス・キリストの十字架の死」によって示されている。ご自分の独り子の貴い命によらなければ和らげることができなかったほど、神様の罪に対する怒りは大きかった。

3. イエス・キリストの贖いによって神様の怒りが和らいでいることを伝える。

罪（罪人＝私たち）に対して神様は本当にお怒りになっていたが、イエス・キリストを信じる時に、完全にその怒りが取り除かれていることを

しっかりと伝えたい。

〈子どもカテキズム〉

問20：あなたも神さまの怒りを受けなければなりませんか。

答：はい。私も神さまの怒りを受けなければなりません。

〈展開例〉

1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

2. 生徒と一緒に考える。

Q. 神様が怒ることってあると思う？

Q. 何に対して神様は怒ると思う？

Q. 神様の怒りはどんな怒りだろう？

Q. 今、私たちにも神様は怒っているだろうか？



あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる

テキスト エフェソの信徒への手紙 2章1～6節

1節から3節までの主語は「あなたがた」か「わたしたち」かのどちらかです。人間が主語である限り、その動詞は「死んでいた」であり「罪を犯して歩んでいた」でしかありませんでした。ところが4節以下の主語は「神」です。最初の動詞は「愛してください」です。神がわたしたちを愛してくださいだったことがすべての始まりです。それに続く、「わたしたちを生かし」「復活させ」「王座に着かせてくださった」という3つの動詞にはすべて「その愛によって」が掛かっています。わたしたちに対する神の救いのみわざはすべて「愛による」ものです。カルヴァンは「愛のみが神を動かした」と言っています。

ただし、1節の「あなたがた」と3節の「わたしたち」は区別されている可能性があります。1章11節では「わたしたち」は「前もって定められ」「以前からキリストに希望を置いていた」ユダヤ人である「わたしたち」として考えられていて、続く13節で「あなたがたもまた」信じたのだと、異邦人である「あなたがた」が考えられています。その後で初めてその両方を受けて14節で「わたしたちは贖われて神のものとなった」と、ユダヤ人と異邦人を合わせた「わたしたち」になっています。それと同じように2章1節の「あなたがた」は異邦人、3節の「わたしたち」はユダヤ人、その後で初めてその両方が合流して4節の「わたしたち」になっている可能性があります。そうだとすると、1節で「あなたがたは死んでいた」と言われたのが5節では「死んでいたわたしたち」になっているわけですから、結局は同じことです。実際1・2節で「あなたがた」に関して言われている内容と、3節で「わたしたち」に関して言わ

れている内容は、同じことがらの言いかえとも考えられます。

愛せないわたしたちを愛してくださいる行為主は神であり、死んでいるわたしたちを生かしてくださいる行為主は神です。

「この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者」とありますが、「この世の支配者」という言葉は悪魔をさすものとしてヨハネ福音書で何度も使われています(12:31、14:30、16:11)。パウロも「信じようとはしない人々の心の目をくらまし」ているものを「この世の神」と呼んでいます(コリント二4:4)。わたしたちの「目をくらまし」、「過ちと罪」にいざなう悪魔的な力が空中には満ちていると考えられていたようです。信じようとはしない不従順さにある限り、わたしたちはそのようなこの世的な霊の力に引きずられて「過ちと罪」に陥り続けるしかありませんでした。その「過ちと罪」の状態にあったわたしたちは「死んでいた」のです。

その状態が「罪」ですから、ユダヤ人であろうと異邦人であろうと、わたしたちはすべて神の怒りに値します。だれであろうと「ほかの人々と同じように」「神の怒りを受けるべき者」なのです。神は正しい方ですから、この罪をうやむやにされることはありません。そこに贖い主の必要性が出てきます。十字架によってその必要を満たし、「死んでいたわたしたちをキリストと共に生かしてください」行為主は神です。わたしたちは神から「命」をいただきました。それはわたしたちが主語である限り手に入れることのできなかった新しい命なのです。(赤石純也)

## カテキズム 子どもカテキズム 問21

## 子どもカテキズム

問21 神さまは、あなたもほかの人も、罪人を滅びるままにお見捨てになりましたか。

答 いいえ、ちがいます。

神さまは、神の民となるように、最初から私たちを選んでくださいました。

罪から救い出してくださるあがない主を、与えてくださったのです。

先の問20に引き続いて、神さまが人を見捨てるということもまた、子供たちにとっては、想像すら出来ないことではないだろうか。問20のように、人に対して怒るということはあるけれども、見捨ててしまうなどは、神さまのイメージに合わない。神さまはそんなお方じゃないはずだ、そんな思いが真っ先に心の中に浮かび上がってくるに違いない。だから、問21の聞き方にも、動揺を隠せなくなる子供もいることであろう。どうして、大人はそんなことを平気で考えるんだろう。神さまはみんなのことを愛しているはずじゃないの？ そう反発もしたくなる。その人が、神さまから見捨てられないように、何とかしてあげられなかったの？ そう聞いてくる子供もいるかもしれない。ともかくも、大人も一緒になって、揺るがされてしまうような問いだと思う。大人たちが見過ごしにしていること、いや昔は真剣に問うていたのに、今はもう動揺することすらなくなってしまったこと、それを子供たちは、真っ直ぐに問ってくる。即ち、見捨てられるということの、理不尽さとあまりの悲しみと極限の恐怖を、である。それならば、「神さまは、あなたもほかの人も、罪人を滅びるままにお見捨てになりましたか」などと、あぐらをかきながら、冷静になど聞いていられないはずだ。イエスさまと共に、「父よ、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と問わずにはいられない。旧約聖書の神の民と共に、「例え私たちがあなたに悪いことをしてきたとして

も、あなたの御名の故に、私たちを滅ぼさないでください」と詰め寄らずにはいられないはずだ。その真剣さの中でしか、この問いに向かうことはできないと私は思う。第三者の立場で、まるで何かの童話でも読んでもらっているようにして、「ねえ、お母さん、この悪い人たちは、その先どうなっちゃったの？」と聞いているわけではないのだ。そんな風に、お話を読んでくれていたお母さんやお父さんが、自分を捨てて、どこかに行方不明になったとしたら、泣き叫ばない子供がいるだろうか。それほどのが、ここで起きているのである。

しかるに、その理不尽さとあまりの悲しみと極限の恐怖は、強い確信と大なる喜びと確かな安心へと変えられる。天の父なる神さまの独り子であるイエスさまが、その後に関わり続ける数多くの子供たちを助けようと、私たちの全ての罪を被って、命を捨ててまで、神さまからの懲らしめを一身に引き受けてくださったから。このお方に、「イエスさま、ごめんなさい。本当は私たちが叱られなきゃいけないのに、代わりに罰を受けてくださって、本当にありがとうございます」と言って謝るなら、もはや怒られることとか、見捨てられることとかを心配する必要はない。未来永劫、決して揺るぐことのない確かな愛を、私たちは手に入れたからだ。この深きキリストの愛に、子供たちと共に浴するものでありたい。 (梶浦和城)

テキスト エフェソの信徒への手紙 2章1～6節  
カテキズム 子どもカテキズム 問21

### 〔単元のねらい〕

自分の罪と過ちによって神との交わりを失って霊的に死に、肉体の死後には滅ぼされるべき私たちが今、イエス・キリストによって永遠の命に生かされ、神の子とされ、栄光の神を賛美する特権にあずかっています。すべては永遠の神の選びであり、予定の恵みです。それはまた子どもたちにも与えられた恵みです。私たちは今、彼らとともに礼拝に招かれ、特に説教者は、神の奥義としてのイエス・キリストにある救いの恵みを語る光栄を与えられています。徹底的に神の恵みによって救われた私どもであること、神のこの上ない愛がイエス・キリストにおいて現された事、この愛を受け入れ、信じることへと招きましよう。

## 「イエス・キリストによって神の子」

今日も、愛する皆さんと一緒に神さまの前に出て、礼拝することができることを心から感謝します。礼拝することの出来る僕たち私たちがほど幸せな人間はいません。神さまを礼拝することこそ、人間の最高の喜びです。そしてとっても当たり前のことなのです。

どうしてでしょうか。神さまは、人間を神さまのかたち似せて創造されましたね。神さまと交わりをすることができる人間、つまり、神さまとお話ができる人間として作られたからです。

ですから、人間は、すべての生き物の中で最高傑作です。人間は、神さまのような美しさやきよさをもっていたわけです。ところが、最初の人間、アダムさんとエバさんはそのままのままでいることができずして、悪魔であるへびの誘惑にまんまとのせられ、神さまの掟を破って、自分を神さまであるかのようにふるまってしまったのです。人間は人間であって、神さまではありません。神さまに従うことが人間の特権であって、自由なのです。それがもともとの人間なのです。しかし、神さまの掟を打ち捨ててしまったとき、人間は人間であることをやめてしまったのです。つまり、神さまとの正しい関係を壊しました。

もちろん人間は、犬や猫のようになってしまったわけではありません。その姿、形や能力などは、

最初の美しさやよさを失ってしまったのですが、なお、残っています。でも、人間は、神さまとの関係を逆さまにしようとして、本当に、「逆さまなもの」になってしまいました。

逆さまなものというのは、たとえばなら、人間は足で立ち、歩きますね。それが自然ですね。腕で立ち、歩くことは不自然ですね。逆立ちができるお友達もいるでしょう。けれどもどんなに得意でも、腕で100メートルも200メートルも歩いて行ける人はいません。

ところが罪を犯した人間は、逆立ちしながら歩くような、そんなおかしい生き方をしてしまうことになったのです。神さまを信じない、従わない人は、そんな逆さまなことなのです。逆さまに生きている人は、生きることが苦しいはずで、空しいはずで、つらいはずで、でも、それが当たり前と思っているから、まさに逆さまなのです。

しかし、神さまに感謝します。天のお父さまはそんな僕たち私たちを、お見捨てになられません。神さまは、もう一度、人間を、まことの人間に新しくしよう、取り戻そうとしてくださったのです。

それなら、神さまは、どのようにしてそうなさるのでしょか。先生は、人間を土のちりから簡

単にお造りくださる神さまだったら、神さまに逆らったアダムやエバを、ただちに罰して、つまり減ぼしてしまって、もう一度最初から、やり直してしまうこともおできになられたと思います。ところが、神さまは、アダムとエバさんを減ぼしてしまわれませんでした。彼らを、愛し続けてくださったのです。けれども壊れてしまったことには変わりありません。いったいどうやって、天のお父さまは、人間を新しくなさるのでしょうか。

皆さんは、ガラスの工芸品や陶器を作っているところを見たことがありますか？ ガラスの工芸品を作る人は、びっしょり汗をかきながら、ガラスに息を吹き込んで、思いどおりの形を作り出します。陶器なら、土を丁寧に何度も何度もこねて、よい土にします。そして、ろくろをまわして、思いどおりの形をつくります。もちろん、簡単ではないかもしれませんが、上手な人なら、できます。ところが、どんなに上手に作品を作る人であっても、自分の造った繊細なガラスを粉々に壊してしまった後で、もう一度それをもとの形に戻すことはどうでしょうか。二つや三つ、四つや五つに割れてしまったのなら、瞬間接着剤で元通りにできるかもしれませんね。一つひとつの破片がどのものだったのかが分かるくらいであれば、時間をかければ何とかなる、かも、しれません。しかし、こなごなになったら、もう無理です。最初から作り直した方が、全然、早いですし、きれいです。

アダムさんが罪を犯してしまったということは、信じられないくらいに精密につくったガラス人形を、粉々にしてしまったようなことなのです。神さまは、どのようにして、もともとのすばらしい形を壊した人間を、新しく取り戻されるのでしょうか。

なんと、神さま御自身が人間になられるという方法です。天のお父さまは、御子なる神さまを、人間にされるのです。これこそ、奇跡のなかの奇跡です。まことの神さまは、決して目に見えませ

ん。ですから、その神さまが、目に見えるものになる、人間になるなんていうことは、ありえないことです。

また、まことの神さまは、天と地をお造りになられた神さまは、大きな、偉大な神さまですから、天地の中におさまってしまいません。神殿だけではなく、この地球の中だけでもなく、壮大な宇宙の中にだって、神さまをおいれすることなどできません。そのような神さまが、ちっぽけな人間になる。すごいことです。けれどもそのすごいことを神さまがしてくださったのです。御子なる神さまが、人間となってくださったのです。それがイエスさまです。そして、イエスさまは、罪人の身代わりに十字架で死んでくださり、わたしたちの罪を贖ってください、私たちを天のお父さまのもとに取り戻してくださいとくださったのです。こうして逆さまな人間、神さまから離れて、霊的に死んでいた人間は、神さまの命、永遠の命を受けて生きる人間、神さまの子どもにさせていただけるのです。

ところが、人間は、その独り子イエスさまを、十字架につけて殺してしまいました。神さまの計り知れない愛に対して、人間は、反対に刃を向けたのです。天のお父さまは、「そんな恩知らずの人間なんか、もう容赦はしない！」と減ぼしてしまわれてもよいのではないですか？ところが、神さまは、そんな私たちを愛しぬいてくださったのです。イエスさまを、死人の中から復活させてくださったのです。これが、神さまです。神さまのこの上ない愛です。その愛は、今朝も、僕たち私たちに注がれています。

今、心から「天のお父さまありがとうございます。イエスさまを信じます」と礼拝しましょう。神さまを信じる人は、自分のことを心の底から神さまに大切にされた神さまの子どもと認めることができます。自分を心から愛し、自分自身を大切にしましょう。そして、お友達をも愛し、大切にしましょう。 (相馬伸郎)

---

[今週の暗唱聖句] エフェソの信徒への手紙 1章5節

イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。

---

## 〈ねらい〉

教会へ続けて来ていると、感化を受けて、だんだん良い子に変化するのではない。贖い主との出会いなしに、的はずれな生き方から救われる道はない。

## 〈展開例〉

皆さんは弓を知っていますか。ずっと向こうにある的をめがけて弓を力一杯引いて当てるのです。的が前にあるのに後ろに弓を引く人はいません。反対のほうに飛んでしまうからです。そんなのはわかりきっていますね。

ところが、聖書のお言葉を読んでいると、「罪人」というのは、ちょうど全然違う方に弓を引いている人のことだと書いているのです。どんなに一生懸命お勉強をしても、お仕事をしても、的とは反対のほうに弓を引いているような生き方ですよ、と言っているのです。ちゃんと的をめがけて弓を引けるようにするにはどうしたら良いのでしょうか。それは、どんなにぼくたちわたしたちが頑張ってもその方法はわからないのです。ちょうど目の見えない人が迷子になったようなものです。公園

に行きたかったのに全然反対のほうに歩いてしまったら、どんなに一生懸命歩いても公園には着きません。でも「公園はあちらですよ。連れて行ってあげましょう」と言って連れていってくれる人がいれば、もう大丈夫です。

的と反対のほうに弓を引いたり、公園と反対への道を一生懸命歩いたりしているわたしたちに、こっちですよ、と教えてくれる人がどうしても欲しいです。そうでなければ元気な体も、お勉強も、お稽古も何の役にも立たず、つまらない毎日になってしまいます。わたしたちを罪から救ってくださる方が必要なのです。それがイエスさまなのです。イエスさまは神さまからわたしたちへのプレゼントです。

## 〈お祈り〉

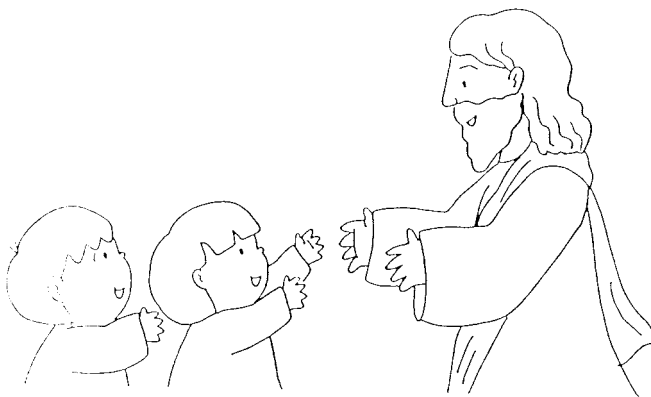
天のおとうさま、迷子になっていたぼくたちわたしたちを助けるために、イエスさまをくださってどうもありがとうございます。これからもよろしく願います。イエスさまによって、アーメン。

## 〈やってみよう〉

## ぬりえをしよう！

下の絵を適当な大きさにコピーし、色を塗りましょう。

救いの手を差し伸べてくださる主イエスさまとわたしたちです。



**〈ねらい〉**

神様が、御子イエス・キリストをなぜこの地上に送らなければならなかったのか、その理由について考えてみたい。→わたしたち人間は皆、最初の人間アダムがもたらした罪のために「生まれながら神の怒りを受けるべき者」(エフェソ2:3)であることについて確認し、キリストはその神の人間への怒りを身代わりとなって受けてくださり、わたしたちをその罪から解放するために来られたということが分級でわかりやすく伝えられたらよい。

**〈展開例〉**

今日は、神様がどうして御自分の大切な御子であるイエス様を、わたしたちのところに送ってくださり、そればかりか、その方を十字架にまでかけてしまわれたのかについて一緒に考えてみたいと思います。

皆さんは、アダムさんとエバさんが、神様のご命令を守らずに、取って食べてはいけなと言われていた禁断の木の実を取って食べた、というお話を知っていますね。そのように、神様の御言葉を守らないで、自分勝手な行動をとることを「罪」と言います。今日の聖書箇所で言うならば、皆さんにはすこし難しい表現かも知れませんが、「肉の欲望の赴くままに」とか「肉や心の欲するままに」(2:3) 行動することを「罪」と言います。「お友だちとけんかをしたり、うそをついたり、盗んだり」(子どもカテキズム問18) することも「罪」を犯すことであり、神様がとってもお嫌いになることです。

アダムさんとエバさんがその食べてはいけなと言われていた木の実を取って食べたのは、たった一回のことでしたが、神様はそのことをとってもお怒りになりました。そして、アダムさんとエバさんを、そのとき住んでいたエデンの園から追い出してしまわれました。そして、アダムさんと

エバさんはもうそこに二度と帰ることは許されませんでした。

神様はアダムさんとエバさんのことを怒っただけではありませんでした。神様はその後の人間みんなに対してお怒りになったのです。そして、わたしたち人間は生まれたときからアダムさんやエバさんの「罪」を背負って生きていくことになりました。そしてわたしたちも含めて人間みんなが神様からの怒りを受けねばならなくなり、神様から見放された者として生きていかねばならなくなったのです。

しかし、神様は人間を完全に見捨てることをせず、大切な御子イエス・キリストをこの地上に送ってくださり、その方を十字架につけて血を流させることによって、神様の人間への怒りを代わりに受けるようにされました。イエス様がわたしたちの受けるべき怒りを受けてくださったのです。本来ならば、わたしたちが十字架にかかって「神様、ごめんなさい」と言って、自分たちの罪の償いをせねばなりませんでした。イエス様が代わりに神様の怒りを受けてくださったのです。

神様は、本当は、わたしたち人間のことをとっても愛しておられ、いつまでも怒りの対象にしておきたくなかったのです。そして、神様はわたしたち人間が贖い主であるイエス様を「信じる」ことそのことだけによって、罪の中から救い出してくださいます。

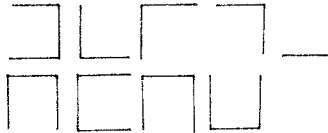
**〈祈り〉**

天の父なる神様。御子イエス様を、わたしたちのところに送ってくださり、ありがとうございます。そのお方が十字架で死んでくださったので、わたしたちはあなたからの怒りを受けずにすみました。そしてわたしたちの生まれながらの「罪」が赦されました。あなたの慈しみ深さに心から感謝して、イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

✠ 聖書をひらいて (エフェソの信徒への手紙 2章1~6節)

解読書		
ヨ	ス	グ
メ	ル	ノ
ニ	デ	ミ

暗号文



✠ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒ ぼくは、サッカー部で毎日夜遅くまで練習しています。毎日練習しないと、うまくなれないし、レギュラーメンバーに選んでもらえないからです。それと同じように、神さまの子どもとして選ばれるためには、毎日どんな努力をしたらいいのですか？ (R男・11才)

✠ 言ってみよう



神さまは、あなたも他の人も、罪人をほるびるままにお見捨てになりましたか？



神さまは、神の民となるように、最初から私たちを選んでくださいました。罪から救い出してくださる□□□□□□を、あたえてくださったのです。

✠ やってみよう「ルーツをたどる！」

☞ 今朝も、分級のお友だちと、神さまを礼拝できましたことをとてもうれしく、神さまに感謝します！今ここにいる、ぼくたち・わたしたちがどうして(どうやって)、ここに(教会)みちびかれたのか、教えてくださいませんか？(たとえば、「両親が来ているから(お母さんは、おばちゃんが教会に来ていたから)」「○○さんにさそわれたから(○○さんは、□□ちゃんにさそわれたから)」など)……！)

✠ 今週の暗唱聖句 (エフェソの信徒への手紙 1章5節)

イエス・キリストによって□□□□□□にしようと、御心のままに 前もって おさだめになったのです。



## 〈ねらい〉

## 1. 罪を犯した私たち人間に、救いの道が与えられていることについて考える。

私たち人間が罪を犯して神さまから離れた時、罪に対する怒りをもって私たちを滅ぼしつくさなかったのはなぜだろうか。それは、私たちに対する憐れみの心であった。今、「イエス・キリストを信じるならば罪を赦し永遠の命を与えよう」と神様が言うてくださっているのは、神の深い憐れみの心によるということを伝えたい。

## 2. 神様が御子を私たちのところに送ってくださったことについて考える。

神様は、被造物にすぎない私たち人間の罪を赦しもう一度神の子にするために、なんと独り子であるイエス・キリストを救い主として地上に送ってくださった。これは、私たち人間の常識・理屈ではまったく考えられないことである。人間の思いはるかに超える神の愛と憐れみについて考えたい。

## 〈子どもカテキズム〉

問21：神様は、あなたもほかの人も、罪人を滅びるままにお見捨てになりましたか。

答：いいえ、ちがいます。

神さまは、神の民となるように、最初から私たちを選んでくださいました。

罪から救い出してくださいさる贖い主を、与えてくださったのです。

## 〈展開例〉

## 1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

## 2. 生徒と一緒に考える。

Q. 大切にしていたものが粉々に壊れてしまったことがあるだろうか？

Q. たとえば大切にしていたコップが粉々に壊れてしまったらどうするか？

Q. 一生懸命造った人間が罪を犯して神様から離れてしまったとき、神様はどんな気持ちだっただろうか？

Q. それでも人間のために独り子を送ろうと決めた神様の心を考えてみよう。



罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし

そのままでは永遠の滅びに至る私たちを救い出すために、天の父なる神様は救い主を遣わしてくださいました。

### 〈イエス様は「言」〉

年老いたヨハネが御霊の導きを受け福音書を記している。深い祈りと熟慮の中でイエス様を「言」といっている。「言」は新約聖書のギリシャ語でロゴス。言葉が軽い時代に生きている私たちですが、ユダヤ人の言語感覚は違う。旧約聖書の創世記は「初めに、神は天地を創造された」。更に「光あれ」と言われ、「こうして、光があった」（創世記1:3）と記している。神の言葉には本当に力がある。預言者イザヤは「神の口から出る言葉がご自身が望まれることを成し遂げ、使命を必ず果たす」と語っている（イザヤ55章）。ヘブライ語のダーバルは、言葉とか出来事と訳される。またヨハネがロゴス「言」を用いたのは、当時、多くの異教徒たちがロゴスという言葉を用いていたから。ロゴスには論理という意味もある。絶えず万物が流転する中にも秩序があり、ロゴスがあるからと考えていた。真の神様と真実の救い主を知らない人たちにも何としてもイエス様をお伝えしたいと願うヨハネは、一度聞いたなら忘れることが出来ないような言葉で「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」（1節）と語る。1～14節までに「言」という表現が13回もでてくる。「言」は受肉前のイエス様であり父と子と御霊の三位一体の第二位格。「父のふところにおられ」（18節）本当に深い愛の交わりの中、御心の全てを知り、「言」として私たちに啓示してくださる御方。

### 〈神の御子は受肉された〉

永遠から神と共におられる「言」である神の子（1節）が、肉となって私たちの間に宿られた（14節）。神としての御人格を持ち、神としての性質に、

更に人としての性質をとられた。「聖霊の力により処女マリアの胎に宿り真実の身体と、理性的靈魂をとって人となり、しかも、罪なくして彼女から生まれられた」（ウ小教理問答22）。私たちの間に宿られたとは、天幕を張って住むこと。昔、荒れ野を旅する神の民は幕屋で礼拝。そこで栄光の神様を礼拝しました。福音書記者ヨハネは、イエス様は、この世においでくださり神様のご栄光を現しておられ「わたしたちは、その栄光を見た」と言うのです。

### 〈わたしよりも優れた御方〉

このイエス様について声を張り上げて語っている人がいる。それが洗礼者ヨハネ。神から遣わされた人（6節）で、イエス様より半年前に誕生。まことに力強い悔い改めの説教をしていた預言者。多くの人が、このヨハネに注目し心ひかれていた。ヨハネは、自分に注目しないで欲しいと願う。声を張り上げ「わたしの後から来られる方は、わたしより優れている」と語る。更に「わたしよりも先におられたから」（15節）と、永遠から存在しておられる神であると語っている。そして、私たちは、このイエス様から恵みの上に、更に恵みを受けたのであり、私たちは皆、恵みを受けることができる（16節）と力強く証しする。それは、この御方が恵みと真理に満ちておられるから（14節）。「恵み」とは、受ける資格が全くない者への一方的な憐れみ。罪人である私たちに注がれる無償の祝福。罪の赦し、神の子の数に加えられ、神との交わりの回復、永遠の命の恵み、神の愛の中、生涯を希望をもって歩める霊的な祝福。「真理」とは、模型に対する実物。旧約時代にも、キリストの救いが示されていた。しかしそれは影、ひな形、模型。しかし肉をまわれ、実物としてお出でくださり、豊かな命の喜びに生かして下さっている。（西堀則男）

カテキズム 子どもカテキズム 問22

子どもカテキズム

問22 私たち、神の民のあがないの主はどなたですか。

答 私たちの唯一の主、イエス・キリストです。

イエスさまは、永遠の初めから御父より生まれた真の神さまです。

私たちの救いのために、聖霊によっておとめマリアより肉体を取り、真の人となってくださいました。

イエスさまは、真の神であり真の人であり続けてくださる二性一人格の神さまです。

「救い主」ならば、クリスマスに出て来る聖書の御言葉にもあるから、「あがないの主」と言われても、そもそも何のことなのか、さっぱり分からないという子供たちも多いと思われる。CSに集ってきてくれている近隣の子供たちがいれば、なおさらのこと、キリスト教の専門用語なので、見当も付かないのが普通である。大人であっても、これは難しい。だから、こういう言葉に直した方が、子供たちにはしっくりと来るかもしれない。「悪い思いの奴隷になってしまっていた私たちを、買い戻してくださった御主人様は、一体どなたですか？」と。昔、十字軍が派遣された時、純粋な信仰を抱いた少年少女たちが、その遠征に加わった時があった。しかし、現実には、夢見ていた幻想とはほど遠く、彼らの大半は不運にも、奴隷貿易の餌食となってしまった。もし、彼らのような、遠い世界の大人たちに売り渡されてしまった少年少女たちを、買い戻してくれる人がいたとしたら、どんなにか子供たちは喜んだことだろうか。それと同じことが、ここで問われている。

御自分の愛する子供たちを、奪い返してくださったのは、他ならぬ天のお父様の、たった一人の息子であるイエスさまであった。言ってみれば、王子のようなものである。天の大王は、愛する一人息子を遣わして、大切なたくさんの子供たちを、

犠牲を払って取り返してくださったのだ。しかし、それは、あまりにも大きな犠牲であった。彼は、自分の命を差し出して、私たちを助け出してくださいましたのだから。「王子」なるイエスさまは、神さまでもあるが故に、悪しき者から子供たちを奪い返す力を持っておられたが、同時に、子供たちを奪い返すには、子供たちと同じ人間でないという意味がないのであった。人間の子供と同じような存在でありながら、且つ、悪しき勢力から奪い返す力をも持ち合わせていないといけな。この両方の条件を満たしたのが、我らがイエスさまだというわけである。このように辿ってみてこそ、イエス・キリストの二性一人格という教理は、生き生きと子供たちの頭と心に迫ってくる（もちろん、大人たちにも）。実際、二性一人格とは、そのように理解しないと全く意味がない。哲学者たちや、いわゆる頭の良い人たちの、脳トレ問題ではないのだ。一人のイエス・キリストというお方の、どこまでが神で、どこからが人なのか、とか、100パーセント神でありつつ、100パーセント人間だというのは、どういう仕組みなのだろうか、とか、そういうことに足を踏み入れると、それこそ、迷宮に入っていくことになる。

彼は、頭の世界にだけ住む架空の人物ではなく、リアルに子供たちと交わりを持つとされる、生ける神なのだ。（梶浦和城）

テキスト ヨハネによる福音書 1章14～18節  
カテキズム 子どもカテキズム 問22

### 〔単元のねらい〕

今週は、キリストが二性一人格であられることを学ぶ。キリスト教の根幹を成す教理の一つであるが、子どもたちに正しく教えるのは必ずしもやさしくない。抽象的な教理として教えるのではなく、私たちの真の救い主、仲保者となるためには、どうしても真の神であると同時に真の人となる必要があったという、自らの救いとの関係で理解させることが大切であろう。

## 「まことの神・まことの人」

今日は、ヨハネによる福音書の1章の御言葉を読みました。特に14節の御言葉に目を留めました。

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」。この御言葉はクリスマスの時にしばしば読まれるものです。「言」というのがイエス様のことです。神の御子であられるイエス・キリストが、肉体をとってこの地上に生まれて下さったことを教えています。神と本質を同じくする御方、すなわち神御自身が肉体を取られたというこの教えは、当時の人々には本当に驚くべき教えでありました。

当時一般の人たちに受け入れられていた思想をギリシャ思想と言います。ギリシャ思想によれば、肉体は汚れたものです。肉体は精神の牢獄です。肉体が精神を閉じ込めている。ですから、精神は肉体という牢獄から解放されなければならないと考えられていました。ギリシャ思想にとっては、肉からの精神の解放が救いでありました。ですから、神様がその汚れた肉を取られたという主張は、到底受け入れられないものであったのです。

一方で教会は、旧約聖書を信じていたユダヤ教との厳しい対立にさらされていました。ユダヤ教にとって神様は高きにおられる見えない神です。大いなる偉大なる神です。ですからその無限なる神が、有限なちっぽけな一人の人となられたというのは、彼らにとっては神を汚す冒とく以外の何ものでもありませんでした。とても信じられないことであったのです。

このように当時の教会は、ギリシャ思想とユダヤ教との対立の中にありました。その中でヨハネは御子イエス様が肉を取られたこと、すなわち受肉を明確に語ります。この受肉の教理は、キリスト教の根幹に関わる最も重要な教えの一つです。受肉によってイエス・キリストが、「まことの神にしてまことの人」となられたのです。そしてこのことがなければ、私たちの救いはないのです。

私たちの救いは、ギリシャ思想が言う様に、精神を肉体から救い出すことではありません。救いとは、肉体と精神の両方を持った一個の人間全体に関わるものです。私たち一人ひとりの存在の全体が救われるのがイエス・キリストの救いです。自分の一部だけが救われるのではありません。精神や霊だけが救われるのでも、肉体の癒しだけが救いというのでもありません。自分の存在全体が救われ、神によって受け入れられ、そして救われた者として、具体的にこの世に生きることが許されるようになるのです。それが私たちの救いです。そしてそのためには、御子キリストの受肉がどうしても必要であったのです。

「言は肉となって」とあります。「言」とはイエス様のことですが、ヨハネによる福音書の1章1節にはこう書かれています。「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」。つまり、イエス様は初めからおられた方、つまり世界が創造される前から存在された方であり、父なる神様と共におられた、まさに神御自身であられました。

その神であられるお方が肉となられたのです。つまり、私たちと同じ人間となられたのです。しかし、ここで注意して欲しいのは、イエス様は肉を取られた時に、神であられることを捨てられたわけではありません。神様であることを止めて、私たちと同じただの人間になられたわけではありません。イエス様は、神としての性質を失うことなく、人間の性質も取られたのです。それが、イエス様が肉を取られたことの意味です。イエス様が人としてお生まれになったことの意味なのです。

聖書の神様は三位一体の神様であるということを知ることがあると思います。神様は唯一ですが、その神様には三つの人格があります。それが父なる神、子なる神、聖霊なる神です。イエス様は子なる神であり永遠の神です。そしてこの子なる神が、神としての性質だけではなくて、人間としての性質も取られたのです。三位一体の第二位格であられる神が、神としての性質に加えて人間としての性質を取られたのです。つまり、三位一体の第二位格という一つ的人格が、神性と人性という二つの性質を取られたのです。

これが二性一人格論と言われるものです。難しい言葉ですが、是非、覚えておいてください。そして何よりも大切なのは、このことによってイエス様は、私たちの確かな救い主になられたということです。つまり、イエス様は真の神であられると同時に、真の人間でなければ、私たちの救い主にはなれないのです。

もしイエス様が真の神であられても真の人間ではなかったならどうでしょうか。その場合、イエス様は私たちの身代わり、代表者となることはできません。キリストが人間であられたからこそ、私たち人間の身代わりとなることができたのです。キリストは私達の身代わりとして、人間として贖いの業をなしてくださいました。人間の犯した罪は、人間によってしか償うことはできません。

けれども、罪ある人間が、他の人の罪を償うことはできません。なぜなら、罪を犯した人は自分の罪の責任を負わなければならないのであり、まして他の人の罪の償いなどできないからです。イエス様は、受肉によって、罪のない正しい人間とされました。それゆえにイエス様こそ、真の救い主なのです。

ではもしキリストが真の人間であられたけれども、真の神でなかったならどうでしょうか。真の神であられなければ、決して全ての神の民の贖いを完全になすことはできません。神様は罪に対して怒られるお方です。私たち一人ひとりには罪人であり、神様の怒りと刑罰に価します。その私たちが受けるべき全ての怒りと刑罰を、イエス様は身代わりに受けられたのです。お一人の方が、どうして私たち一人ひとりがそれぞれに受けるべき神の怒りと刑罰を身代わりに受けることができるでしょうか。お一人の方がどうして、多くの人の罪の刑罰を担うことができるでしょうか。キリストが真の神であられなければそれは不可能です。キリストが神であられなければ、その贖いは不完全なのです。ですから、キリストはどうしても神であられる必要がありました。そして実際に神であられたがゆえに、私たちの救いを完全に獲得してくださったのです。

イエス・キリストは、真の神であり、真の人とされました。まさに、「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」のです。これ以外にわたしたちが救われる道はありませんでした。それゆえイエス様は私たちの真の救い主になるために、人となられたのです。

そしてこのイエス様が私たちの救い主として、十字架において贖いを成し遂げてくださいました。それゆえ私たちの救いは確かです。揺らぐことはありません。イエス様を信じる者は、本当に安心して生きることができるのです。(袴田康裕)

---

[今週の暗唱聖句]      ヨハネによる福音書 1章14節前半  
言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。

---

## 〈ねらい〉

キリストの「人性」について学びつつ、人間を救おうとされる神の熱意に触れる。

## 〈展開例〉

幼稚園でお弁当の時間、みゆきちゃんはとても忙しいのです。お隣のけんちゃんのお世話があるからです。けんちゃんは好き嫌いがいっぱいあります。それに食べるのがとっても遅いのです。今日はけんちゃんのきらいな人参が入っているののでいつもの倍くらい食べるのが遅くなっています。そういう時、みゆきちゃんはスプーンにすこしづつ入れて食べさせてあげます。「けんちゃんがんばって！」と励ましてあげます。でも最後には幼稚園の先生に「みゆきちゃんも早く食べようね」と言われてしまいます。みゆきちゃんのお弁当がまだいっぱい残っているからです。みゆきちゃんはやさしいとても良い子だけれど、先生やお母さんのようにはお友だちのお世話はまだ本当はできないのです。

アダムさんが人間の代表として神さまとの約束を破って罪が入ってきました。だから誰か代わり

に神さまにお詫びをして赦してもらわなくてはなりません。神さまに完全なお詫びができる人が必要でした。でもみんな罪があって代わりになれるような人はいません。ちょうどみゆきちゃんがお母さんの代わりになれないようにです。でも人間でなければ人間の代わりにはなれません。

それで、神さまは決心して、ひとり子のイエスさまを、人間と同じようにお母さんのお腹から生まれさせました。人間と同じように悲しいこと嬉しいことがいっぱいのイエスさまの33年間でした。お腹も空いたし、疲れたし、眠くもなりました。悲しくて泣きました。お友だちに裏切られることもありました。ただ一つ、罪は犯されなかったのです。だから人間の代表になって神さまにお詫びができました。それが十字架の死だったのです。十字架で死なせるために神さまはイエスさまを贈ってくださったのです。

## 〈お祈り〉

天のおとうさま、イエスさまをありがとう。ほんとうにありがとうございます。イエスさまによって、アーメン。

## 〈やってみよう〉

## パズルをしよう！

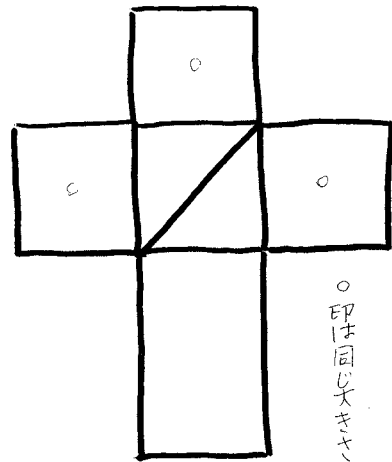
## ○準備すること

色画用紙（白も可）で大きめの十字架を作り、それを次のように六つのピースに切っておく。

長方形一つ、正方形三つ、二等辺三角形二つ。

これを一人分として人数分袋にでも入れて渡す。

各自で十字架のパズルを完成させる。



**〈ねらい〉**

真の人となられたイエス様を知る。

**〈展開例〉**

さて問題です。

「イエスさまは神さまでしょうか、それとも人間でしょうか？」

答えは両方とも○です。

イエスさまは神さまのたった一人の子どもとして、はじめからずっと神さまと一緒におられました。そして、みなさんがクリスマスのお話でよく知っているように、イエスさまは私たちと同じ人間の赤ちゃんとして、私たちのところに来てくださったのです。

私たちはいつも神さまを悲しませるようなことをしています。そんな私たちは、本当は地獄にみんな送られてしまうはずだったのです。ところが、神さまはとても優しい方ですから、私たちが天国に入れるようにしてくださいました。神さまは、ご自分のたった一人の子どもであるイエスさまを

人間の子どもとして、まず私たちのところに送ってくださいました。そしてイエスさまが私たちの代わりに苦しみを受けてくださったのです。（このことをあがないと言います。）十字架に架かってくださったのですね。

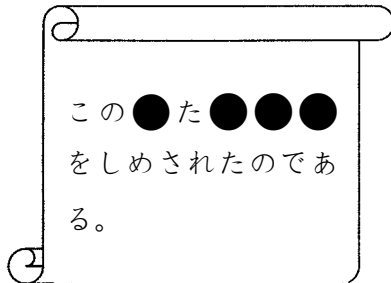
私たちの代わりにすることができるのは、私たちと同じように、ケガをしたら痛いと感じる人間でなければダメなんです。人形やロボットではダメなんです。そして、神さまを悲しませることが全くない人だけが、私たちの代わりにすることができるのです。真の神さまであるイエスさまが、そのために、人間となってくださったのです。

**〈祈り〉**

神さま、イエスさまが人間になってくださり、私たちの代わりに苦しんでくださったことをありがとうございます。神さまを悲しませることがない、神さまを愛する子どもとしてください。アーメン。



✠ 聖書をひらいて (ヨハネによる福音書 3章31～36節)



指令

「手紙にところどころ穴があいている。  
『かがみ』を使って、読め」



✠ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒ わたしは、人間であるお父さんとお母さんから生まれたので、人間です。イエスさまは、人間のマリアさんから生まれたので人間のように、聖書には「父のふところにいる独り子である神」(ヨハネ1:18)と書いてあるし、どちらが本当ですか？(K子・11才)

✠ 言ってみよう

問22

わたしたち、神の民のあがないの主はどなたですか。



私たちの唯一の主、□□□・□□□□です。

イエスさまは、永遠の初めから御父より生まれた真の神さまです。私たちの救いのために聖霊によっておとめマリアより肉体を取り、真の人となってくださいました。イエスさまは、真の□□であり真の□□であり続けてくださる二性一人格の神さまです。

✠ やってみよう

☞ 関係のある文章に線を引いてください

イエスさまは真の人・

・わたしたちの身代わりとなるため

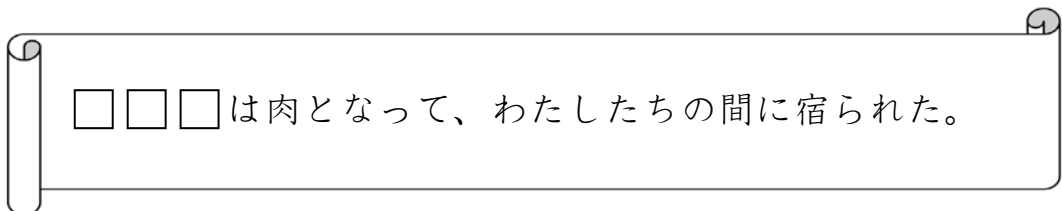
・すべての神の民を完全に救うため

イエスさまは真の神・

・人間の死の恐ろしさを身に受けるため

・罪をまったく持たないため

✠ 今週の暗唱聖句 (ヨハネによる福音書3章34節)





## 〈ねらい〉

## 1. イエス様が、真の人間であることについて。

イエス様は真の人間であったから、私たち人間の「身代り」になることができた。また、今も真の人間であるゆえに、私たち人間の弱さに心から同情してくださる。

## 2. イエス様が、真の神であることについて。

イエス様は真の神であったから、私たち人間の罪を完全に贖うことができた。また、イエス・キリストが今も真の神であるがゆえに、私たち人間はこの地上で何も恐れることがないとはっきり分かる。

## 〈子どもカテキズム〉

問22：わたしたち、神の民の贖い主はどなたですか。

答：わたしたちの唯一の主、イエス・キリストです。

イエス様は、永遠の初めから御父より生まれた真の神様です。

わたしたちの救いのために、聖霊によっておとめマリアより肉体を取り、

真の人となってくださいました。

イエス様は、真の神であり真の人であり続けてくださる二性一人格の神様です。

## 〈展開例〉

## 1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

## 2. 生徒と一緒に考える。

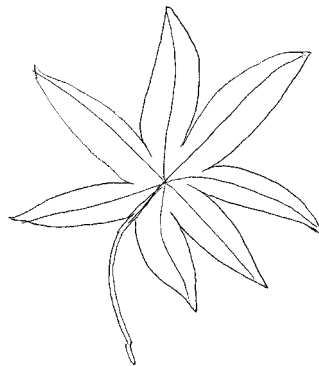
Q. 「二性一人格」ってどういう意味？

→ 神性と人性という二つの性質が、一つの人格の中にある。

Q. なぜ、イエス様は「真の神」で同時に「真の人」なの？

Q. もし、どっちかだけだったら、私たち人間の救いはどうなるのか？

→ 不完全な救いになる。



画家グリューネヴァルトは、十字架のイエス様を描いている。その傍らに立つ洗礼者ヨハネは、イエス様を指さしている。説教者、教会学校の先生は、指さす人と言える。

### 〈出所が全く違います〉

優れた人が世に出ると、その人が注目され持ち上げられることが多い。洗礼者ヨハネはイエス様を指さし「見よ、世の罪を取り除く神の子羊(1:29)と語り、ヨハネは自分の弟子たちにもイエス様を指し示した(1:36)。自分ではなく、あの方は栄え、わたしは衰えねばならない(3:30)とも言った。けれども多くの人たちは、なおヨハネに心ひかれていた。そのためヨハネは、イエス様と自分とは全く違うと言う。イエス様は上からであり、天から来られた御方は、たとえ、この地上に来られても、すべてのものの上におられる(3:31)と語る。洗礼者ヨハネは、どのような人なのか。私たちと同じく地から出たもの。地上に属する存在であり、元々、天上のことを語れない。そんな力はない。神様から啓示されたことを御霊の力によって語っているだけ。救いの真理、真実の幸い、それらをヨハネは自分で悟り知り語り生きる、そんな力は全くない。どんなに優れた思想家、宗教家もです。地に属する権威に恐れ、それに聞く生き方からは罪の奴隷となる生き方が生まれてくる。

### 〈神の子イエス様は、真理を語られる〉

今日は宗教改革記念日。聖書に示されるままの永遠の神の子を最終的な権威者として受け入れ生きること。ヨハネはこう言う。イエス様は、「見たこと、聞いたことを証しされるが、だれも、その証しを受け入れない」(3:32)。イエス様は、もともと天の父なる神様と御霊の神様との本当に深い愛の交わりの中で、神様の永遠のご計画、救いのご計画について全てをご存知です。神としての

性質の上に、人としての性質を取られたのは、その本当に素晴らしい救いの恵みを、地上にあって悩み苦しむ罪深い私たちに、十二分に啓示するため。イエス様は、何の制限もなしに全く自由に、神の権威をもって真実に、救いの真理のすべてを明らかにすることができる御方。「神がお遣わしになった方は、神の言葉を話される。神が霊を限りなくお与えになるからである」(3:34)。そして、父なる神様は、このイエス様に、全てを委ねておられる(3:35)と言う。素晴らしい救い主がお出でになったので、ヨハネはイエス様を人々に一生懸命に伝えた。けれども、どのような経験をしたのか。「だれも、その証しを受け入れない」(3:32)。神が御子についてなされた証しを信じない者は、どうなるのか。神を偽り者にしてしまっており(ヨハネ5:10)、神の怒りが、その上にとどまる(3:36)。

### 〈御子を信じる者の幸い〉

しかしヨハネは、イエス様を唯一の救い主と信じる者も与えられていると言う。御霊によりはじめてイエス様を主と告白できる(コリント12:3)。そしてイエス様を信じる者が受けている大きな恵みについて「御子を信じる人は永遠の命を得ている」(3:36)と語る。御子を信じるか信じないのかは人生の重大事。私たちの生と死を決定する根本的な事柄。永遠の命というと、直ぐに将来のことと思う方があるかもしれない。ここでは今の恵み。今から続く恵み。神とキリストを知る本当に深い愛の交わり、それが永遠の命(17:3)。愛する隣人に、神の怒りの日が訪れないため、共に、永遠の命の喜びに生きることができるため(3:36)、洗礼者ヨハネのように、イエス様を指さす人として生かされたい。自分が衰え、イエス様が栄える(3:30)ことを願う人が増し加えられることを祈り求めたい。(西堀則男)

カテキズム 子どもカテキズム 問22

子どもカテキズム

問22 私たち、神の民のあがないの主はどなたですか。

答 私たちの唯一の主、イエス・キリストです。

イエスさまは、永遠の初めから御父より生まれた真の神さまです。

私たちの救いのために、聖霊によっておとめマリアより肉体を取り、真の人となってくださいました。

イエスさまは、真の神であり真の人であり続けてくださる二性一人格の神さまです。

今回は、先週と打って変わって、教師のための神学的な考察を加えたいと思う。

改めて考えてみると、イエスさまには「生まれた」という表現がピッタリ当てはまると思う。イエスさまとは、どんなお方か？と聞かれた時、ある意味で、それは「生まれたお方だ」という答え方もありではないかとも考えたりする。それほど、イエスさまには「生まれた」という言葉が、よく似合うのである。というのも、イエスさまは、父なる神さまから「生まれ」、処女マリアから「生まれ」たからである。

それにしても、答のところに、「イエスさまは、永遠の初めから御父より生まれた真の神さまです」という言葉があるので、こういう言い回しを聞くと、子供たちの中には、「へえ～、神さまも生まれたりするんだあ」と純粋に驚く子もいることであろう。いや、クリスチャンホームではない子供たちにとっては、むしろ自然なことで、ずっと以前から聞かされてきた様々な神さまの延長で、聖書の神さまのことも考えるかもしれない。ギリシャや日本など世界の神話においては、神々が次々に子孫を生んでいく有様が語られるが、それと同じように、キリスト教の神さまも、生まれてきたのだろうか。イエスさまは、父なる神さまがお生みになった数知れない子どもの一人に過ぎないのだろうか。もちろん、そうではない。そうではないが、その区別を語るのは、実はとても難

しいことである。「生まれる」という表現を使うことは、深遠な福音の真理を分かりやすく理解するには、大変有益なのだが、その一方で、あまりにも人間的なものに近づけて捉えてしまって、人間の言葉でもって表現しうるギリギリのところの言い回しであることが、見落とされがちになってしまうのだ。「生まれた」という言葉は、異端の人々が「イエス・キリストは神ではなく、神が創造した被造物であり、その最高傑作である」という主張に対する、アンチテーゼなのである。

だが、神は唯一であり、既に、父なる神さまがおられる。すると、神が二人いるということなのか？（という当然すぎるぐらゐの疑問が湧いてくる。）実は、そうではないことを何とかうまく表現しようとして、「生まれた」という言葉遣いをしたわけなのである。それは、実に極めて特殊な教理的な専門用語である。そのことを、大人の方ではわきまえておかないといけない。このような難解さのために、二性一人格を理解することは敬遠されがちかもしれない。でも、それは、子供たちが、ごく当たり前にやっていることでもある。つまり、福音書に描かれたイエスさまの、数々の逸話や教えを見聞きして、彼らは自然と、二性一人格のイエスさまを感覚的に捉えているのだ。後は、それを言語化する手伝いを、大人たちがしてあげればよいのだ。（梶浦和城）

テキスト ヨハネによる福音書 3章31～36節  
カテキズム 子どもカテキズム 問22

### 〔単元のねらい〕

今週は、キリストが「上から来られる方」であり、「地から出る者」すなわち人間とは根本的に異なる権威をお持ちのお方であることを学ぶ。そして、人間は誰もこのお方に対して、どのような態度を取るかの選択が迫られる。この方の証しを受け入れるか、受け入れないかが問われるのであり、受け入れる者にこそ祝福がある。イエス様は皆が受け入れる者となることを切に願っておられるのである。

## 「上から来られる方」

今日は、ヨハネによる福音書3章の御言葉を読みました。31節の言葉にまず注目してみました。

「上から来られる方は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地に属する者として語る。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。」

ここには二種類の人が出てきます。それは「上から来られる方」と「地から出る者」です。「上から来られる方」とは父なる神様から派遣された御子イエス様のことです。そしてそれ以外の人はすべてこの「地から出る者」になります。イエス様以外の全ての人間は、「地から出る者」として一くくりにされています。それは確かに乱暴のように思えるかも知れません。人間は一人一人異なりますし、賜物も能力も違います。人間の中には本当にりっぱな人、社会のために大きな貢献をする人もいます。またそれとは全く反対に、それが人間のすることかと思えるようなひどいことをする人もいます。また多くの人は、名もなく素朴に人生を生きて死んでいきます。そのように人間は一人ひとり違い、異なった人生を歩むのですが、その全ての人間が一くくりに「地から出る者」と呼ばれているわけです。

この区分は人間の側からすれば確かに乱暴のように思えますが、しかし、神の真理を明らかにする上では必要なことです。ここでヨハネがはっきりと伝えようとしているのは、それほどに「上か

ら来られた方」と「地から出る者」とは本質的に異なっているということです。地から出る者がどんなに優れたものを生み出したとしても、それは「地に属する者として語る」という範囲内のことに過ぎません。

しかし、上から来られる方、天から来られる方は、地に属する者として語るのではなく、すべてのものの上におられる方として語られるのです。万物の上に立ち、世に対して神ご自身と同じ関係に立つ者として語られるのです。つまり、「上から来られる方」と「地から出る者」とはその本質と由来において根本的に異なるのです。上から来られる方は、他の如何なる人とも比較のしようがない御方です。それがイエス様なのです。そしてその御方の御言葉を、私たちは聞かなければならないのです。

私たち「地に属する者」は、地に関してのことしか語ることはできません。私たちは神様のことを自分で一生懸命考えて、勉強して、それで知ることではできません。罪ある人間は、自分の力でどんなに考え学んでも、それによって神様のこと、神の真理を見つけ出すことはできないのです。私たち人間が真理を知ることができる唯一の可能性は、「上から来られた方」の言葉を聞くことです。天の父が御子を遣わされました。そして御子を通して神の真理が明らかにされました。イエス様こそそのような神の言葉であります。それゆえ、そのイエス様を通して、私たちは神を知ることが

できるのです。

32節にあるように、イエス様は「見たこと、聞いたこと」を証しされました。天から来られたイエス様は、御自身が見たこと、聞いたことを証しされたのです。天において見聞きしたこと、すなわち天の父から伝えられたことだけをイエス様は語られるのです。ですからイエス様のなさることは、証しに他なりません。イエス様は天で見たこと、聞いたことを証人として語られるのです。イエス様だけが、天の父の御心を証しして下さるお方なのです。

では、そのイエス様の証しを人々は受け入れたのでしょうか。32節後半にあるように、誰もその証しを受け入れませんでした。人々は神の御子イエス様を受け入れないのです。なぜなのでしょう。

このヨハネによる福音書1章でイエス様のことが「光」として表現されていました。1章の9節にはこう記されています。「その光は真の光で、世に来て全て人を照らすのである」。

光とは闇を照らすものです。闇とは、人に知られたいくない自分の暗い部分です。自分が隠し続けている部分です。私たち人間にとって恐らく一番恐ろしいことは、自分の本当の姿が明らかにされることだと思います。イエス様はすべての人を照らす真の光であられました。イエス様に照らされなければ、特に問題とされることもなかったことが、イエス様の前に、今や明るみに引き出されるのです。この世においては問題とされることもなかったことが、イエス様の光の中では問題として照らし出されるのです。

それゆえ、イエス様の前に立った人々はとても恐れを感じたと思います。なぜなら、イエス・キリストの真の光は、その人の内側にある闇を、つまり罪をありありと照らし出す光であったからです。これまで隠してきたこと、誤魔化してきたことが、イエス様の前では明らかになったからです。

人々はそれゆえに、このイエス様に対してどちらかの反応をすることになりました。ある人たちは、この光によって自分の闇を認め、罪を認めたのです。このように、この光の前にすべての罪をさらけ出し、ひれ伏す者にとっては、イエス様の光はまさに「救いの光」となりました。

しかし一方で、あくまで自分の本当の姿を隠して、自分の罪を認めず、自分の正しさを主張する人々もいました。彼らにとっては、すべてを明らかにしようとする光は、憎むべきものでした。そこで彼らは、光であられるイエス様を憎み、十字架につけて殺すことになったのです。

イエス様は「上から来られた方」として、神の真理を証しされる方です。イエス様だけが神の真理を証しされる方です。そして多くの人たちは、このイエス様の証しを受け入れることができませんでした。それは、自分の正しさを主張したからです。自分の思うままに生きたかったからです。自分の歩みを変えたくなかったからです。誰にも指示されずに、勝手気ままに生きたかったからです。

しかし、そのような生き方の先に何があるかといえば、36節にあるように「神の怒りがその上にとどまる」のです。神様の正しい裁きが下されるのです。

私たちはそうなるではありません。上から来られたイエス・キリストこそ、神の真理を証しされる方です。私たちはその真理を受け入れるのです。地に属する私たちが天にある神の真理を知ることができるのは、このイエス・キリストによる他ありません。神の御子であるイエス様の御言葉に耳を傾け、それに従うことです。神の御心に従って、自分中心を止めて、神様にすべてを明け渡すのです。

その時こそ私たちは、本当の幸いに与ることができます。イエス様は、私たちを祝福するために、上から来られたお方なのです。 (袴田康裕)

---

[今週の暗唱聖句]      ヨハネによる福音書 3章34節前半  
神がお遣わしになった方は、神の言葉を話される。

---

## 〈ねらい〉

この教理は、人を救おうとされる神の深い愛の現れそのものである。今回は「神性」について学ぶ。

## 〈展開例〉

イエスさまは、普通の赤ちゃんとして大きくなられたように見えました。大人になってお弟子さんと一緒に神さまのご用を始められてからは不思議な力を持った方だということがわかってきました。「ただ者ではないぞ」とそばにいる人は思いました。水をワインに変えました。歩けない人の足を治して歩けるようにしました。生まれつき目の見えない人の目を見えるようにしてあげました。長い間お医者さんにかかっても治らなかった女の人の病気を一瞬で治しました。海の大嵐を「黙れ」という一言で静まらせました。数え切れないくらい大勢の人の病気を治しました。最後には本当に死んだのに、完全によみがえってお弟子さんの前に現れました。そしてお弟子さんたちの目の

前で天に昇られ、今も生きておられます。どれ一つとっても人間にできることではありません。イエスさまは完全な神さまです。立派なえらい人ではなく、神さまなのです。完璧な神さまです。

でも、神さまは人間の目には見えないお方だと聖書にかいてあります。では、なぜ神さまのイエスさまが人間と同じ形になって来られたのでしょうか。それは、神さまがなんとかして人間を救いたいと思われたからです。人間の形をした神さまをわたしたちのところにしてくださったのです。イエスさまは、先週お話したように、完全な人間としてわたしたちの代わりに神さまにお詫びをしてくださいました。そして、神さまとしてそれを完成してくださいました。

## 〈お祈り〉

天の父なる神さま、イエスさまが神さまだということをお教えてくださってありがとうございます。イエスさまのことももっともって教えてください。イエスさまによって、アーメン。

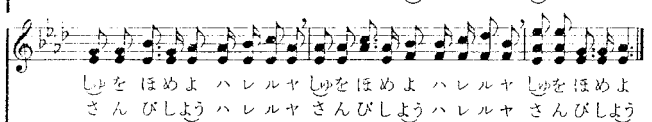
## 〈やってみよう〉

「ハレル ハレル」を歌ってあそぼう！

(いのちのこば社、『ふくいんこどもさんびか』48番)

- このさんびかの1節は、「ハレル……ハレルヤ」と「しゅをほめよ」の二種類のこばだけです。
- こどもをニグループに分け、「……ハレルヤ」を歌う子と「しゅをほめよ」を歌う子を決める。
- 歌う時には立ち、歌わないときには座っている。
- ゆっくり練習をし、だんだん早くしていく。
- こばを交替する。
- 人数が少ないときは、子ども対先生でも良い。
- 子ども会や大人の交わり会するときなどでも使えます。

Hallelujah!



## 〈ねらい〉

子どもたちが、イエスさまは父なる神さまから生まれた真の神さまでありながら、おとめマリアから生まれて真の人となってくださったことを理解し、そのような特別な生まれ方をしてくださったのは私たち罪人を救うためであったことを感謝できるように導く。

## 〈展開例〉

## ○生まれの違い

みなさんは「生まれの違い」を感じたことがありますか？ 食べ物について「産まれ」をごまかした偽物の話を聞いたことがあるかもしれませんね。日本で産まれても、外国で産まれても、ウナギはウナギ、牛は牛なのですが、「産まれの違い」でその物の値段というか、価値、ありがたさが、大きく違ってくることがあります。

## ○罪びとどうしの生まれの違い

人間どうしても、「王様の子ども」や「社長の子ども」など、「生まれが違う」と言って特別扱いされることがあります。でも、神様の目から見れば人間はみな罪人です。神さまのもとへ帰ってくるように、一人ひとりをととても大切に待ってい

てくださいます。罪人どうしても、「生まれの違い」なんて、関係ないのです。

## ○イエスさまの生まれ（父なる神さまから）

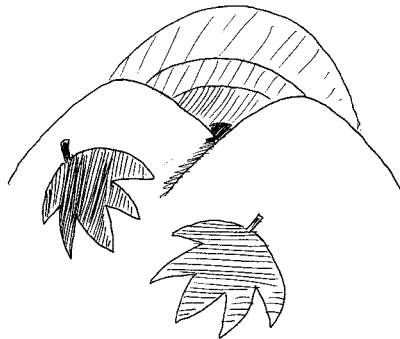
でも、イエスさまだけは特別です。私たち罪人とは違い、父なる神さまからお生まれになったからです。ヨハネさんが「天から来られるかたは、すべてのものの上におられる」と書いているとおり、特別な方、真の神さまなのです。

## ○イエスさまの生まれ（おとめマリアから）

ところが、真の神さまであるイエスさまは、マリアさんからも生まれて、真の人となってくさいました。イエスさまは、「神さまの子ども」だぞと、人々に威張るお方ではありません。十字架におかかりになり、私たち人間の罪を赦すために、生まれてくださったのです。

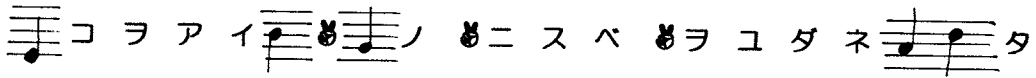
## 〈祈り〉

天の父なる神さま、私たち罪人のために、イエスさまを生まれさせてくださって、ありがとうございます。この感謝の気持ちを忘れず、いつも喜んでイエスさまについていくことができるようにしてください。



✠ 聖書をひらいて (ヨハネによる福音書3章31~36節)

<sup>がくぶ</sup>  
楽譜に字がかいてあります。なんと書いてあるでしょう? (♯は、手(テ)だよ)



こたえ→

✠ 考えてみよう (質問に答えてあげてね!)

☒教会学校の先生が、イエスさまは今、天の神の右に座しておられ、わたしのお祈りを父なる神さまにとりなしてくださっていると教えてくださいました。わたしの悲しい気持ちや、こわい気持ちをイエスさまは、わかってくださいますか? (Yさん・12才)



✠ 言ってみよう

問22

わたしたち、神の民のあがない主はどなたですか。

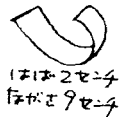
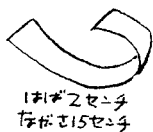


私たちの唯一の主、イエス・キリストです。

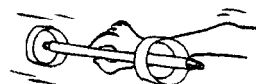
イエスさまは、永遠の初めから御父より生まれた真の神さまです。私たちの救いのために聖霊によっておとめマリアより肉体を取り、真の人となってくださいました。イエスさまは、真の神であり真の人であり続けてくださる□□□□□□□□の神さまです。

✠ やってみよう ワン・ツー工作「ふんわり ひこうせん!」

- ①おりがみで、大(はば2cm・長さ15cm) ②ストローにゼムクリップでとめて、ゼムクリップ小(はば2cm・長さ9cm)の輪っかを作る。 を先にして軽く持ち、ウデをのぼすようにして投げると、風によってフワリと飛んでいきます。



ストローは木の。14センチ



✠ 今週の暗唱聖句 (ヨハネによる福音書3章34節)

神が<sup>つか</sup>お遣わしになった方は、神の□□□を話される。



〈ねらい〉

### 1. イエス様は「上から来られた方」ということについて

イエス様は、神様がおられる天から来られた方で、神様に関する正しい知識をもっておられる。本来地に属する私たちは、この天から遣わされた方の言葉を聞く以外には、神様について正しい知識を得ることはできない。

### 2. イエス様を心に受け入れることについて

多くの人々は、イエス様の御言葉に耳を傾けることをしなかった。それは、真の光であるイエス様によって、自分の心の闇が暴かれることを嫌がったからである。しかし、私たちは、この真の光の前に立ち、本当の自分の姿を見つめ、イエス様に罪を悔い改めたい。

〈子どもカテキズム〉

問22：わたしたち、神の民の贖い主はどなたですか。

答：わたしたちの唯一の主、イエス・キリストです。

イエス様は、永遠の初めから御父より生まれた真の神様です。

わたしたちの救いのために、聖霊によっておとめマリアより肉体を取り、真の人となってくださいました。

イエス様は、真の神であり真の人であり続けてくださる二性一人格の神様です。

〈展開例〉

### 1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

### 2. 生徒と一緒に考える。

Q. 「上から来られる方」と「地に属する者」って誰のこと？

Q. 人間は、自分の力で「上（神様）」のことに正しく知ることができるのか？

Q. 「上から来られた方（イエス様）」は、なぜ人々に受け入れられなかったのだろうか？

### 3. これからの信仰生活のために

生徒たちが毎日の生活の中で聖書（上から来られたイエス様の言葉）を読んで、もっともっと神様のことを知っていけるように励みたい。



神がお遣わしになった方は、神の言葉を話される

**〈背景〉**

主イエスは十字架にかかれる前に弟子たちと最後の晩餐をされ（13章）、恐れと不安に満たされていた弟子たちを慰め、励まし、また多くの遺言ともいうべき大切な教えを語られた。それがヨハネ福音書14～16章に収められていて、主の告別説教と呼ばれている。今日はその冒頭に記されているイエスの教えを学ぶ。

イエスは父なる神のみもとに帰る時が来たのをご存じて、弟子たちにそのことを予告されたが（13:33）、ペトロはその意味を理解できなかった。「主よ、どこへ行かれるのですか」（13:36）とのペトロの質問に、「わたしの行く所に、あなたは今ついて来ることはできないが、後について来ることになる」（13:36）と答えられ、弟子たちが想像しているような地上的な旅立ちではなく、父なる神のみもとに帰られる旅立ちであることを示唆された。「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら命を捨てます」（13:37）とのペトロの勇ましい言葉に、主は、鶏が鳴くまでに彼が三度主を否むことを予告された（13:38）。三年余生活を共にした主イエスが間もなく去っていくこと、また弟子の第一人者ともいえるペトロが主を裏切るほどの激しい試練が到来する予感に、弟子たちの心は動揺した。

**〈旅立ちの目的と目的地（14:1-3）〉**

そのような彼らに、「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい」（14:1）と、神とご自身に信頼をおくよう促された。なぜなら、ご自身が去っていくことは彼らの益になるからである。その目的は、父のおられる天に、彼らの住む場所を用意することである。その場所を用意したら、弟子たちを迎えに来られる。そして彼らは、永遠に父なる神と主イエスと共にいることができるのである。

**〈道であり真理であり命であるイエス（14:4-14）〉**

主イエスの言われた意味を理解できず、「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるのでしょうか」（14:5）と尋ねたトマスに、「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」（14:6）と答えられ、ご自身こそ、父なる神に到達する唯一の道である、と宣言された（「道」、「真理」、「命」が並行していると解釈するより、道に関するトマスの質問に対する答えとして語られたので、この三つの中で「道」が特に強調されていると考えるのが自然である）。イエスは人々に道を指し示すだけの者ではなく、道そのものであられる。イエス以外の道はない。キリスト教はたくさんある宗教の中のひとつにすぎないのではない。イエスはメシアとして贖罪の死を遂げ復活することを通して、人々が父なる神に到達する唯一の道となられた。

イエスだけが道であり、真理であり、命である、ということは、父なる神との一体性と深く関わっている。「わたしを見た者は父を見たのだ」（14:9）、「わたしが父のうちにおり、父がわたしの内におられると信じなさい」（14:11）と、ご自身が父なる神と一体であられ、目に見えない神を現したお方である、と宣言された。神の真理はイエスにより現れ（1:17）、イエスを通してだけ人々に与えられる。またご自身を天から下ってきたパンに譬え、「このパンを食べるものは永遠に生きる」（6:58）と約束され、ご自身が、贖罪を通して信じる者に、神にある永遠の命を与えることのできる者である、と宣言された。父なる神との一体性は、イエスのなされた業によって証明される。だから、語っている言葉を信じられないなら、業によって信じなさい（14:10-11）、と弟子たちを促された。わたしたちも、このイエスの招きに信仰をもって応答し、御名によって歩いていきましょう。（後藤公子）

## 子どもカテキズム

問23 主イエス・キリストとお呼びするのはなぜですか。

答 イエスとはお名前で「罪からの救い主」、キリストとはお働きを表し、「神さまから油を注がれた方」という意味です。このお方が私たちの主として与えられました。

ですから、私たちは、喜びと感謝をもって主イエス・キリストとお呼びするのです。

参照教理問答 ハイデルベルク信仰問答 問29、34

天の父なる神様は旧約で約束された救い主としてご自分のひとり子を地上に遣わされた。私たちはこの救い主を「イエス・キリスト」とお呼びする。これは通常の人間のような「名字・姓」と「名前」の組み合わせではない。では一体何なのか、またそこに込められた意味を二回かけて学ぶ。今回は「イエス」を扱う。

**(イエスという名に込められたもの)**

「イエス」という名はご降誕の際、神様がみ使いを通してつけることを命じられた名である。そして命名の理由を「この子は自分の民を罪から救うからである」と明かされた。(マタイ1:21)「イエス」という名はヘブライ語「ヨシュア」をギリシャ語読みしたものであり、「主は救い」という意味である。人間は創造の後ほどなく墮落してしまい、罪と悲惨と死のうちに陥った。神様はそんな人間を深く憐れみ、墮落直後から救い主を送って罪から人を救うことを予告された。実際イエス様は十字架にかけられ、人の罪をあがなうことのできることでその名のとおり救いをなしてくださった。

またイエス＝ヨシュアという名はイスラエルにおいては人の名前として一般的に使われていた。つまりありふれた平凡な名前であったとも言える。神のひとり子であられる方がまことに人とな

り、さらには「自分を無にして、僕の身分になる(フィリピ2:7)までにへりくだって生きてくださったことの一つの現れとも言えよう。

**(主という称号)**

イエス＝ヨシュアという名は「主は救い」を意味しているが、このことは「ヨシュア」を名乗る人間イコール救いをなす主なる神ということを持たずに意味しない。旧約聖書において「主」は唯一の生ける神様だけに用いられ、「所有者、支配者」を意味する称号であった。そして被造物に対して用いられることは偶像崇拜として厳しく禁止されていた。従って通常イスラエルにおいて親が子に「ヨシュア」と名をつけるのは、その子を救いをなす神と同一視するというのではなく、「ただ主こそ我が子の救いである、どうぞこの子が主の救いと祝福を受けるように」という思い、願いを込めてのことであったと考えられる。

ところがイエス・キリストは人として生まれながら十字架で救いをなし、私たちを買い取ってご自身のものとしてくださるなど、主なる神でなければできないことをなされた。そこで代々の教会は聖霊の導きのもとイエス・キリストに「主」という称号も付け加えてお呼びするようになった。

(吉田 崇)

---

テキスト	ヨハネによる福音書 14章1～14節
カテキズム	子どもカテキズム 問23
参照教理問答	ウェストミンスター信仰告白 第8章、21:2 同大教理問53, 180, 181

---

### 〔単元のねらい〕

前回、イエス・キリストこそが私たちの罪からの贖い主であることを学んだ。今回は、私たちを救って下さった主イエスが、私たちを迷うことなく神の御国に導いて下さる唯一の方であり、かつ、神の御国において私たちの場所を整えて下さる唯一の方であることを覚えたい。

---

## 「命に至る道」

---

前回、私たちは、イエス・キリストこそが、他にはいない、たった一人の贖い主であることを、一緒に学びました。イエスさまが、私たちを救うために、私たちに代わって十字架にお架かり下さったのですよね。

でもね、みんなはどのようにしたら天国にまでたどり着くことができるの？ イエスさまは、「自分の力でそれを見つけて、がんばってきなさい。そうすれば救われていることが分かります」と言われているのでしょうか？

イエスさまは、けっしてそのような無責任な神さまではありません。私たちが救われて天国にたどり着くまで一緒にいて下さり、迷わないように導いて下さる神さまです。そのことを今日は一緒に聖書から学びたいと思います。

みんなは、ひとりでお買い物に行ったことがありますか？ ひとりで行ったことのあるお友だちも、それは前にお父さんやお母さん、お家の人たちと行ったことがあります、行く道を覚えているから、スーパーまで行くことが出来るのですよね。

では、今までに一回も行ったことがない専門店に行かないといけなくなった時、みんなはどうする？ ぼく（わたし）が欲しいものはそこに行かなければ買うことが出来ないけれども、でもお父さんもお母さんも「一人で買いに行ってみなさい」と言うのです。一人で行くことになれば、そのお

店がどこにあるのか調べ、どこの道からどのように行ったら良いのかを、地図で調べますよね。そして、その道を覚えるか、地図を片手に持って、お店に向かうのではないのでしょうか？

神さまは、「イエスさまの十字架によって、あなたたちは救われましたよ、天国に行くことが出来ますよ」、とお語り下さっていますが、「みんなは勝手に天国まで来て下さい」とは言われないのですね。

イエスさまは「インマヌエル」とも呼ばれているのですが、「神は我々と共におられる」という意味です（参照：マタイ1:23）。イエスさまは、いつも私たちと一緒にいて下さり、私たちが天国に行くのに、道を間違えないように道案内をして下さるのです。どのようにしてかと言えば、聖書によってですね。みんなが天国に向かって歩もうとする時、正しいことであるのか、間違ったことであるのかを、聖書の御言葉によってお教えくださるのです。また、私たちが迷ったり、困ったりした時、私たちはお祈りによって、神さまにお尋ねすることができるのです。神さまは、私たちのこうしたお祈りをとおして、聖書の言葉によって、また他の様々な方法によって、私たちが天国に行くことが出来る道を指し示して下さいます。

だからこそ、私たちは、神さまを信じて、神さまを礼拝し続けることによって、確実に天国に行

くことが出来るのであり、迷ったり、そこから離れて罪の裁きに行くことはないのです。

実はそれだけではないのですね。イエスさまは「わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行く」とお語り下さっているのです(14:2)。私たちが救い、天国に導いて下さる神さまは、私たちがこの天国で神さまを賛美し、礼拝して、本当の喜びに満ちて歩むことができるように、すべての準備を整えて下さっているのです。そしてイエスさまは、十字架の御業の後、天国に昇られ、今、私たちのためにその準備を整えて下さっているの

です。  
だからこそ、私たちは、お店にお買い物に行こうとして、途中で道に迷ってしまうこともなければ、お店にまで行くことは出来たけれども、本当に欲しかったものは売り切れてしまっていたということもないのです。イエスさまは、いつもみんなと一緒にいて下さり、迷うことなく天国まで導いて下さり、さらの私たちの住む場所を準備して下さいます。だからこそ、安心して、イエスさまを神さまとして信じ、イエスさまの御言葉に聞き続けていただきたいと思います。

(辻 幸宏)

---

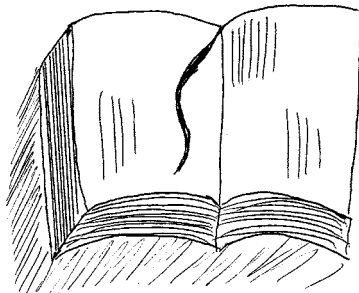
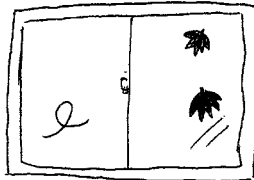
[今週の暗唱聖句] ヨハネによる福音書 14章6節

イエスは言われた。

「わたしは道であり、真理であり、命である。

わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」

---



## 〈ねらい〉

信仰義認は信じていても、生活においては自らの力に重きを置くキリスト者が少なくない。救いの完成も主御自身が為してくださることを学ぶ。

## 〈展開例〉

(できれば下記で説明する視覚教材を使ってお話を進めていただきたいが、なくてもできる)

イエスさまは天国にお帰りになる前に、「皆さんが来る場所を用意してまっていますからね」とおっしゃいました。さて、どうすればイエスさまがいらっしゃる天国へ行けるのでしょうか？

クイズです。①「幼稚園や保育園の先生、お家の人たちの言うことを良く聞く」。そうすれば天国へ行けると思う人？ ②「お友だちに親切にしてあげる」と思う人？ ③「教会へ一生懸命お休みしないで来る」と思う人？ ④「献金をいっぱいする人」と思う人？

残念ながら、どの方法でも天国へ行くことはで

きません。天国に届く道はあるのでしょうか。どんな道でしょうか。聖書に、ただ一つの道があります、と書いています。それがこの道です。(視覚教材がある場合は、赤い十字架を貼って見せる。ない場合は言葉で説明する。赤は十字架の血の色、そのイエスさまを通して初めて到達できる)

がんばってよい子になろうとすると、いつの間にか心の中で「わたしはよい子」と威張りたくなります。神さまから力をいただかなければ、だれも神さまから喜ばれる人にはなれません。神さまはお願いすればいつでも力をくださいます。そういう人にイエスさまは天国を用意して待っています。

## 〈お祈り〉

天の父なる神さま、救い主イエスさまをくださって感謝します。みんながイエスさまを通して天国へ行けるように、よろしくおねがいします。イエスさまによって、アーメン。

## 〈お話で使う視覚教材の作り方と使い方〉

## ○作り方

- (1) ①②③④のことば(この通りではなく、やさしい短い言葉で)を画用紙に書いて、細長く切っておく。(言葉の長さにより紙の長さも異なる)
- (2) 上のことばの紙の一番長いものよりも少し長く、赤い十字架を色画用紙で作る。
- (3) 「ちじょう」「てんごく」と書いた円形を二つ、画用紙で作る。
- (4) フランネルボードがある場合は、それぞれ作った画用紙の裏をサンドペーパーで軽くこすっておくとフランネルにくっつきます。ない場合は、壁やホワイトボードなどにテープやマグネットで貼る。

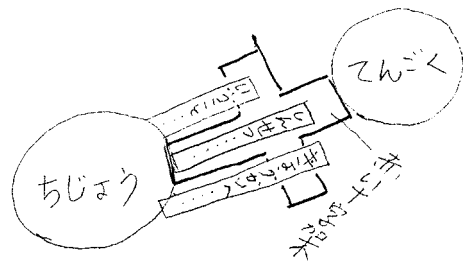
## ○使い方

- (1) 「ちじょう」と「てんごく」の円形をまず貼っておく。この二つの間の距離に気をつける。

①から④までのどの長さも「地上」から「天国」には届かない。赤い十字架だけが天国に届く道となるようセッティングすることに注意する。

- (2) ①から④をゆっくり「ちじょう」から「てんごく」に向けて貼ります。どの一枚も天国に届かないことをかみしめるように、時には驚きと嘆きも加えながら話せるよう、練習しておきましょう。

- (3) 赤い十字架だけが天国にぴったり届く場面を驚きと喜びをもって語りましょう！



**〈ねらい〉**

イエスさまは私たちを罪から救い出してください、神様のみ国に連れて行ってくださる方であることを覚える。

**〈展開例〉**

今日の子どもカテキズムは、「主イエス・キリストとお呼びするのはなぜか」です。

みんな自分の名前を知っていますか？ ほとんどの人が自分の名前を知っていると思います。では、名前の意味はわかりますか。誰がその名前をつけてくれたの知っていますか？

名前はだいたい、お父さんやお母さん、家族の人がつけてくれたのではないのでしょうか。元気に大きくなってほしい、立派な人になってほしい、かわいい人になってほしい、かっこいい名前をつけてあげたい……。名前にはいろんな想いがこめられています。

では、イエスさまのお名前は誰がどんな想いでつけられたのでしょうか？

クリスマスのお話を思い出せばわかると思います。イエスさまがお生まれになる前にイエスさまのお名前を決めたのは神様でしたね。そのお名前にはどんな想いがこめられていたのでしょうか？

イエスさまのお名前の意味は「主は救い」とい

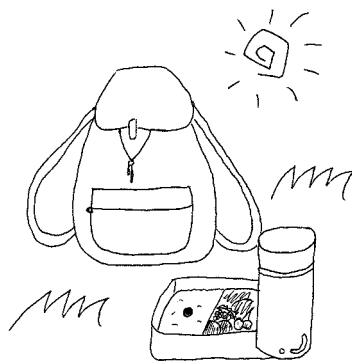
う意味です。そのお名前のとおりに、イエスさまは十字架にかかってくださり、私たちを罪の中から救い出してくださいました。そのままでは罪につかまってしまい、神さまの国には入ることが許されない私たちを、イエスさまが罪から救い出し、神さまの国に入れるように導いてくださっているのです。

今日の聖書のお話の中でもイエスさまはこうおっしゃっています。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、誰も父のもとに行くことができない。」

イエスさまがそこにいてくださるからこそわたしたちは神さまのことを知ることができるし、お祈りもすることができるのです。イエスさまがわたしたちを罪から救ってくださったことを心から喜び、感謝し、信じて、イエスさまの後についていくことが、神さまのみ国に入れていただくただひとつの方法なのです。みんなで喜んでイエスさまの後について歩いていきましょう。

**〈祈り〉**

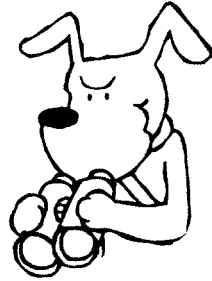
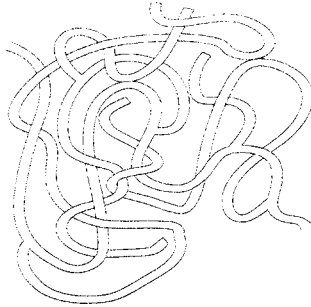
天の父なる神さま、イエスさまをありがとうございます。イエスさまがわたしたちの主であり、救いです。いつも喜んでイエスさまについていくことができるようにしてください。



### ✦ 聖書をひらいて (ヨハネによる福音書14章1～14節)

どの道を通ったらイエスさまのところへ行けるでしょうか。

イエスさま



### ✦ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒ イエスさまが、先に行って、天国までの道を作ってくださったことを聞いてうれしくなりました。

天国までの道は、どの道歩いて行けばよいですか？ (Sちゃん・11才)

### ✦ 言ってみよう

問22

わたしたち、神の民のあがないの主はどなたですか。



イエスとは、お□□□で「罪からの救い主」、キリストとは、おはたらきを表し、「神さまから油を注がれた方」という意味です。このお方が私たちの主として与えられました。ですから、私たちは、喜びと感謝をもって主イエス・キリストとお呼びするのです。

### ✦ やってみよう

☆ 神さまが、命名した「イエス」という名前は「罪からの救い主」という意味です。

分級のお友達の「名前」は、だれが、「どういう願いをこめて」つけてくださったか、教えてください。

☆ 降誕祭が近づいてきました。「降誕劇」や、「クリスマス賛美」の練習を始めたところもあるでしょう。

皆で力を合わせて良きものをささげることができますように。地域の伝道のためにも用いられますように。

### ✦ 今週の暗唱聖句 (ヨハネによる福音書14章6節)

わたしは、□□であり、<sup>しんり</sup>真理であり、□□□である。  
わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。



〈ねらい〉

1. イエス様が「道」であることについて

イエス様は、天国に至る道がどこにあるかを指し示すだけではなく、ご自身が「道」であることを教えられた。私たちは、イエス様という道を通ってのみ、天国にたどり着けるということを考えたい。

2. イエス様という「道」を歩くということについて

「イエス様という道を歩く」ということは、イエス様と共に生涯を歩み続けるということである。毎日毎日イエス様と一緒に歩くことによって、その道は天に通じるのである。

〈子どもカテキズム〉

問23：主イエス・キリストとお呼びするのはなぜですか。

答：イエスとはお名前で「罪からの救い主」、キリストとはお働きを表し、「神様から油を注がれた方」という意味です。

このお方が私たちの主として与えられました。ですから、私たちは、喜びと感謝を

もって主イエス・キリストとお呼びするのです。

〈展開例〉

1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

2. 生徒と一緒に考える。

Q. 聖書の中でイエス様が「わたしは〇〇である」とおっしゃった言葉を他にも知ってる？

→光、ぶどうの木、良い羊飼い、羊の門、命のパン……

Q. 「わたしは道である」とはどういう意味だろうか？ この比喻でイエス様は何を教えようとしているのだろうか？

Q. イエス様という道を歩いていくとどこに行ける？

Q. 「イエス様という道を歩く」って、具体的にはどんなことだろうか？

→日曜日に礼拝することや、聖書を読んだりお祈りしたりすること



わたしは道であり、真理であり、命である

**〈背景〉**

主は予告通りに（マタイ8:31など）、十字架の死から三日目に復活された。それは週の初めの日（日曜日）のことであった。その日の朝、まずマグダラのマリヤと婦人たちにご自身を現され（マタイ28:9-10、ヨハネ20:11-18）、そののち、エマオの村へ行く途中の二人の弟子や（ルカ24:15-31）、ペトロにもご自身を現された（ルカ24:33）。そしてその夜、弟子たちがユダヤ人を恐れて、彼らのいる家の戸に鍵をかけていたとき、イエスは入ってこられ、弟子たちの真ん中に立たれ、手とわき腹とお見せになった。同じ出来事を記したルカ福音書によると、使徒だけでなく彼らの仲間や、エマオへの途上で復活の主に出会った二人の弟子もその場にいたと考えられる（ルカ24:33-36）。このときトマスはいなかった（ヨハネ20:24）。

**〈懐疑的なトマス（20:24-25）〉**

復活の主に出会った弟子たちは喜び興奮し、トマスに「わたしたちは主を見た」（20:25）と告げた。しかしトマスは懐疑的だった。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない」（20:25）と言った。トマスは、他の弟子たちが主を見た、手とわき腹の傷から、あれは確かに主だ、と話しても、自分でそのことを確かめなければ決して信じない、と言ったのである

**〈トマスへの顕現と彼の信仰告白（20:26-29）〉**

八日ののち、すなわち、一週間後の日曜日に、主イエスは再び弟子たちにご自身を現された。このときトマスもいた（20:26）。「戸には鍵がかけてあったのに、イエスが来て」という表現から、主の復活の御体はそのようなことに制限されない神秘的な体であったことがわかる。「あなたがたに平和があるように」（20:26）という表現は、ユ

ダヤ人の挨拶言葉であるが、それ以上のことを意味していたと考えられる。主は十字架にかかれる前に、「わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない」（ヨハネ14:27）と、特別な平和、即ち十字架の死によって神との和解が成立したことによる平和を彼らに与える、と約束されていた。

今回の顕現は特にトマスのためだった、と思われる。主はトマスの言葉のように（20:25）、彼自身の手で、ご自分の手とわき腹にある傷を確認するように促された（20:27）。そのときトマスは畏れに満たされ、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。これは最高の信仰告白である。「主」（ヤハウェ）は旧約聖書に出てくる主なる神の名前である。ヨハネ福音書の冒頭で「言は神であった」（1:1）、「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」（1:14）と、著者は読者にイエスを紹介しているが、トマスのこの告白は、まさに受肉された永遠の神、イエス・キリストに対するトマス個人の信仰告白であった。

主は「見ないのに信じる人は幸いである」（20:29）と言われた。主イエスは復活から昇天まで四十日にわたって多くの人にご自身を現された（使徒1:3）が、それはごく限られた人であり、昇天後はだれも肉の目で復活された主を見ることはできない。主はそのことを見越されて、見ないのに主を信じる者のさいわいを宣言され、後代の者にチャレンジを与えられた。

**〈ヨハネ福音書の目的（20:30-31）〉**

それではどのように、見ないのに信じることができるだろうか。まさにその目的のためにヨハネ福音書が書かれた、と著者は言う。彼が福音書を書いたのは、読者が、イエスは神の子メシアであると信じて永遠の命を受けるためであった。私たちはいま復活の主を目で見ることはできないが、聖書を通してトマスと同じ信仰告白に導かれ、信仰者として歩むことができる。（後藤公子）

子どもカテキズム

問23 主イエス・キリストとお呼びするのはなぜですか。

答 イエスとはお名前で「罪からの救い主」、  
キリストとはお働きを表し、「神さまから油を注がれた方」という意味です。  
このお方が私たちの主として与えられました。

ですから、私たちは、喜びと感謝をもって主イエス・キリストとお呼びするのです。

参照教理問答 ハイデルベルク信仰問答 問31、33

ウェストミンスター大教理問答 問42

ジュネーブ教会信仰問答 問34～36

**(油注がれ特別な職務へ)**

イエス・キリストと表記するとキリストが名字や姓のように思われるかもしれない。しかし「キリスト」とは、「油注がれた方」を意味するヘブライ語称号「メシア」をギリシャ語読みしたものである。旧約時代のイスラエルにおいては、預言者、祭司、王は主なる神がお立てになった特別な職務であり、神によって聖別されることが必要であった。そこで預言者、祭司、王の職務に任命されるにあたり、聖別のしるしとして頭に香油を注がれることが行なわれた。この油注ぎは、神の霊がその人に下り、神の特別な賜物が与えられることを表すしるしである。従って「メシア」「キリスト」は、神によって立てられる特別な職務に就く者を示すことになった。

**(真実のメシア)**

イエス様に「キリスト」という称号が加えられたのは、人を罪から救うという神様の特別な職務を果たすために地上に遣わされたからである。この特別な職務は、子なる神が、へりくだってまことの人となり、罪なき生涯を歩み、十字架にかかれることによって果たされる。ではイエス様に特別な職務が与えられたことはこの地上においてどのように示されたのか。それは旧約時代のような油注ぎの儀式によってではなく、その儀式により象徴されていた聖霊の降臨によってである。イ

エス様は公生涯のはじめに洗礼をお受けになった。その時、神の霊が鳩のようにイエス様に下り、天から「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声があった。(マタイ3:16-17) こうしてイエス様が神の御子であること、真実のメシア、キリストであることが明らかにされたのである。

**(キリストの職務)**

キリストに与えられた特別な職務の中身を考えてみると、旧約において「メシア」という称号を伴ってイスラエルに設置された職務である預言者、祭司、王という観点からとらえることができる。詳細はこどもカテキズム問25～27で扱われるのでそちらに譲るが、この三職は元来神様ご自身が担ってこられた働きに対応している。旧約時代に神様がイスラエルのうちにこの三職をお立てになる際には、一人の人間が三職を一手に担いきることができないということから神様は一人あたり一職と、複数の人を任命された。しかしイエス様は一人で三職を果たすという他に比類のないことをされた。それはイエス様がまことの人であると同時に子なる神でもあられたからである。かくして私たちはイエス様を三職を一手に握っておられる主なる神と認め、「主イエス・キリスト」とお呼びする。

(吉田 崇)

---

テキスト	ヨハネによる福音書 20章24～31節
カテキズム	子どもカテキズム 問23
参照教理問答	ウェストミンスター信仰告白 8:4 同大教理問4、43 同小教理問24

---

### 〔単元のねらい〕

トマスは、復活のキリストの傷跡を見て、初めてキリストを信じるようになった。しかし、私たちは、直接、復活のキリストと出会うことは出来ない。信仰により、復活のキリストと出会い、キリストの贖いに与っていることを伝えたい。

---

## 「十字架のキリストを見よ」

---

最初にお読みしました聖書のテキストは、主イエスが復活された後の出来事です。

主イエスが十字架に架けられ、私たちの罪の償いのために死を遂げられてから三日目の朝、主イエスは復活されました。安息日を終え、新しい週の初めの日の朝に、マグダラのマリヤは、イエスを丁重に葬るために墓に行きました（ヨハネ福音書ではマグダラのマリヤのみが記されているが、他の福音書では婦人たちとなっている）。マリヤが見たのは、空の墓でした。しかし、彼女は天使により主イエスの復活を聞かされ、また現実に復活の主イエスと出会います。そこで彼女は復活のイエスを信じ、またイエスこそが真のキリスト（救い主：メシア）であることを信じたのです。

そして、その事実を弟子たちに伝えました。そこには十二弟子の内、自殺したイスカリオテのユダとトマスを除く十人の弟子たちがいたのです。

ペトロを始めとする弟子たちも、マリヤの話を知りただけでは、半信半疑だったかも知れません。しかし復活の主イエスは、鍵の開いた家の中にいた弟子たちの前にお現れになられ、弟子たちも、マリヤ同様、復活の主イエスを信じ、イエスこそがキリストであることを信じたのです。

しかし、その場に居合わせなかったトマスは、他の弟子たちの話を聞いても信じる事が出来な

いませんでした。だからこそトマスは、「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」(20:25)と語るのです。おそらく、神さまを信じる事が出来ない人たちも、皆、同じ思いにあることだと思います。

しかし、主なる神さまは、トマスが信じる事が出来ないままで黙って放っておられるお方ではありません。八日の後、つまり次の週の初めの日、トマスを含む弟子たちが再び家の中にいた時、復活の主イエスは、再び弟子たちの前にお現れになられたのです。そしてイエス様は、復活を信じる事が出来なかったトマスに対して、怒られることなく、優しく包むようにして、「あなたがたに平和があるように」とお語りになられます(26)。主イエスのこの言葉は、弟子たち全員に対して語りかけられた言葉ですが、トマスに対しても語りかけられた言葉でもあります。トマスは決して咎められたわけではありません。そして主イエスはトマスに優しく語りかけられたのではないのでしょうか。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」(27)と。

この時、トマスの心の目は開かれたのです。お

よそ三年の間、トマスは主イエスの弟子として、共に宣教の旅を続けてきました。トマスはその間のことを思い出したのではないのでしょうか。

主イエスは、既に死んだ少女の手を取り「タリタ、クム（少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい）」と語られることにより、少女は起き上がりました（マルコ5:35-43）。

またマリアとマルタの兄弟ラザロは、墓に葬られて四日経った後に、主イエスによって復活しました（ヨハネ11:1-44）。

そればかりか、主イエスは御自身の苦難と復活について、三度にわたって予告されていました（ルカ9:22、9:44、18:32-33）。

トマスは、一瞬のうちに、これらの出来事、主イエスの言葉を思い出したのです。そして、目の前におられるイエスこそが真のキリスト（救い主：メシア）であることを信じるのが出来、「わたしの主、わたしの神よ」（20:28）と告白することが出来たのです。

さまがお現れになることはないよ」と言う人たちもいるでしょう。そうです。イエスさまは、復活されてから40日後に、天に昇られ、今なお、父なる神さまの右の座に就いておられます。私たちが、直接、主イエスのお姿を見ることは出来ません。しかし、キリストが十字架で流された血、裂かれた体は、私たちの救いのためです。私たちは信仰の目をもって、キリストの十字架を見上げることが出来るのであり、私たちは信仰の目をもって、復活のキリストと今も出会っているのです。主イエスがトマスに対して「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである」と語られたのは、直接復活のキリストと出会ったからではなく、信仰の目をもって復活のキリストと出会う時、イエスさまをキリストとして信じる事が出来るのであり、そのことこそが、私たちの本当の幸せであることを、イエスさまは私たちにお語り下さっているのです。

（辻 幸宏）

でも、みんなは「私たちには復活されたイエス

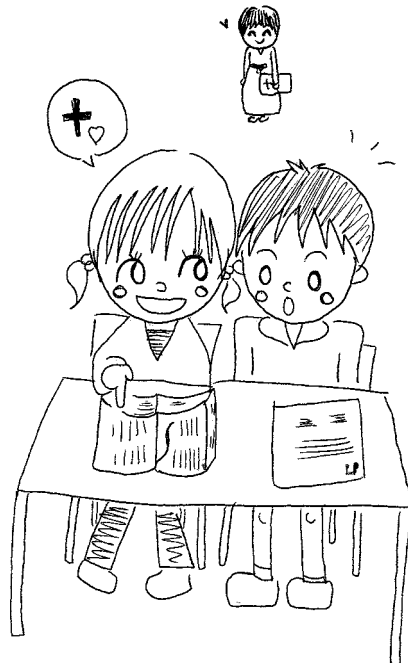
---

[今週の暗唱聖句] ヨハネによる福音書 20章29節

イエスはトマスに言われた。

「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

---



## 〈ねらい〉

見ないで信じるさいわい。

## 〈展開例〉

えりちゃんは幼稚園で神さまのことをお話したことがあります。神さまが世界を造られたこと、人間も造られたのよ、と話しました。そしたらある男の子が「神さまなんかないよ、いるんなら見せてみる」と言いました。えりちゃんは困ってしまいました。でも、「見えなくてもいるんだから！」とがんばって言いました。

お腹にいっぱい空気を吸って吐きだしてみましよう。吐きだした空気はみえますか？ 外の木が大きく揺れています。風が吹いているからです。でも、風は目にはみえません。見えないからと言って、空気や風なんかないよ、と言う人はいないで

しょう。空気がなければ生きていけません。外の空気が早く動くと風になり、さらに早くなると大風になり、嵐になることもあります。だれでも、空気や風を信じています。だから、目に見えないから神さまを信じない、というのは間違っているのです。

まだ教会学校に来ていないお友だちもみんなが心の目で神さまを見て、信じられると良いですね。お祈りしましょう。

## 〈お祈り〉

天の父なる神さま、イエスさまと聖霊の神さまをくださってありがとうございます。今週も毎日一緒にいて守ってください。イエスさまによって、アーメン。

## 〈やってみよう〉

## ゲーム「この手 だ～れだ」をしよう！

## ○準備するもの

目隠し用のバンダナのようなもの一枚。

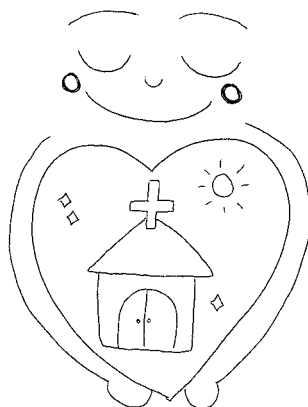
## ○遊び方

ひとりが目隠しをし、その子の前にお友だちがだまって手を差し出す。手をよくさわって、誰の手かを当てる。

声を出すとすぐわかってしまうので、そっと静かに……

逆に幼い子の多いクラスでは、「だ～れだ！」と本人がひとこえ言って当てやすくしても良い。

全員が目隠しができるように、一巡する。



**〈ねらい〉**

救い主に対する信仰を告白し、信じる者として生きる幸いを味わう。

今のわたしたちは実際に主のお姿に接することはできないが、見ないで信じることの恵みを味わう。

**〈展開例〉**

イエス様は十字架にかけられて死なれ、三日目によみがえられました。これはイエス様を神の子・キリストと信じるすべての人の罪のために、私たちの代わりにイエス様が死んでくださったのです。そのイエス様はかねてからの予告通り、三日目によみがえられました。

そのイエス様はお弟子さんたちの前にあらわれてくださいました。そのときにいなかったトマスさんは、他の弟子たちがイエス様が復活されたことを話しているのを聞いても、「イエス様の手のくぎのあとに手を入れてみなければ、またわきのやりのあとに手を入れてみなければ決して信じられない」と言って、信じようとしませんでした。そんなトマスさんにも、イエス様はあらわれてくださったのです。一週間後、今度はトマスさんもいるところに再びイエス様はあらわれてくださいました。それもユダヤ人を恐れてきっちり戸じまりをしている場所にあらわれてくださいました。そして、トマスさんに「わたしの手のくぎあとに手を入れてみなさい。わきのやりのあとに手を入れてみなさい。あなたは見たから信じたのか、見ないで信じる者は幸いである。」とおっしゃいました。最初は信じられなかったトマスさんも、このときに、イエス様がよみがえられたことが信じられました。

今、わたしたちは、実際に自分の目で復活のイエス様のお姿を目にすることはできません。しか

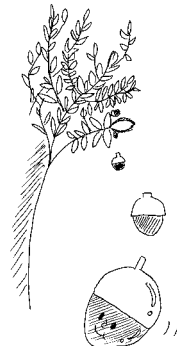
し、わたしたちは聖書を通してこのことを知ることができます。実際に復活のイエス様にまみえた人々の証言を聖書を通して聞くことができます。「信じない者ではなく信じる者になりなさい」、「わたしを見たから信じたのか、見ないで信じる者は幸いである」とのイエス様のお言葉の通りに、神の御子である主イエス・キリストを信じるができるようにされた人こそが、「主イエス・キリスト」とイエス様をお呼びすることができるのです。

**〈やってみよう〉**

マタイ福音書28章、マルコ福音書16章、ルカ福音書24章、ヨハネ福音書20章、21章を読み比べて、イエス様が復活されてからどんな人たちに復活のお姿をあらわされたか、またどんな形であらわされたかを見てみよう。

**〈祈り〉**

神さま。私たちはこの目でイエス様のお姿を見ることはできませんが、聖書を通してイエス様の復活されたことを知り信じるができるようにしてください。見ないで信じる幸いな者としてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



### ✦ 聖書をひらいて (ヨハネによる福音書20章24～31節)

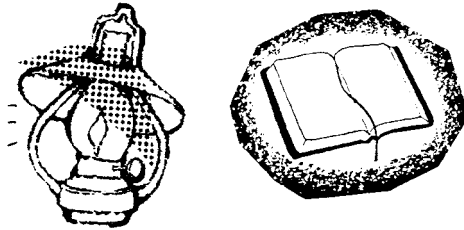
軍 外 海 ヲ ミ 多 思 ラ  
 沢 次 シ 名 川 〇 ?

漢字が、汚れて見えなくなっています。カタカナを入れて、カタカナを読んでね。

こたえ⇒

### ✦ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒ イエスさまを目で見た人は、イエスさまを信じることができましたが、イエスさまを眼でみることができないボクたちは、どうやってイエスさまを信じることができますか？ (Tくん・12才)



### ✦ 言ってみよう

問24

主イエス・キリストは、わたしたちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか？

イエスとは、お名前で「罪からの救い主」、キリストとは、お□□□□を表し、「神さまから油を注がれた方」という意味です。このお方が私たちの主として与えられました。ですから、私たちは、喜びと感謝をもって主イエス・キリストとお呼びするのです。

### ✦ やってみよう

☆先週は分級のお友達の名前について聞きました。「キリスト」とは、「神さまから油を注がれた方」という「お働き」をあらわしています。ぼくたち・わたしたちが、神さまがお喜びになる「はたらき」をすることができるよう、将来の夢があったら教えてくださいね。

### ✦ 今週の暗唱聖句 (ヨハネによる福音書20章29節)

イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」



〈ねらい〉

### 1. トマスの疑いとイエス様との出会いについて

トマスは、中途半端な状況証拠によって信じるのではなく、ちゃんとイエス様とお会いしてから信じたいと思っていた。そこにはトマスの不信仰があったかもしれないが、イエス様は、喜んでトマスに会われた。トマスの疑った時の気持ちとイエス様と出会ったときの気持ちをよく考えたい。

### 2. 「見ないで信じる」ということについて

今私たちはトマスたちと同じように、復活の主イエス・キリストを眼で見ることはできないが、聖書と聖霊の導きと信仰を通して、イエス・キリストと出会うことができることを伝えたい。

〈子どもカテキズム〉

問23：主イエス・キリストとお呼びするのはなぜですか。

答：イエスとはお名前で「罪からの救い主」、キリストとはお働きを表し、「神様から油を注がれた方」という意味です。

このお方が私たちの主として与えられました。ですから、私たちは、喜びと感謝をもって主イエス・キリストとお呼びするのです。

〈展開例〉

### 1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

### 2. 生徒と一緒に考える。

Q. トマスの、疑った時の気持ち、イエス様と会った時の気持ちを想像してみよう。

Q. 「わたしの主よ」と叫んだトマスの気持ちについて話し合ってみよう。

Q. イエス様を「見ないで信じる」ってどういうことだろうか？

Q. 何によって、私たちはイエス様を信じることができるのか？



信じない者ではなく、信じる者になりなさい

テキスト フィリピの信徒への手紙 2章6～8節

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリピ2:6-8)。

この箇所は、キリストの謙卑を表している。神である御子が人となられたのである。永遠の神が時間の中に、無限の神が有限の中に、創造主が被造物の中に、絶対者が相対者の中に入ってこられたのである。その目的は何か、それは人間の救済のためである。勿論神が神でなくなったという訳ではない。しかし、神としての特権を放棄されて人となられたのである。万物の主である神が卑しい人となって、「仕える者」になったのである。

本来人間が仕えるべき神が、人となって人間に仕える者となった。これ以上のへりくだりはない。

「神の身分でありながら」(ver6)。これは、「神の御姿」とも訳する事が出来て、人間が創られた時の「神のかたち」(創世記1:27)である。これは神の栄光そのものを表している。キリストは、この神の栄光を「固執しようとは思わず」(ver6)におられたのである。アダムは、人間でありながら、神のようになろうとして(創世記3:5)墮落してしまっただけで、キリストは人となって、十字架の死に至るまで謙遜に従われた。

「かえって自分を無にして」(ver7)、これは、キリストがご自分を全く失われてしまったということではない。むしろここで強調されていることは、神が「肉」を取られたという事実である。そして、十字架にまで従われたという謙遜さである(ver8)。

「僕の身分になり」(ver7)、これはデューロス

というギリシャ語で、基本的には奴隷という意味である。神がキリストにあって「肉」を取られて、奴隷のように仕える者となったのである。そしてこれこそが、「かえって自分を無にして」(ver7)にほかならないのである。神の不流通属性である、全能性、全知性、不偏性を放棄されたことにはほかならないのである。

神がこのように、自分自身の在り方を投げ打ってまで、「人間と同じ者になられた」(ver7)。「人間の姿で現れ」(ver7)たのである。これは神が人間としての仮の姿を取られたという仮現説ではない。キリストは確かに「肉」を取られたのである。キリストは完全な人間になられたのである。それは、人間を救うためである。十字架によって人間を救うために、キリストは完全な人として、十字架にかかられたのである。

「へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(ver8)。「へりくだって」(ver8)、これは、「ご自分を卑しくし」とも訳することができる。ここに、キリストの謙卑がある。

キリストは、御父に対する従順を表すために、十字架の死に至るまでも従われたのである。御父のキリストに対する御心は、人間の救いのために十字架にかかり、人間の救いを成し遂げることにあり、その神の御心を表すために、キリストは、謙遜に十字架の死に至るまで従われたのである。

キリストがこの世に来られた目的は、神の御心を行うためであった(ヘブライ10:7)。御父の御心に従い十字架の死にまで従われたイエスの姿こそ、キリストの謙卑にほかならないのである。

(小堀 昇)

## 子どもカテキズム

問24 主イエス・キリストは、私たちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか。

答 主イエス・キリストは、私たち罪人の身代わりとして十字架に死に、三日目に、永遠のいのちによみがえられました。

ですから、私たちは、罪赦されて神と共に永遠に生きる祝福に生かされています。

参考教理問答 ウェストミンスター小教理問答 問27

ウェストミンスター大教理問答 問46～50

ハイデルベルク信仰問答 問43

**(神のへりくだり)**

主イエス・キリストは子なる神でありながら、人となって地上に下ってくださり、ついには十字架におかかりになった。教会ではこのことを「キリストの謙卑」とか「キリストのへりくだり」と言い表してきた。このキリストのへりくだりはどういう意図、目的でなされたのであろうか。

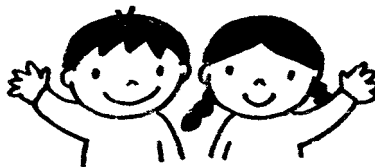
従し、人々に心から仕える神の僕として活動された。このへりくだりは十字架において最も極まった。罪人とみなされて罪人が必ず経験しなければならない死をも引き受け、とりわけ十字架という醜い死に方までも引き受けられることでキリストのへりくだりはクライマックスを迎えた。

**(へりくだりの極み、十字架)**

人間が神様のお嫌いになる背きの罪を犯したことにより、神と人との間には隔ての壁ができてしまった。この隔てが仲保者によって取り除かれることによって、私たちの救いは成り立つ。この仲保者として、父なる神様は、三位一体の第二位格にしてご自分の愛するひとり子である御子イエス・キリストを、いと高き天から地上へと遣わされた。しかも人間の肉をとっておとめマリアより生まれさせ、罪を除いては私たちと何ら変わりない弱い人間性を持ってまことの人として生きてくださった。そして父なる神様と律法に徹底的に服

**(私たちの救いのため)**

このへりくだりは、私たち罪人の身代わりとなって私たちを救うためであった。へりくだって人となられたキリストは罪のない身に私たちのすべての罪を負い、罪人の身代わりとなって死んで、私たちの罪の償いを果たして下さった。私たちが聖霊によってこのキリストと一つにされる時、私たちの古い自分もキリストと共に十字架につけられ、私たちの罪もキリストと共に十字架につけられて葬られる。こうして私たちは罪と死の支配から解放され、神様との隔ての壁を取り払われて、神様といつまでも共に生きる祝福に入れられるのである。 (吉田 崇)



テキスト            フィリピの信徒への手紙 2章6～8節  
カテキズム        子どもカテキズム 問24

### 〔単元のねらい〕

主イエス・キリストが「どなた」であり、「何をなさったのか」。これは、わたしたちの信仰の核心にかかわる事柄である。その主イエスのみわざについて、その「低さ」と「高さ」という角度から、二度にわたって学ぶ。今日は、その「低さ」「へりくだり」であるが、そこにすでに高く上げられた「高挙の主」からの光が射し込んでいることが大切であろう。「へりくだりの主」は、わたしたちを高く引き上げるために、とことんまで低く降ってくださったお方である。へりくだることによって、わたしたちに仕え、わたしたちの友となってくださった。そこにある豊かな慰めと励ましを喜びたい。

## 「へりくだられたお方」

今日の聖書の御言葉は、主イエスさまがへりくだってくださったお方であるということを教えています。まず、「へりくだる」「へりくだり」という言葉をぜひおぼえてください。主イエスさまがへりくだってくださったとは、高いところにおられるお方が低いところに降りて来られた、ということです。いと高きお方が低いところまで降りて来てくださった、それが主イエスさまです。

今日は、少し不思議なことをお話ししなければなりません。わたしたちにとって、この世界に生まれてくるということは、たいへん大きな喜びです。まことの神さまによって造られ、この世に生を与えられたことを喜ぶということ以外の何ものでもありません。わたしたちは、まことの神さまの作品なのであって、神さまに造られて、この世界に生まれたことを喜ぶのです。みんなも、神さまによって造られ、両親をとおして、この世界に命を与えられました。たいへん嬉しいことです。

けれども、主イエスさまにとって、この世界に生まれてくるということは、わたしたちの場合とはまったく違っていました。それは、主イエスさまは、まことの神さまであられるからです。

今日の御言葉にこうありました。「キリストは、神の身分でありながら」。これは、主イエスさまがまことの神であられ、いと高きお方であるとい

うことです。主イエスさまは、この地上にひとりの人としてお生まれになる前に、すでにまことの神の独り子、独り子なる神であられました。そのまことの神であられる方が、神の作品、被造物である人間としてお生まれになる。これは、考えてみるとたいへんなことなのです。いと高きまことの神さまが、まるでまことの神さまであることを止めるかのような出来事です。

このことは、クリスマスの出来事です。主イエスさまは、ヨセフとマリアの子どもとしてお生まれになりました。そのときに、聖霊が働いて、とても不思議なことです。主イエスさまは、まことの神さまでありながら、ひとりの人間としてお生まれくださいました。これは、神の神秘のみわざです。こうして、高いところにおられたお方が低いところに降ってくださった。これは、へりくだりのみわざです。

今日の御言葉は、続いて語っています。「(キリストは)、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」。これは、主イエスさまのへりくだりは、お生まれになったことだけではなく、ということです。主イエスさまは、地上にお生まれになって、その地上のご生涯にお

いても、へりくだって歩まれました。そのへりくだりの中心は、主イエスキリストの十字架です。

わたしたちは、主イエスキリストが十字架につけられてくださったことを繰り返し学んでいます。主イエスキリストは、十字架につけられる前の夜、ユダヤ人の指導者たちによって捕らえられ、大祭司の取り調べを受け、総督ポンテオ・ピラトによる裁判の席に着いて、多くの苦しみを受けられました。主イエスキリストを捕らえた役人やローマの兵士たちは、主イエスキリストをあざけり、つばをかけ、むち打つなど、いろいろなひどい仕打ちを主イエスキリストに与えました。そして、主イエスキリストは、金曜日に、十字架につけられて、死んでくださいました。

その主イエスキリストの十字架のみわざに、いったいどんな意味があったのだろうか。聖書は、わたしたちに、それはへりくだりのみわざであったと教えています。へりくだるとは、低くなってくださることです。それは、わたしたち人間よりも低くなってくださって、罪人のひとりに数えられてくださった。そして、わたしたちのしもべとして、わたしたちに仕えてくださった、ということです。わたしたちのために命をささげてくださったということです。主イエスキリストの十字架は、わたしたちのための犠牲の十字架なのです。

主イエスキリストは、十字架につけられる前の夜のこと、弟子たちの足を洗ってくださいました（ヨハネ13:1-20）。食事の席から立ち上がり、手ぬぐいをとって腰にまとい、弟子たちの足を洗ってくださいましたのです。それは、ふつう、奴隷がすることでした。主イエスキリストは、その奴隷がすることをして、ご自身がしもべとなってくださること、しもべとして十字架につけられてくださることを教えてくださったのです。

主イエスキリストのへりくだりのみわざは、お生まれのときに始まり、そして、十字架において完成に至ります。主イエスキリストは、十字架において、徹底してへりくだってくださいました。

主イエスキリストが苦しめられた。そのように、わたしたちも苦しめられることがあります。わたしたちの人生には、嬉しいこと楽しいことがたくさんありますが、悲しいこと苦しいこともたくさんあります。お友だちに裏切られたり、いじめられることがあるかもしれません。試験に失敗することがあるかもしれません。お父さんやお母さん、大切な家族を失うこともあります。その苦しいとき、痛みを背負うときに、この十字架につけられた主イエスキリストが、わたしたちと一緒にいてくださるのです。わたしたちの重荷を背負って、わたしたちに寄り添ってくださいます。聖書の詩編にこうあります。「天に登ろうとも、あなたはそこにいまし、陰府に身を横たえようとも、見よ、あなたはそこにいます」（詩編139:8）。わたしたちがもうひとりになってしまった、ひとりぼっちである、そう思うようなときに、けれども、主イエスキリストがそばに共にいてくださるのです。

そして、その主イエスキリストが、わたしたちに命を与えてくださいます。主イエスキリストは、わたしたちに命を与えるために、代わって十字架につけられて死んでくださいました。そして、主イエスキリストはよみがえられました。復活の命に生きておられます。その主イエスキリストの新しい命が与えられて、わたしたちは、苦しいときに、何度でも立ち上がって歩み始めることができます。

そのときには、主イエスキリストに支えられて、わたしたちは、人を助け、慰め、励ます者として用いられるのです。苦しみを耐え忍んで立ち上がった者として、苦しみの中にお友だちを力づけることができる。主イエスキリストは、わたしたちひとりひとりに、そんなすてきな力を与えてくださいます。そのためにこそ、へりくだって死んでくださいました。よみがえってくださいました。このへりくだられた主イエスキリストを讃美して、主イエスキリストと共に歩みましょう。（望月 信）

---

〔今週の暗唱聖句〕 フィリピの信徒への手紙 2章7～8節

人間の姿で現れ、へりくだって、  
死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

---

## 〈ねらい〉

主のへりくだりは、わたしへの愛の深さの表れであることを実感しよう。

## 〈展開例〉

たかし君はお友だちの家へ遊びに行ったとき、大変なことをしてしまいました。ふざけて遊んでいるうちにお友だちの家のガラスを割ってしまったのです。おばちゃんは「けがしなかった？」と優しく聞いてくれました。でも、割れたガラスはどうしたらいいのでしょうか。どうしたらいいのかわからないままうちに帰ってきました。困ったたかし君はお母さんに話すしかないと思って話しました。いっぱい叱られると思ったけど、それほどではなく、お母さんはすぐたかし君を連れてお友だちの家へ行きました。お母さんは何回も何回も

頭を下げておばちゃんに謝りました。ガラスの片付けも手伝いました。そして、新しいガラスをガラス屋さん頼んでつけてもらいました。帰るときも何回もお詫びを言って帰ってきました。

お母さんは何も悪いことをしていないのにたかし君のために何度も謝り、ガラスを買って付け替えてくれました。たかし君にはガラスを買うお金なかなかったからです。

イエスさまは神さま、何も悪いことはしていないのに、ぼくやわたしの罪のために神さまに命を差し出して謝ってくださいました。

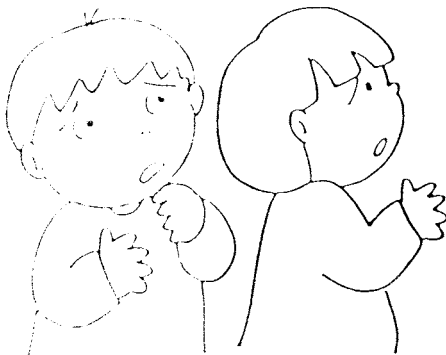
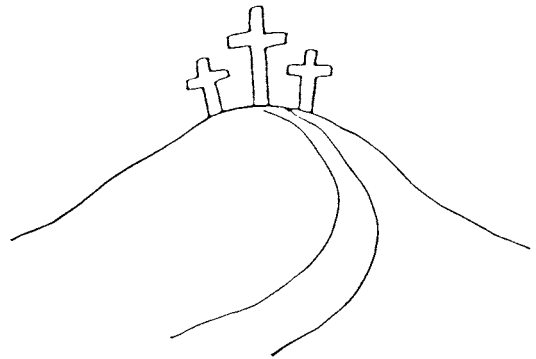
## 〈お祈り〉

天の父なる神さま、イエスさまをありがとうございます。今週も毎日一緒にいて守ってください。イエスさまによって、アーメン。

## 〈やってみよう〉

## ぬりえをしよう！

下の絵を適当な大きさにコピーし、色を塗りましょう。



イエスさまは、わたしたちの  
つみのために、くるしみをうけ  
わたしたちのかわりに  
じゅうじかにかかって  
くださいました。

## 〈ねらい〉

イエス様の栄光の輝きに対するへりくだりと、罪によって真っ黒に汚れた人の死から命への解放というふたつの光と影の対比から、神様と共にある祝福がどれほど大きなものであるかを伝えることができると思います。

## 〈展開例〉

Q. 「へりくだる」とはどういうことでしょうか。

→ある人が、相手よりも自分を低いもの、価値の少ないもの、つまらないものとするを、「へりくだる」といいます。

まことの神様が、私たちの間に、私たちの一人としておいでになりました。これはすごいことなのです。神様の独り子であられるイエス様が、神様であるにもかかわらず、私たちと同じ普通の人のようにお生まれになり、普通の人の同じようにこの世の決まりを守ってすごされたこと、しかし、お弟子さんたちに裏切られ、罪が無いのにピラトによって罪に定められ、たくさんの苦しみを受けて十字架につけられて死なれたこと、ご復活までの間お墓の中におられたことなど、これらすべてがイエス様の「へりくだり」でした。

このほかにもイエス様は、幼い子どもたち、貧しい人たち、病気の人たち、差別されている人たちのために、ずっと「へりくだって」すごされました。そこから具体例を示してもよいかもしれません。

Q. イエス様はどうしてへりだられたのでしょうか。

→神様が世を愛されたから（ヨハネ3:16）。また、キリストにみられる、励まし、愛の慰め、霊による交わり、それに慈しみや憐れみの心……といったこと（フィリピ2:1-5）も理由になると思います。

そして、その目的は、私たちの身代わりとなって罪のないイエス様が罰を受けられて、私たちが罪から救ってくださるためでした。

Q. もしもイエス様がへりくだってくださらなかったら、私たちはどうなったのでしょうか。

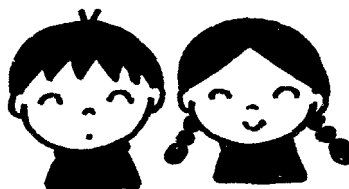
→私たちの罪は赦されず、神様と共に永遠に生きる祝福もいただけないでしょう。

Q. イエス様がへりくだられたおかげで、私たちにはどのような良いことがありますか。

→私たちの元々の罪深い心と体が、イエス様と共に十字架につけられて死に、私たちが罪から自由になり（ローマ6:6）、感謝してイエス様と共に（ローマ6:8）、イエス様のために生きることができるようになります（コリント二5:15）。

## 〈祈り〉

天の父なる神様、私たちにへりくだることを教えてくださったことを感謝します。私たちが、お手本であるイエス様に似た者となることができますように。イエス様が多くの人を支えたように、困っている、苦しんでいる、悲しんでいる友だちを支える人となれますように。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。



✠ 聖書をひらいて (フィリピの信徒への手紙2章6～8節)

絵と言葉を結んでください。



へりくだって



人間のすがたであられ



死にいたるまで

✠ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒ アニメのヒーローやスポーツ選手は、強くてカッコイイから、みんなあこがれるのだと思います。イエスさまは、十字架におかかりになった時、どうして、神の力を使って、十字架からおりなかったのですか？ (Kくん・10才)

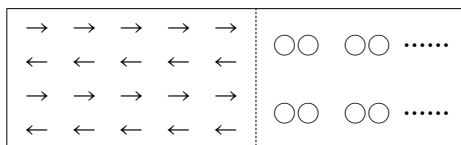
✠ 言ってみよう

問24

主イエス・キリストは、わたしたちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか？

主イエス・キリストは、私たち罪人の身代わりとして十字架に□□、三日目に、永遠のいのちによみがえられました。ですから、私たちは、罪赦されて神と共に永遠に生きる祝福に生かされています。

✠ やってみよう 「おんぶ競争！」



二人一組になって、「おんぶ競争」(先生を、おんぶできる子いるかな?)

「イエスさまは、わたしたちの罪を負ってくださいました！」と言ってバトンタッチ!!

(実際におんぶして走ることによって“負う”ということの意味のほんの一部ですが体験し、あとで感想を言ってもらいます。)

✠ 今週の暗唱聖句 (フィリピの信徒への手紙2章7～8節)

人間の姿で現れ、□□□□□□、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順じゅうじゅんでした。



〈ねらい〉

1. イエス・キリストのへりくだりについて学ぶ

イエス様が人間としてこの地上に来てくださったことにも、その生涯の歩みにも、そして十字架の死においても、イエス様のへりくだりが示されていることを覚えたい。

2. イエス・キリストのへりくだりが私たちの罪のためであったことを学ぶ。

イエス様のへりくだりは、私たちが罪から救うためであった。私たち罪人の身代りとなるために、イエス様は神の身分を捨て、十字架にかかってくださいました。このイエス様の姿にならい、友人や家族に仕える者に変えられるように励みたい。

〈子どもカテキズム〉

問24：主イエス・キリストは、私たちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか。

答：主イエス・キリストは、私たち罪人の身代りとして十字架に死に、三日目に、永遠の命によみがえられました。

ですから、私たちは、罪赦されて神と共に永遠に生きる祝福に生かされています。

〈展開例〉

1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

2. 生徒と一緒に考える。

Q. イエス様のへりくだりは、どの点にあるだろうか？

Q. イエス様のへりくだりの目的は何だったのか？

3. これからの信仰生活のために

イエス様が、そこまで自分を低くして私たちと共に生きてくださったように、私たちも、それぞれの家庭や学校の中で自分を低くして他者に仕える者になっていけるよう、子どもたちを励ましたい。



自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました

「このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです」(フィリピ2:9-11)。

ここに語られていることは、キリストの高擧についてである。「このため」(ver9)、と聖書は言っているが、これは、キリストが十字架の死に至るまで御父に従われたその結果という意味である。キリストは、御父の御心に従って、十字架への道を歩まれて、その使命を十字架上で成し遂げられたのである(ヨハネ19:30)。キリストのこの地上での歩みは、神の御心に従いぬかれた歩みである。

このキリストの服従に対する、神の応答が次の「神はキリストを高く上げ」(ver6)という御言葉である。高く上げとはキリストの復活と昇天である。キリストが十字架の死に至るまで従われたから、キリストに復活と昇天というご褒美をあたえられたということではない。これは、本来キリストのものであったものが、キリストに帰せられたにすぎないのである。更に「あらゆる名にまさる名をお与えになりました」(ver6)。これは、神から与えられたものであるが、これもまた本来キリストが持っていたものが、キリストの謙卑の結果として、帰せられたものなのである。

そして、この名とは、「主」(ver11)という名前である。この「主」こそが、あらゆる名にまさる名なのである。これは、全被造物を超えて、被造物を完全に支配する名前に他ならない。「こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがす

べて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです」(ver10-11)。

「こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて」(ver10)という御言葉は有形無形の全被造物を表すユダヤ的な慣用表現であると言われている。神の偉大さは、聖書の至る所で述べられているものであるが、この地上のあらゆる被造物が、キリストの前にひざまずくことが言われているのである。これこそが、キリストの高擧である。

そして、全被造物が「イエス・キリストは主である」(ver11)と告白するのである。この告白は、あらゆる信仰告白の基礎をなすものであり、最も基本的な信仰告白であると言えるのである。そして、天上天下のあらゆるものが、キリストを主であると告白することを通して、「父である神をたたえるのです」(ver11)とあるように、御父がほめたたえられるのである。

これらの御言葉が語られた前提として、フィリピの教会の中の様々な問題や不一致があったと言われている。そして、その問題の解決のためにパウロが、キリストの謙卑を模範として解決を図ろうとしているとも言われている。しかし、問題の解決のためだけならば、キリストの謙卑についてだけ論じていればで十分である。ここで、キリストの謙卑に続き、キリストの高擧について語られているところから、フィリピの教会内の不一致を背景としながらも、ここに表されているものは、明確なキリスト論の展開についてであるということができるのである。(小堀 昇)

## 子どもカテキズム

問24 主イエス・キリストは、私たちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか。

答 主イエス・キリストは、私たち罪人の身代わりとして十字架に死に、三日目に、永遠のいのちによみがえられました。

ですから、私たちは、罪赦されて神と共に永遠に生きる祝福に生かされています。

参考教理問答 ウェストミンスター小教理問答 問28

ウェストミンスター大教理問答 問51～57

ハイデルベルク信仰問答 問45

**(高く挙げられたキリスト)**

神の御子として天におられた主イエス・キリストはへりくだって人となり、十字架の死までも忍ばれた。だがキリストは死んでから三日目に復活された。そして40日間地上で生活された後、弟子たちが見守る中で天に挙げられ、栄光をお受けになった。キリストは今、父なる神の右に座して、この世界を治めておられる。このようにキリストが天の父なる神様によって十字架の死から天の栄光へ、下から上へと挙げられたことを「キリストの高擧」と言い表す。

父なる神様によってキリストが十字架の死から天の栄光にまで挙げられたことは、父なる神様とキリストが人間の罪、及びその報いとしての滅びと死に打ち勝ってくださったこと、いかにどん底にあってもお救いになることができる全能の力を示すものである。

**(賛美され、礼拝されるべきお方に)**

高く挙げられたキリストは、真理の霊、慰め主、弁護者として、聖霊を私たちにお送りになった。聖霊を受けた私たちは、高擧のキリストを仰ぎ、三位一体の神様を賛美し、礼拝するに至る。「こ

うして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」(フィリピ2:10-11)

**(初穂としてのキリストの復活)**

キリストの復活は、死ぬ以前の肉の体が単に生き返ったのではなく、栄光の体に甦られたのである。朽ちる体から、朽ちることのない霊的な体へと新たに復活したのである。そしてキリストの復活は、キリストを信じ、聖霊によってキリストと結び合わされた者にも与えられる。キリストと共に十字架に死んだ者は、キリストと共に復活させられる。それゆえキリストの復活は、私たちにも起こる復活の初穂と位置づけられる。私たちもまた罪と死から解放され、永遠の命に入れられることによってこの復活にあずかり始めている。私たちが今の肉体の死を迎えても、やがて栄光の朽ちない体、祝福に満ちた甦りが保証されている。この約束を確信しつつ、私たちは地上において、高擧のキリストを仰ぎ、その御心に従う者として喜びの内に歩みを進めるのである。(吉田 崇)

テキスト            フィリピの信徒への手紙 2章9～11節  
カテキズム        子どもカテキズム 問24

### 〔単元のねらい〕

主イエス・キリストは、いと高きところに上げられたお方でもある。復活ののち、天に上げられて、神の右に座しておられる。神の栄光を受けて、今も、教会と全地を統べ治めておられるお方である。そのお方が、聖霊を遣わして、ご自身と結びあわせられて生きる者としてわたしたちを招いてくださっている。それゆえ、キリスト者のたどる道は、へりくだることによって光栄を与えられる道である。教師が自らの生き方を問われることでもあろう。自らの身を振り返るならば、たいへん心もとないのである。けれども、信仰の確信に立って、この幸いに生きることへと子どもたちを招きたい。

## 「高く上げられたお方」

主イエス・キリストは、低くへりくだって、わたしたち罪人の身代わりとして十字架につけられたお方です。先週、いと高きお方が低くへりくだって、とことんまで低くなってくださいました。それは、わたしたちと共に生きるお方となって、わたしたちに命を与え、わたしたちを高きところにまで引き上げてくださるためです。ですから、今朝は、その主イエスさまがよみがえられたこと、さらに、高く天へと引き上げられて、御父の右に座しておられるということ、この高く上げられたことを学びます。

主イエスさまは、十字架につけられましたが、三日目に復活されました。そして、四十日の間、再び弟子たちにご自身をあらわして、復活を証しし、天に上げられました。使徒言行録に、主イエスさまの昇天の出来事が書き留められています(1:6-11)。主イエスさまは、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」と告げて、弟子たちの見守る中で、天に上げられました。主イエスさまの姿は、雲に覆われて、弟子たちの目から見えなくなりました。

この主イエスさまの復活と昇天のみわざを指して、今朝の聖書の御言葉はこう語りました。「こ

のため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました」。

ここで、今日大切に学びたいことは、「このため」と言われることです。これは、主イエスさまがへりくだってくださいました、十字架の死に至るまで従順にへりくだられた、そのことを御父が喜んでおられて、そのへりくだりのゆえに、今度は、いと高きところへと高く上げられた、ということです。御父は、主イエスのへりくだりを喜び、そのみわざに報いて、高く引き上げてくださいました。それが、復活であり、昇天なのです。

もう一度確認しましょう。主イエスさまの十字架のみわざは、へりくだりであり、しもべとしてのみわざでした。それは、弟子たちの足を洗う姿に象徴されるものです。

わたしたちの常識的な考えからすると、仕えることよりも仕えられることのほうがよいことに思われます。足を洗うよりも洗ってもらうほうがよいのです。人生というものも、できるならば楽をして生きていきたい、苦勞せずに生きていきたいと思います。自分のために、自分の楽しみのために生きる、そんな生き方を求めてしまいます。

けれども、主イエスさまは、弟子たちの足を洗って、すなわち、しもべとなって、わたしたちに徹底して仕えてくださって、わたしたちの犠牲とな

り、十字架につけられてくださいました。

御父は、そのような仕える姿、自らを与えて生きる姿を喜んでおられます。ですから、御父は主イエスをよみがえらせました。主イエスは復活し、新しい命を勝ち取りました。それは、仕えて生きる生き方、自らを与えて生きる生き方の勝利なのです。主イエスさまは、とことんまでご自身を与えて生き抜かれました。ですから、死の力にのみ込まれたところで、しかし、その死の力を打ち破って、よみがえることができたのです。これは、仕えて生きる生き方、へりくだって生きる生き方にこそ、命の力がある、命の勝利があるということにほかなりません。

主イエスさまは、天に上げられて、今、御父の右に座して、わたしたち信仰者を統べ治めておられます。また、この全地をご支配しておられます。それは、ご自身の霊、聖霊を与えて、わたしたちを招いてくださっているのです。

すなわち、ペンテコステにおいて、聖霊が降りました。すると、聖霊を注がれて、新約のキリスト教会が建てられました。そして、使徒たちをはじめとするキリスト者は、全世界に向かって福音を宣べ伝える者とされました。そのところで、キリスト者は、主イエスさまに似せられて、へりくだって仕える者とされているのです。主イエスさまが十字架につけられるまでに苦しめられたように、キリスト者も、福音を宣べ伝えるために、多くの苦しみを耐え忍びます。また、神と人に仕えて、愛のわざのために労苦するということもあるでしょう。いずれにせよ、聖霊は、わたしたちを、へりくだることをとおして神の祝福と光栄をいただくことへと招くのです。

ですから、キリスト者の生きる道は、自分の楽しみ、自分の栄光を求めるところにはありません。キリスト者の生きる道、生き方は、「自分のため」に生きることを止めて、「神と人のため」「他者のため」に生きることにあります。そのことによっ

て、わたしたちは、主イエス・キリストの前にひざまずいて、「まことにイエスさま、あなたこそ、真実の主であられます」と告白するのです。

「神と人のため」「他者のため」と言っても、自分がそこからはなはだ遠いことを思い、ため息が出てしまいます。自分のために生きるばかりである自らの姿に嫌気がさしてしまうほどです。このことは、どうていわたしたち人間に可能なことではありません。わたしたちは、「他者のため」と思えば思うほど、自分の心の中に、自分の利益や欲望がわき出してくる、罪深い者なのです。

けれども、だからこそ、主イエスさまは、神の右に座して、ペンテコステ、聖霊降臨のみわざを行ってくださいました。主イエスさまは、教会に生きるわたしたちに、今も聖霊を豊かに与えてくださいます。聖霊を注いで、主イエスさまご自身と結びあわせてくださいます。主イエスさまに結びあわせられて、わたしたちは罪赦されているのであり、また、「自分のため」ということから解放されて、「神と人のため」「他者のため」に生きることができるのです。

実のところ、自分のために生きて、どれほどお金を儲けようとも、どれほど遊んで暮らそうとも、人生のむなしさからは解放されません。むしろ、神の恵みとして豊かに与えられていることを感謝し、それを分かち合い、与える幸いに生きることで、人生は豊かにされます。人生の喜びを味わうことができます。真実の喜びや多くの感動をいただいて生きることができるのです。

ですから、おそれることなく、与える幸いに生きる者でありたいと願います。労苦して、泥にまみれて、けれども、そこに主なる神さまの祝福がともないます。たとえ肉の命を失おうとも、真実には、神共にいます永遠の命に生きることができます。それが、主イエスさまの約束なのです。

(望月 信)

---

[今週の暗唱聖句] フィリピの信徒への手紙 2章9節

このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

---

## 〈ねらい〉

キリストは罪と死に打ち勝ち、あらゆる栄光と力を持って今も生きておられる。わたしたちはその方を信じ、その方に守られていることを確認する。

## 〈展開例〉

イエスさまは赤ちゃんのときから大人になって最後に十字架でお亡くなりになるまで、ずっと大変なことばかりでした。楽しいことはあまりなかったのではないかと思います。

けれども、わたしたちの罪を背負って十字架上で死なれてからは、いっぺんにそれが変わりました。イエスさまの死は、わたしたちの罪の罰でした。その罰をしっかりと全部受けられた後、イエスさまは栄光の体によみがえられました。そして天に昇られて神さまの右に座っておられるので

す。それは、神さまと同じ栄光とお力を持っておられるということです。イエスさまの代わりに聖霊の神さまを送ってください、わたしたちを今も守り続けてくださっています。わたしたちが信じているイエスさまは弱々しく死なれた神さまではなく、宇宙一の力とすばらしさを持ったお方です。イエスさまは本当はもともとそういうすばらしいお方だったのに、わたしたちの救いのために、苦しい惨めな地上の生涯を送ってくださいました。神さまがわたしたちをどんなに愛してくださるかが良くわかるとと思います。その神さまの愛をもっとたくさんのお友だちに教えてあげたいですね。

## 〈お祈り〉

天の父なる神さま、神さまのお名前をほめたたえます。イエスさまによって、アーメン。

## 〈やってみよう〉

10月26日に歌った「ハレル ハレル……」をまたやってみよう！

(いのちのことは社、『ふくいんこどもさんびか』48番)

- 前回うたってよく覚えているので、立ったり座ったりを正確に、しかも早くやって楽しもう！
  - 歌詞の分担を何度も交替したり、「ゆっくり～はやく」を繰り返したり……
- いろいろやってみよう！



**〈ねらい〉**

神の御子として天におられた主イエス・キリストが、へりくだって人となり、家畜小屋で生まれてくださるほど低くなって私たちのところへ来てくださり、十字架の死をも負ってくださった。そのキリストがよみがえられた後、再び天に挙げられ、栄光をお受けになった。

この十字架の低さから天の栄光へ、下から上への方向性が「高挙」であり、その「高挙」の中心が「キリストの復活」であることを覚え、そのキリストの復活に結び合わされた者に与えられる、神との永遠に生きる祝福と喜び、感謝を伝えたい。

**〈展開例〉**

イエス様は、とても貧しい家畜小屋で人間の子としてこの世にお生まれになりました。神さまの御子であるイエス様は、何の罪もないのに十字架に架けられて殺されました。どうしてイエス様は、貧しい家畜小屋で生まれてくださったたり、何の罪もないのに十字架で死んでくださったりしたのでしょうか？

皆が礼拝でよく歌うさんびか「主われを愛す」の二番を思い出してください。「わが罪のため、栄えをすてて、天より降り、十字架につけり」とあるように、イエス様は私たちの罪のためにご自分の栄えをすてて天より降ってくださり、十字架に架かってくださり、これ以上ないほど低くなってくださったのです。

けれども、そのイエス様は、低くなって十字架上で殺され、それで終わりだったのでしょうか？  
いいえ、そうではありません。三日目におよみがえりになり、復活し、完全に死に打ち勝ってくださいました。よみがえられたイエス様は、四十日の間、何度も弟子たちの前に現れてくださいました。ペトロ、ヤコブ、アンデレも喜びました。「わき腹に手を入れるまでは信じない」と言ったトマスには、わき腹に触れさせておやりになりました。

「イエス様は本当によみがえってくださったんだ」、「一緒にいてくださるんだ」と、お弟子さんたちに勇気と喜びをお与えになるためでした。

このようにして何度もよみがえりのお体を人々の前に現してくださった後、四十日目に、イエス様は弟子たちから離れ、人々が見ている前で天に上げられました。イエス様は栄光につつまれて、天に昇っていかれたのです。天の父である神さまのもとにいかれました。まことの神の子が、人間の子として私たちの身代わりとなるために低くなってくださったお方が、十字架上でへりくだってくださったお方が、その十字架の低さから、今、天の栄光へと高く引き上げられ、神の右に着かれたのです。

しかし、天の高いところとは、私たちの届かない遠いところへいかれたのでしょうか？  
いいえ、決してそうではありません。イエス様は今、天国で御国の建設のため、私たちを守るために働いてくださっているのです。

私たちは、日曜日の礼拝に集まるたびに、よみがえり、天に昇られたイエス様とお会いすることができし、イエス様を囲んで礼拝することができます。そして、そのイエス様が、天に上っていかれたのと同じ姿で、また私たちのところへおいでになるのです。イエス様が再び来てくださるまで、イエス様を信じ、従っていきましょう。

**〈祈り〉**

天の父なる神さま、私たちのためにイエス様をこの世に遣わしてください、ありがとうございます。低くへりくだってくださったイエス様が、今、天に高く挙げられ、栄光の内にてくださいますから感謝いたします。死にも勝利してくださったそのお方が再び来てくださる日を、心から待ち望むことができるよう、私たちの信仰を導いてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

✠ 聖書をひらいて (フィリピの信徒への手紙2章9～11節)

かみは、くすりとかきをあげた

文字をならべかえて、みことばにしてね。

こたえ→

✠ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒ボクのおじいちゃんは、90才まで長生きしました。イエスさまももっと長生きして、もっと長く伝道いたほうが良かったと思います。そして、どうして天にもどってしまったのですか？

(S男くん・10才)

✠ 言ってみよう

問24

主イエス・キリストは、わたしたちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか？

主イエス・キリストは、私たち罪人の身代わりとして十字架に死に、三日目に、永遠のいのちに□□□□られました。ですから、私たちは、罪赦されて神と共に永遠に生きる祝福に生かされています。

✠ やってみよう

★降誕劇やクリスマス賛美の練習は、進んでいますか？

子どもが演じる劇だけではなく、人形劇・ペープサート・紙芝居・影絵・パソコンを使ったパワーポイントなど、人数に合わせて工夫することも楽しいですね。

☆だんだん寒くなってきました。分級の終わりは、外に出て、「押しくらまんじゅう」！！また、来週！！

✠ 今週の暗唱聖句 (フィリピの信徒への手紙2章9節)

このため、神はキリストを□□□□□、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。



〈ねらい〉

**1. 神は自分を無にしてへりくだる者を高く上げてくださるということを学ぶ**

父なる神様は、死に至るまで自分を低くされたイエス・キリストを喜び、死から復活させ天に上げられた。私たちもこの地上の生涯で自分を低くして歩むとき、必ず神様がその歩みを喜んでくださり、やがて終わりの日には高く引き上げてくださる。

**2. 今イエス様は天におられ、私たちに聖霊と信仰を絶えず注いでくださっている**

イエス様は天に上げられ、父なる神様からすべての主権を受け、私たちに聖霊と信仰を注ぎ続けてくださっている。このイエス・キリストを見上げるときに、私たちはこの地上の生涯を歩む力を十分に受けることができる。

〈子どもカテキズム〉

問24：主イエス・キリストは、私たちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか。

答：主イエス・キリストは、私たち罪人の身代りとして十字架に死に、三日目に、永遠の

命によみがえられました。

ですから、私たちは、罪赦されて神と共に永遠に生きる祝福に生かされています。

〈展開例〉

**1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。**

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

**2. 生徒と一緒に考える。**

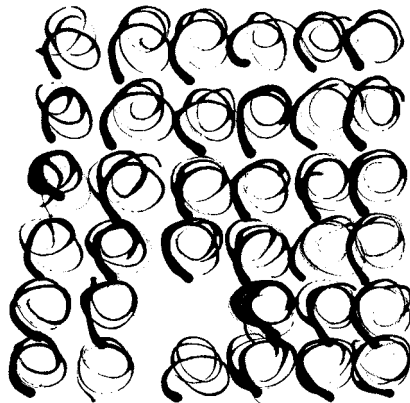
Q. イエス様が父なる神様によって高く上げられたのはなぜ？

Q. 神様は、私たちが地上でどのように生きることを望んでおられる？

Q. 今、イエス様は天において何をされている？

**3. これからの信仰生活のために**

クリスチャンがほとんどいないこの国の中で、教会の子どもたちが学校や友人と関係の中でバカにされたりすることは少なくないだろう。そんな子どもたちに、天におられるイエス・キリストがすべての主権をもって私たちを見守っていることをしっかりと伝えたい。



天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、  
イエスの御名にひざまずき

### 1. 新しい創造としての御子イエスによる救い

「初めに言があった」という書き出しは、創世記の最初を連想させます。ヨハネは創世記の天地創造を念頭において福音書を書き出しました。つまり、かつてこの天地万物が神の言葉である御子によって創造されたように、墮落したこの世界とわたしたちを再び新しくし、創造してくださるのは神の御子キリストによることを語ろうとしたのでした。御子キリストによる救いとは、天地創造に匹敵する、新しい創造、再創造の御業なのです。ここで第一に覚えることは、主イエスの救いとは、新しい創造だということです。今の生活、今の自分と全く違う自分に変えられること、造り変えられること、生まれ変わることです。「命」とは、新しく生まれさせられた、全く新しい「命」です。その「命」は「言の内に命があった」とあるように、自分の命ではなく、神の命です。罪のままの今の自分の命を生きながらえさせることではなく、神に結びつけられ、日々神からいただく新しい命です。本当の命は、自分の許にはなく神の許にあるのです。そのまことの「命」をもたらし、わたしたちを新しく創造するために、主はおいでくださったのでした。

### 2. 新しい創造は、神の言葉による

その新しく創造された命は、神の言葉によって与えられるというのが第二のことです。この天地万物が、神の言葉によって、神の言葉だけで創造されたように、新しい創造も神の言葉によって為されるのです。天地を創造させた神の言葉が、わたしたちを新しく創造し、生まれ変わらせる言葉ともなる、その神の言葉こそ主イエス・キリストご自身なのです。そしてこの言葉だけが、この世界とわたしたちを創造して、存在へと呼び出されたように、再び新しい創造を起こして、新しいわたしとして造り変えることができる力ある生きた言葉なのです。神の言葉によって造られた人間は、神の言葉によって「生きる者」となるのです。言

葉には、わたしたちを生かし、変える力があります。神の言葉がわたしたちを新しくし、生きる者とするとは、生き生きと生きる者に変えていくということです。ただそこに存在するということではなく、生き生きと輝いて生きるようになるのです。わたしたちを創造し、この世にあらしめた神の言葉は、ただここにいるという意味で生きているのではなく、輝いて生き、生き生きと希望に満ちて生きるように造り変えていくのです。神の言葉には、そのような生きた力があるのです。

### 3. 向かい合って共にあると動くこと

「ロゴスは神と共にあった」とありますが、これは単に二つのものが並んでそこに置かれているということではありません。そこには生き生きとした動きがあります。この「共にある」は、「向かっていく」という動きを意味します。ただ静かにそこに鎮座しますということではなくて、そこに向かって動いている運動です。ロゴスと神とが「共に」あるとは、互いがそこで生きた交わりと対話をもって、相手に近づこうと動きつづけているということです。神は、一人孤独に鎮座します神ではなくて、永遠から互いに向い合い、語り合い、交わり合って、その生きた交わりの動きの中で共におられる神なのでした。その神が、ご自身との生ける交わりにわたしたちを引き入れ、招き入れるために、そしてわたしたちに神を示し、その神との生ける交わりに入れるために、ロゴスなるキリストを遣わされたのでした。この交わりは、神の許にあります。そしてこの交わりに入れられることが「命」です。「ロゴスの内に命があった」とは、わたしたちがロゴスなるキリストと結びつけられ、キリストによって神との生ける交わりに入れられ、命に生きるということです。この命を求め、生き生きと生かされて生きる命の中で生きる者とされるように、命の言葉であるキリストを求めていきましょう。(三川栄二)

## 子どもカテキズム

問25 イエスさまの預言者としてのお働きは何ですか。

答 神さまの御言葉を教えてくださることです。

イエスさまは、今も、教会を通して、

聖書と聖霊なる神さまによって私たちに語りかけてくださいます。

ですから、私たちは心をこめて御言葉を聴きます。

## ウェストミンスター小教理問答

問24 キリストは、どのようにして預言者職を果たされますか。

答 キリストが預言者職を果たされるのは、御自身の御言葉と御霊によって、

私たちの救いのために神の御意志を私たちに啓示してくださることにおいてです。

## 〈キリストの三つの職務〉

キリストは、私たちの贖い主として預言者、祭司、王の三つの職務を果たされる（ウ小教理問23）。子どもカテキズムは、問25から問27までで、この三つの職務をひとつずつ取りあげる。もちろん、キリストの御業は、単純に三分割できるようなものではない。しかし、キリストの御業の意味を旧約聖書の伝統を踏まえつつ、聖書的に理解するために、三つの職務を通して学ぶことは重要である。

## 〈預言者の働き〉

預言者とは、神の御言葉を神の民に取り次ぐために、神の僕として神の民の中から召された者である。主なる神は、御言葉を通して、ご自身の御心をご自分の民に明らかにされる方である。したがって、旧約の時代においては、神はモーセやサムエル、エリヤなど多くの預言者を立てられ、彼らを通して旧約の民イスラエルに御言葉を語られ、彼らを教え、戒め、励まし、慰め、ご自身の救いへと導かれたのである。

## 〈神の言キリスト〉

しかし、神は最終的にこの世にご自身の御子を

遣わされ、御子においてご自身を示された。この御子は、神の言（ロゴス）そのものであった（ヨハネ1:1-18）。つまり、イエス・キリストは、預言者としての働きを、真の神・真の人として、ご自身において果されたのである。キリストこそ真の預言者であり、「私たちの救いのために神の御意志を私たちに啓示してくださる」（ウ小教理問24）方なのである。

## 〈今も語られるキリスト〉

キリストの預言者としての働きは、その地上での公生涯にとどまるものではない。天におられるキリストは、「今も」神の民である私たちに御言葉を語ってくださる。それは、「教会を通して、聖書と聖霊なる神さまによって」である。私たちは、教会の教え、特に礼拝の説教を通して、聖書から神の御言葉を聴く。そこで、聖霊の働きによって、今も生けるキリストと出会い、信仰を与えられ、救いへと導かれるのである。キリストの預言者としての職務を考える時、この点を忘れてはならない。キリストはその預言者としての働きを「謙卑と高挙のどちらの状態においても果たされる」（ウ小教理問23）のである。（松田基教）

テキスト ヨハネによる福音書 1章1～5節  
カテキズム 子どもカテキズム 問25

### 〔単元のねらい〕

本日よりアドベントに入る。主イエス・キリストのご降誕を待ち望みつつ、救い主をおののの心に迎えるよき備えをなしたい。

クリスマスに生まれたもうたイエス・キリストとはどのようなお方であられるのか。どのような意味でわたしたちの救い主であられるのか。そのことを今一度確かめ合うために、今年のアドベントは三回の主日を用いてキリストの三職について学んでいく。旧約時代から神によって立てられていた三職－預言者職、祭司職、王職－をいずれも成就されたお方こそ救い主イエス・キリストであられることを、そして今も主イエスはわたしたちのために、天にあってこれらの職務を果たしておられることを覚えたい。今回はヨハネ福音書1章を通して、主イエスの預言者職について学ぶ。

## 「言は神であった」

今日からアドベント－イエスさまのご降誕を待ち望む季節に入ります。クリスマスはイエスさまがわたしたちのところに来てくださったこと、いつまでもわたしたちとともにいてくださること、その大きな祝福が実現した喜びの日です。イエスさまがわたしたちのところに来てくださいます。わたしたちもイエスさまをふさわしくお迎えすることができるよう、み言葉と祈りをもって備えましょう。

クリスマスにお生まれになったイエスさまはどのようなお方であられるのでしょうか。そのことを確かめるために、今年の三回のアドベントの主日は、イエスさまがわたしたちのためになして下さっている三つのお働きについて学びましょう。

そのお働きとは「預言者」「祭司」「王」の三つです。実はこの三つのつとめは、イエスさまがお生まれになるはるか前から－旧約聖書の時代からもうけられていました。神さまは旧約の時代のイスラエルの民がご自分を信じて生きることができるようにと、この三つのつとめをおたてになり、それぞれのつとめを担う人を選んで、聖なるつとめにつくしるしとして油を注がれ、この人々の働きを支え、守り導かれたのです。

今回は預言者のつとめについてです。「預言者」とは神の言葉を預かる人という意味です。そのように預言者のつとめは、神さまのみ言葉を預かって、イスラエルの民に語り聞かせることです。

神さまはわたしたち人間にご自身を隠されるお方ではありません。ご自分のことをはっきりとお示しになるお方です。人間に対して自己紹介をなさるお方です。だからこそわたしたちは神さまを知り、神さまを信じ、神さまと交わって生きることができるのです。

では、どのような手だてを通して自己紹介をなさるのでしょうか。ご自身のみ言葉を通してです。神さまはみ言葉を通して人間にご自分のことをお知らせになります。人間はみ言葉を通して、ただみ言葉を通してだけ神さまを知り、神さまと交わることができます。そのことを知るなら、預言者のつとめの重さがわかるでしょう。

神さまは旧約の時代、イスラエルに幾人もの預言者をお立てになりました。預言者たちは神さまのみ言葉をイスラエルの民にとりつぐことで、そのつとめを果たしました。預言者たちは自分の言葉を語ったのではありませんでした。神さまのみ言葉だけをひたすらに、忠実に語りました。彼らは文字通り神の口となって語りました。そうする

ことではじめてこのつとめをまっとうすることができたからです。

さて、クリスマスの日にお生まれになったイエスさまこそまことの預言者、預言者の中の預言者であります。なぜならイエスさまは神さまのみ言葉そのものであられるからです。ヨハネによる福音書1章1節は「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」と語ります。この「言」とは、人となってこの世に来られる前のイエスさまのことです。イエスさまは永遠から、天地が造られる前から、天で父なる神さまとともにおられたまことの神であります。「言」と呼ばれる神であります。

ヨハネによる福音書はまた「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」(14節)と語ります。「肉」とは人間という意味です。すなわち、その「言」なる神が、神であられるままに、人間となられたということです。これこそクリスマスに起こったことです。これがイエスさまのご降誕の知らせです。では、神そのものであられるお方がなぜ人とな

られたのでしょうか。それはわたしたちにみ言葉を教えてくださるためです。イエスさまがお語りになったみ言葉は、神さまのみ言葉そのものです。そして、神さまはイエスさまによってこれ以上ないほど鮮やかなしかたで、自己紹介をなさったのです。ご自分について語ってくださったのです。イエスさまは「わたしを見た者は、父を見たのだ」(ヨハネによる福音書14章9節)と仰せになりました。神さまとはどういうお方なのか、イエスさまを通してそのことが、わたしたちにもはっきりとわかるのです。

イエスさまは神さまのみ言葉そのものであられるお方です。イエスさまは今も天におられますが、今も聖書のみ言葉とみ霊によってわたしたちにみ言葉を教え続けてくださいます。旧約聖書の時代にはるかにまさってわたしたちがご自身のことを知ることができるように、信じることができるように、ご自身と交わることができるように、神さまはひとり子を、言なるお方を、人となしてこの世に来たらせてくださったのです。(木下裕也)

---

[今週の暗唱聖句]

ヨハネによる福音書 1章18節

いまだかつて、神を見た者はいない

父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。

---



## 〈ねらい〉

待降節である。この世のクリスマスを否定するのではなく、教会のクリスマスの楽しさを幼児期にしっかり味わわせてあげよう。

## 〈展開例〉

もうすぐクリスマス、嬉しいね！

イエスさまは世界が造られる前からいらっやいました。でも、今から二千年前に、突然、わたしたちの世界に来てくださったのです。神さまは目に見えませんが、イエスさまは目に見える神さまとして生まれてくださったのです。だからイエスさまがおっしゃったこと、なされたことは全部神さまのお気持ちと同じです。今は天におられて

目には見えませんが、聖霊なる神さまに導かれて書かれた聖書がイエスさま・神さまのお気持ちをちゃんと教えてくれます。聖書のお言葉を聞くことは、イエスさまから教えていただくことと同じです。大好きなイエスさまのお誕生日に、いっぱい聖書のお言葉を聞きましょうね。幼稚園や近所のおともだちにもクリスマスのお祝いにお誘いして、みんなで楽しいクリスマスを迎えましょう！

## 〈お祈り〉

天の父なる神さま、元気でクリスマスがむかえられますように。お友だちも教会に来ることができすように。イエスさまによって、アーメン。

## 〈やってみよう〉

## 工作をしよう！

○下の絵を適当な大きさに画用紙にコピーし、各自に渡す。今週と来週の二週かけて完成させる。

○今日は、ぬりえのように絵に色をつけよう。(右端の四角は窓で、切り取ってしまうので塗らなくて良い)



**〈ねらい〉**

イエスさまの預言者としてのお働きについて知り、心をこめて御言葉を聴く。

**〈展開例〉**

今週からアドベントの始まりです。アドベントとは、イエスさまのお誕生を待つ期間のことで、待降とも言います。アドベントは四週間あり、その四週間をわくわくしながら待ち、ついにイエスさまのお誕生の時がやってくるのです。

さて、そんなみんなが大好きなイエスさまですが、イエスさまの仕事（役割・職務）とは何でしょうか。イエスさまは、私たちのあがない主として、おもに三つのお働きを担ってくださるのです。これからその三つのお働きについて、一つひとつ学んでいきましょう。

今日学んだ一つ目は「預言者」としてのお働きでした。「預言者」とは神さまのお言葉を預かる人という意味です。それではイエスさまは、その

預かったお言葉をどうなさるのでしょうか。そうです、私たちに伝えてくださるのです。イエスさまが神さまと私たちの間に立って御言葉を伝えてくださるのです。私たちは、イエス様から神様のお言葉を聴き、神様のお気持ちを理解して、神様に礼拝します。とても嬉しいことですね。このことを覚えて、感謝して御言葉を聴きましょう。

**〈祈り〉**

神さま、イエスさまをこの世につかわしてくださったことを感謝します。アドベントの喜びの時、イエスさまの三つのお働きのうちの一つの話を知ることができました。イエスさまが預言者となって、神さまの言葉を私たちに伝えてくださることを知り、嬉しく思います。いつも感謝の気持ちを忘れず、御言葉に聴き従う子どもでいられるようお守りください。イエスさまのお名前によってお祈りいたします。アーメン。

**〈やってみよう〉****工作をしよう！**

下の絵を適当な大きさにコピーし、色を塗り、メッセージを書く。  
友だちや家族にクリスマスカードを送ろう。



※イラスト出典 「著作権フリーのクリスマス素材より

ホームページ <http://www.arrd.net/~j-joy/christmas2003/index.html>

## ✠ 聖書をひらいて (ヨハネによる福音書1章1～5節)

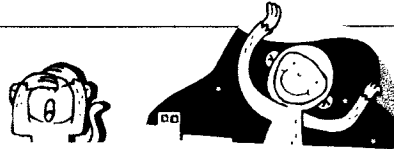
く	み	い	く	ば	ら
っ	が	や	ち	く	こ
ら	く	の	ら	の	や
た	あ	み	に	み	と
や	ら	ち	や	う	み

☆

☆

「くらやみ」の文字を黒くぬって消してね。  
どんなみことばが光りかがやいて、出てくるでしょう？

こたえ



## ✠ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒生物の中で、言葉を話したり、読んだりできるのは人間だけです。神さまは人間を特別の存在として創造して下さって、人間だけに「お祈りの言葉」、「聖書の言葉」をあたえてくださったのではないですか？学校では、サルが進化して人間になったと教えられますが、とっても疑問です。ボクの考えはまちがっていますか?? (Mくん・12才)

## ✠ 言ってみよう

問25

イエスさまの預言者としてのお働きは何ですか。



神さまの□□□□を教えてください。イエスさまは、今も、教会を通して、聖書と聖霊なる神さまによって私たちに□□□かけてくださいます。ですから、私たちは心をこめて御言葉を聞きます。

## ✠ やってみよう

★①ヨハネ1:1～14の中で、「言」が何回出てくるか、「言」の文字を丸く囲んで数えてみよう \_\_\_\_回

②「言」をイエスさまに言いかえて読んでみよう。意味が通じるかな？

★今週からアドベントに入ります。カレンダーに、クリスマス・シールをはったり、キャンディーや一口チョコを日毎に一個ずつはってアドベントカレンダーを作りませんか。

## ✠ 今週の暗唱聖句 (ヨハネによる福音書1章1～5節)

いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。



## 〈ねらい〉

## 1. 預言者のつとめについて考える。

神様は、言葉を用いてご自身を示す方法をとられた。そこで用いられたのが預言者たちであった。旧約の預言者は、神様から言葉を預かり、神様の民に神様のお考えを伝える人であった。

## 2. イエス様が預言者であることの意味について考える。

イエス・キリストこそ、真の預言者であり、このイエス・キリストを通してのみ、真の神理解に到達することができる。神様は、イエス・キリストによって神を知ることが良しされた。神様の御心は、イエス・キリストを通して示されている。

## 〈子どもカテキズム〉

問25：イエス様の預言者としてのお働きは何ですか。

答：神様の御言葉を教えてください。

イエス様は、今も、教会を通して、

聖書と聖霊なる神様によって私たちに語りかけてくださいます。

ですから、私たちは心をこめて御言葉を聴きます。

## 〈展開例〉

## 1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

## 2. 生徒と一緒に考える。

Q. 預言者のつとめは何？

Q. 旧約の預言者は何を語る人？

Q. 「イエス様が預言者である」というのはどういう意味？

## 3. これからの信仰生活のために

神様は、イエス・キリストという真の預言者を通して、ご自身を私たちに明らかにしておられる。このイエス・キリストを通して知る神様こそ、真の神様である。イエス・キリストによって示された真の神とは、私たち罪人を、命を捨てるほどに愛し、罪から救い出すために全力で私たちのところに来てくださる、そういう神である。



**〈苦難の僕 (52章13節～53章12節)〉**

ここにある「主の僕」の歌は、52章13節から始まります。その内容は、この主の僕が神からの苦難を負っているというもので、その意味が解き明かされます。人々から誤解され、拒絶された、この主の僕は、実は彼を拒絶した私たち自身の病を負い、痛みを担い、私たちの背きと罪の咎のために傷つけられたのだと、そしてその彼の受けた傷によって、私たちは癒されたのだと。この主の僕の苦難の意味は、自分勝手にそれぞれの方角へと迷い出た私たちの罪を、神が彼に負わせられたということでした。それは驚くべき出来事で、誰一人として受け入れ、信じることができないような出来事だったということです。しかしこの主の僕の苦難と死は、多くの人を正しい者とするためにその罪を背負ったということであり、それは彼らの償い、また執り成しとなったのでした。

この「主の僕」が誰であるか、意見の分かれるところです。それは第二イザヤ自身であり、彼の弟子たちが第二イザヤの苦難と不遇な死を、そのように理解したという考えもあり、また国家滅亡と捕囚という国家的苦難を経たイスラエル民族そのものであるという考えもあります。あるいは捕囚から戻ってきた帰還民の指導者であり、何らかの理由で行政当局により抹殺されたシェシュバツァル（エズラ1章8節）ではないかと考えられたりします。預言者は、まず自分の置かれた時代状況の中で預言を語ったわけですから、それらの理解も否定されるべきものではありませんが、預言者は自分の思いと理解を越えて、時代をはるかに超えた事柄、まだ起こりえず、人間の目に見えない事柄をも預言しました。そして新約聖書の光の中でこの第二イザヤの預言を読む私たちは、この主の僕が、私たちの主イエス・キリストであることを信じるのです。この章を読んでいたエチオピアの宦官の質問に、フィリポはそれが主イエス

であることを明らかにし、イエスへの信仰へと導きました（使徒8章30～38節）。ペトロは、この主の僕の苦難と死を、主イエスの十字架に見て、「十字架にかかって、自らその身に私たちの罪を担ってくださいました。私たちが、罪に対して死んで、義によって生きようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたは癒されました」（ペトロー2章24節）と語りましたが、ここでは、この「主の僕」の歌が念頭にあります。

ここに明らかにされているのは「代理贖罪」という思想です。この信仰が、「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださった」（ローマ5章8節）というように、主イエス・キリストの十字架の死による、身代わりとしての贖いの信仰に結びつけられていきます。この「主の僕」の歌は、神の救いの計画が主イエス・キリストに結びつけられていったものでした。第二イザヤが、絶望と恐怖の中にあった捕囚の民に語った使信とは、神の主導による救いと回復の約束であり、慰めと励ましの計画でした。彼らは神を捨てましたが、神は彼らを見捨てたもうことなく、彼らと共にいることを約束してくださる恵みの主なのです。「シオンは言う。主はわたしを見捨てられた、わたしの主はわたしを忘れられた、と。女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようとも、わたしがあなたを忘れることは決してない。見よ、わたしはあなたをわたしの手のひらに刻みつける」（49章14～16節）と。私たちを救うためにご自分を投げ出し、その罪と汚れをご自身のものとして、その打たれた傷によって私たちに癒してくださった主を、感謝をもって仰ぐと共に、この御子が地上に現れる数百年も前から、私たちのための救いと贖いの御業を計画し、啓示し、実現してくださった主なる神に、賛美を捧げたいと思います。（三川栄二）

## 子どもカテキズム

問26 イエスさまの祭司としての働きは何ですか。

答 父なる神さまと私たちの間に立ってくださることです。

イエスさまは、かつて、私たちの身代わりとなって、

十字架の上で御自分をいけにえとしてささげてくださいました。

今は、御父の右に座して、私たちのために執り成しの祈りをささげていてくださいます。

ですから、私たちは心をこめてお祈りします。

## ウェストミンスター小教理問答

問25 キリストは、どのようにして祭司職を果たされますか。

答 キリストが祭司職を果たされるのは、

神の正義を満足させて私たちを神に和解させるために、

御自身をいけにえとしてただ一度ささげられたこと、

また私たちのためにとりなし続けてくださることにおいてです。

## 〈祭司の職務〉

子どもカテキズム問26は、キリストの三つの職務、預言者、祭司、王のうち、祭司の職務について扱う。祭司もまた、旧約聖書の時代において神が神の民のために立てられた職務であった。祭司の職務は、民の側に立って、神が民の罪を赦し、御自身をいけにえとしてささげ、神と民との間の和解のつとめを担うものであった。特に大祭司は、民の罪の赦しのために、年に一度の贖罪の儀式を司っていた。

## 〈いけにえとしてのキリスト〉

キリストの祭司としての働きは、二つある。ひとつは、「私たちの身代わりとなって、十字架の上で御自分をいけにえとしてささげてくださる」ことである。動物のいけにえは、不完全ないけにえであったので、繰り返しささげなければならなかった。しかし、神の御子であるキリストが御自身をささげられた。これ以上のささげものはない。これこそ、わたしたちの罪の赦しのための完

全ないけにえであったのである。この完全ないけにえによって、神と私たち人間との間の和解が果たされたのである。

## 〈執り成し手としてのキリスト〉

キリストの祭司としての働きのもうひとつは、キリストが今も尚「私たちのために執り成しの祈りをささげていてくださる」ということである。これは、私たちに対するあらゆる罪の告発に対して、キリストが答えてくださるということである。キリストによって神と私たちとの間の和解は果たされたが、私たちの内から罪が完全に取除かれたわけではない。私たちは、罪あるままに義とされており、私たちのこの世における旅路は、なお、罪の中での歩みである。しかし、私たちは、もはや罪に対する告発を恐れることはない。なぜなら、大祭司キリストが私たちのために御父に執り成してくださるからである。だからこそ、もはやわたしたちは罪に定められることがないのである。 (松田基教)

テキスト イザヤ書 53章  
カテキズム 子どもカテキズム 問26

### 〔単元のねらい〕

今回は主イエスの大祭司としての職務を、イザヤ書53章の「苦難の僕」の姿を通して学ぶ。飼いやおけは十字架につながっている。ただ一度十字架の上にご自身をほふり、贖いのみわざをなしとげてくださった大祭司をともに仰ぎたい。

聖書の福音が罪の赦しの福音であることは旧約、新約を通して一貫している。すでに旧約時代において過越が記念され、「贖罪の日」が規定されている。この贖罪の恵みがイエス・キリストにおいて文字通り完成し成就したことを確かめたい。

## 「わたしたちの贖い主」

先週はイエスさまがまことの預言者であられることを学びました。今回はクリスマスにお生まれになったイエスさまが、まことの祭司であられることを学びましょう。

祭司も預言者とともに、旧約聖書の昔から神さまによって定められていた聖なるつとめです。預言者とは神さまのみ言葉を神さまの民であるイスラエルに語る人でした。ですから預言者のつとめは、神さまの側に立って人々に働きかけるつとめであったと言えます。

それに対して祭司のつとめは、神の民の側に立って、民を代表する者として神さまに近づき、ささげものをささげ、とりなしをなして、神さまの民を神さまに近づけることでした。つまり神さまと神の民との間に立って、仲立ちをすることでした。

祭司のおもなつとめは神さまの宮に仕え、さまざま儀式をとりおこなうこと、ささげものをささげることでしたが、中でもいちばん大切なつとめを担ったのが大祭司と呼ばれる人です。そのつとめとは、イスラエルの民を赦していただくために、犠牲の動物をほふってささげることです。人間に罪があるなら、民は神さまに近づくことも、神さまと交わることもできません。なぜなら神さまはただしいお方ですから、罪をお嫌いになるからです。

そこで大祭司は一年に一度、犠牲の動物をたずさえて神の宮に入り、その動物に民の犯したすべての罪をうつしかえ、その動物をほふり、その血を贖罪所と呼ばれる場所に注ぎかけました。このように、ほふられた動物の血の犠牲によって、はじめて民の罪はゆるされるとされていたからです。

さて、イザヤ書53章は「苦難の僕」と呼ばれる人について語っています。この人には見るべき面影はなく、輝かしい風格も好ましい容姿もなかった、それでわたしたちはこの人を軽蔑し、無視していたと、さらにこの人はだれからも見捨てられ、多くの痛みを負い、病を知っていたと語られます。

そして、この人がこんなにみじめで、苦しむうめいているのは、この人自身が神さまに罪をおかしたので、その罰を受けているからだ、わたしたちは思っていたと語られます。

けれども、次に語られるのは驚くべきことです。この人は自分の罪のために苦しんでいたのではない。わたしたちの罪を身代わりに背負っていたので、苦難を受けていたのだ。そしてわたしたちは、この身代わりの苦しみにによって罪ゆるされ、救いを受けることになったのだ。「彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち

砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。  
／彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた」(4～5節)

このイザヤ書53章の語る「苦難の僕」は、まさしくイスラエルの民の罪を身代わりに受けてほふられる犠牲の動物のような存在です。この「苦難の僕」とはだれでしょうか。わたしたちの罪のために十字架に死なれたイエスさまをさすど理解してよいのです。イザヤ書はイエスさまのお生まれになるはるか以前に書かれた書物ですが、救い主イエスさまがこのようにしてわたしたちの罪を贖い、命をもたらして下さる救い主であることをあらかじめ告げ知らせたのです。

イエスさまこそ、まことの大祭司です。旧約聖書の時代の大祭司は人間にすぎませんでしたが、イエスさまは人となられたまこと的神さまです。そして旧約の大祭司は、犠牲の動物をほふる儀式

をつかさどるだけでしたが、イエスさまはご自分がわたしたちの罪のためのなだめの供え物となって、ただ一度十字架の上にはふられ、尊い血潮を流して下さったのです。

イエスさまは罪なきお方でした。わたしたちの罪は罪なきお方の血潮が流されることによってはじめてゆるされ、きよめられたのです。こうして神の小羊の犠牲によって、わたしたちは罪からときはなされ、命を得たのです。

そしてイエスさまは天にあって、今も大祭司として、父なる神さまにわたしたちのことをとりなしてくださっているのです。わたしたちを父なる神さまのもとに近づけて下さるのです。

クリスマスの喜びは十字架の救いの喜びにつながっています。十字架の救いをなしとげて下さるために、家畜小屋の飼葉おけに生まれて下さった救い主を喜びたたえましょう。

(木下裕也)

---

[今週の暗唱聖句]      ヘブライ人への手紙 7章24節

しかし、イエスは永遠に生きているので、  
変わることもない祭司職を持っておられるのです。

---



## 〈ねらい〉

神への贖いの供え物となるために主イエスはこの世に生まれてくださった。人類への神からの愛の贈り物である。心からの感謝と喜びをあらわそう。

## 〈展開例〉

「うれしいうれしいクリスマス～」の12月になりました。神さまは、わたしたちが神さまを捜して見つける前に、神さまのほうからわたしたちを見つけて来てくださいました。そして、贈り物をくださったのです。

みんなはお父さんやお母さんからプレゼントをもらうとき、自分のプレゼントが何かも気になりますが、お姉ちゃんや弟のプレゼントは何だろうと気になることがあると思います。自分のプレゼントより良い物だったらちょっとシャクだなあ、

と思うかもしれません。神さまからわたしたちへのプレゼントはひとりひとりに最高のプレゼントで、えこひいき無しでみんなにくださいました。

誰でもプレゼントをいただいたら、「ありがとう！」って言うでしょう？ クリスマスは「ありがとう！」を百回神さまに言っても足りないくらい嬉しい日です。イエスさまはわたしたちのために死ぬために生まれてくださいました。誰か大好きな人を助けるために死ぬる人はそんなにいません。イエスさまはわたしのために死ぬために来てくださったのです。神さまがどんなにわたしを愛してくださっているかがよくわかります。

## 〈お祈り〉

天の父なる神さま、イエスさまをくださってほんとうにありがとうございます。クリスマスをありがとう！ イエスさまによって、アーメン。

## 〈やってみよう〉

## 工作をしよう！

- 先週のつづきです。
- 色を付けた絵を切り抜きます。
- 四角い窓はカッターなどで切り取ります。(教師がやりましょう)
- 点線は軽く谷折りにし、台の上に立たせます。
- 窓の向こう側から中をのぞいてみましょう。
- 時間に余裕があれば、複数作り、クリスマスカードのようにしてお友だちを誘うときにも使えるでしょう。



## 〈ねらい〉

イエス・キリストが生まれる数百年も前の旧約の時代にすでに私たちの罪のために、いけにえとしてイエス様がこの世に来られることが、神さまのご計画の内であったことに感謝しつつ、キリストの祭司としての働きを覚えましょう。

## 〈展開例〉

旧約時代と新約時代を比べてみましょう。

旧約時代⇒イスラエルの民は祭司を通して礼拝をしました。

新約時代⇒わたしたちはイエス様を通して礼拝をします。

旧約時代⇒人間は罪を犯したため、自分では神様に近づけられなくなりました。そこで、神と人との仲介者として、祭司に自分たちの代わりに礼拝と供え物をささげてもらい、神様につながっていることができました。

新約時代⇒この祭司のお働きが、イエス様によって行われています。

イエス様には大祭司としてのおもな働きが二つあります。一つは私たちの罪のために身代わりとなって十字架の上で、何の罪も汚れもない御自分をいけにえとしてささげてくださったこと。そしてもう一つは、今もなお、罪人である私たちのために神様にとりなしの祈りをささげてくださっていることです。だから、私たちはイエス・キリストの名によって直接神様にお祈りをすることができます。

(私たちのところを〇〇さんとして、一人ひとりの名前を入れてみてください)

## 〈祈り〉

大切な独り子であるイエス様を私たちのために犠牲としてささげてくださった神様と、私たちの救いの犠牲となってくださったイエス様の、深い愛に心から感謝いたします。



### ✠ 聖書をひらいて (イザヤ書53章)

最初に書いてある例文を参考にして、絵文字で書かれた暗号文を 解読してください。

このひとりのでしとはなしあった

⇒ # ♣ + ♪ ♭ ♣ ◆ ♪ ♪ ♪ ♡ ♠ ♫ ☆

♪ ♭ ♪ ♡ を ♪ ☆ ♣ ◆ # ♣ + ♪ ♫ ♠ ♫ ☆

⇒

### ✠ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒お祈りのことばが出てこない時があります。そんな時、イエスさまが教えてくださった主の祈りをお祈りしてもいいですか?? (E子・12才)

### ✠ 言ってみよう



問25

イエスさまの<sup>さいし</sup>祭司としてのお働きは何ですか。

父なる神さまと私たちとの間に立ってくださることで。イエスさまは、かつて、私たちの身代わりとなって、十字架の上で御自分をいけにえとしてささげてくださいました。今は、御父の右に座して、私たちのために□□□□の□□□をささげていてくださいます。

### ✠ やってみよう ★イエスさまのお祈りで、正しいのは、どっち? (○×クイズ)



- ア ( ) イエスさまは、祈るために山に行って、夜を明かされた。  
 イ ( ) イエスさまは、昼間、ガリラヤ湖のほとりでお祈りをした。  
 エ ( ) イエスさまは「一度祈ったことを、何度もくり返してお祈りしてはいけない」と言った。  
 オ ( ) イエスさまは、あきらめないで、「絶えず祈りなさい」と言った。  
 カ ( ) 「奥まった自分の部屋に入り、かくれたところにおられるあなたの父に祈りなさい」と教えた。  
 キ ( ) 「人前では、なるべく長いお祈りをしてみんなをおどろかせなさい」と教えた。

### ✠ 今週の暗唱聖句 (ヘブライ人への手紙7章24節)

しかし、イエスは永遠に生きているので、変わるこ  
 のない□□□□□□を持っておられるのです。



## 〈ねらい〉

## 1. 祭司のつとめについて考える

祭司のつとめは、民の代表者として神様に近づき、犠牲をささげて、神と民の仲立ちをすることであった。特に、大祭司は、年に一度、イスラエルの罪の赦しを願い、犠牲をささげることであった。

## 2. イエス様が祭司であることの意味について考える。

イエス・キリストこそ、真の大祭司であり、この方によって完全な犠牲がささげられたので、私たちはこのイエス・キリストに従って歩むときに、完全な罪の赦しを得ることができる。またイエス・キリストは、今も、日々罪を犯してしまう私たちのために、父なる神に対して執り成しをしてくださっている。

## 〈子どもカテキズム〉

問26：イエス様の祭司としての働きは何ですか。

答：父なる神様と私たちの間に立ってくださることです。

イエス様は、かつて、私たちの身代りとなって、十字架の上でご自分をいけにえとしてささげてくださいました。

今は、御父の右に座して、私たちのために執り成しの祈りをささげていてくださいます。ですから、私たちは心をこめてお祈りします。

## 〈展開例〉

## 1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

## 2. 生徒と一緒に考える。

Q. 祭司は何をする人？

Q. 旧約の大祭司のつとめの中で一番大切なつとめは何か？

Q. 「イエス様は真の大祭司である」というのはどういう意味だろうか？

Q. イエス様は、大祭司として、執り成しのためにどんな犠牲をささげてくださったのか？



多くの人の過ちを担い 背いた者のために執り成しをしたのは この人であった

テキスト ルカによる福音書 2章1～7節

**〈羊飼いの救い主イエスの誕生〉**

主イエスの誕生の記事は、皇帝アウグストゥスの発した人口調査の勅令から始まります。ナザレからベツレヘムまでは徒歩で五日の道程です。いつ生まれるか分からない身重の身体で、五日の道程を歩いていかなければなりません。身重の妻を案ずればこそ、一刻も早く休ませてあげたいと、ヨセフは気のせく思いで、宿を捜し廻ったのではないのでしょうか。ところが既に宿は一杯で、どこもかしこも旅人でごったがえしていました。「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」のでした。こうして導き入れられた家畜小屋で、マリアは初児を生みました。お産の経験の無い少女が、誰一人助ける人も無く、産婆もなく、必要な物さえ無い中での出産でした。彼女はどんなにか心細く、寂しく思ったことでしょう。しかし何より母親の心を悲しませたことは、生まれたばかりの初児を寝かせるにふさわしい場所がなかったということでした。せめて静かで清潔な所で、安らかに寝かせてあげたいのが親心でしょう。しかし不自由な旅先で、我が子を寝かせた床は「まぐさ」を入れる飼葉桶でした。牛や馬の唾液が染み込み、そこそこに糞尿が散乱する、蒸せかえるような匂いのする、不衛生で汚い家畜小屋でした。糞尿にまみれた、肌がちくちくする藁の上でした。しかしこれが私たちの救い主の王座となったのです。

どんな貧しい家でも、赤児のための揺り籠くらいは用意できます。飼葉桶の揺り籠とは、最低限の人間の、それよりもっと下に降られた姿を表します。最も低い所より、更にもっと低く降られることによって、私たちの救い主となってくださったのが主イエスでした。

これが最初のクリスマスでした。そこには人間の考える栄光も、威厳も、きらびやかさもありませんが、一つの輝きがありました。「愛の輝き」です。人がより高い地位、豊かな生活、名誉や学歴、有利な職業を求めて、上へ上へと昇ろうとす

るのに対して、高きにいました神の御子が栄光を捨て、神のあり方を捨て、見栄えも輝きも捨てて、下へ下へとへりくだってくださいました。最低の人よりも、もっと低いところにお立ちくださり、人の世話によらなければ生きていけない最も弱者となることで、私たちの救い主となってくださったのでした。

待望されていた救い主が遂にお生まれになったという知らせは、野宿しながら羊の群れの番をしていた羊飼いたちに真っ先に告げられます。「あなたがたのために」とは彼ら羊飼いのことであり、彼らに代表される者たちのためということでした。彼らは人口調査の対象とされず、人間の数に入れられていませんでした。支配者からは人の数に入れられず、臭い汚いと人々からは嫌われ、軽蔑され、差別され、罪人の中に数えられ、盗人呼ばわりされて排除されていたのが、羊飼いでした。社会のつまはじき者、生きる価値なく、むしろ害毒としてその存在を否定されていた彼ら、人々から蔑まれ、社会の底辺にまた周辺に生きていた彼ら、神の戒めを知り、罪と分かりつつそれを守り行なうことができない彼ら、神からも見捨てられているとされていた彼らに、神は彼ら自身のための救い主をお送りになられたのでした。この出来事は、羊飼いのように、今なお罪の中に生きており、その罪の泥沼から這い出ることもできずにもがいている私たち、まわりから疎んじられ大切に思われることもなく生きているような者たちのために、この赤児がお生まれくださったことを明らかにするのです。羊飼いは、羊と共に寝起きをし、苦楽を共にします。羊と一緒にになって飢え乾き、寒さに凍え、日照りに焼かれ、放浪して安住の地を捜し、歩き疲れ、獣や盗賊の危険にさいなまれます。一緒に同じ苦勞を味わいながら羊を守る、それが羊飼いです。主イエスは、まさしくそのような方として、この罪の世に降り、お生まれくださったのでした。 (三川栄二)

## 子どもカテキズム

問27 イエスさまの王としてのお働きは何ですか。

答 私たちの王さまとなってくださることです。

弱い私たちが悪に滅ぼされないように戦い、私たちを従わせ、治め、お守りくださいます。

この王さまこそ真の王さまです。

ですから、私たちは心をこめて従います。

ウェストミンスター小教理問答

問26 キリストは、どのようにして王職を果たされますか。

答 キリストが王職を果たされるのは、私たちを御自身に従わせ、治め、守ってくださること、また御自身と私たちとのあらゆる敵を抑えて征服してくださることにおいてです。

## 〈王の職務〉

今回は、キリストの三つの職務の三つ目、王の職務についてである。旧約の時代から王の務めの聖書的な理解は、その他の国々とは全く異なる理解であった。王の務めは、国を強くすることでも、民を富ませることでもなく、なによりも神の代理として、神の御心にしたがって神の民を統治することであった。王もまた、預言者や祭司と同じく、神によって、神の民のために立てられ、その務めを担う者であった。

## 〈真の王キリスト〉

キリストが王であることは、その地上の生涯においてもある程度明らかにされていたことが分かる。王ダビデの子孫として生まれたとされていること、ロバに乗ってエルサレムに入城すること、十字架においてはそこに「ユダヤ人の王」と書かれたことなどである。しかし、キリストが王であるということは、この世の国々の王とは異なった仕方においてである。したがって、キリストが来られた目的も、ユダヤという国の王になることではなかった。私たちが福音書を読む時、当時の人々がそのようなこの世的な王としてイエスに期待していたことがわかるが、イエス・キリストは、その期待とは異なった、もっと言えば、その期待をはるかな次元で超えた王として来られたのであ

る。

## 〈キリストの王としての働き〉

ウ小教理問答問26は、王としてのキリストの働きについて二つのことを記している。ひとつは、私たちをご自身に従わせることによって治め、守るという働きである。王であるキリストの統治と守りに与っているからこそ、私たちは平安と平和のうちにこの地上の歩み続けることができるのである。もうひとつは、キリストが私たちに脅かす全ての敵と戦い、これを抑制し、征服するという働きである。キリストの十字架と復活は、私たちを罪と死に追いやるサタンへの勝利のしるしである。私たちは今すでに王であるキリストの勝利に与っているのである。

## 〈全被造物の王キリスト〉

真の王キリストは、ご自身を信じる者たち、すなわち、教会とその民たちを統治される王であるのみならず、全被造物とその世界の王であられる。私たちは私たちの地上の生のいかなる領域においても、この真の王キリストの統治を認めて、従わなければならない。私たちは、教会の中だけでなく、教会の外にも目を向け、すべてがキリストのご支配の下にあることを自覚して歩むことが求められているのである。 (松田基教)

テキスト            ルカによる福音書 2章1～7節  
カテキズム        子どもカテキズム 問27

### 〔単元のねらい〕

ルカによる福音書2章の冒頭はふたりの王、すなわちこの世の王であるローマ皇帝と、神の国の王であるイエス・キリストとを印象深く対比している。飼葉桶に生まれ、棕櫚の主の日にろばの子に乗って来たりたもうた王こそが世界の真の統治者、主権者であられることをあらためて覚え、この王に従っていく信仰をととのえる中で、主のご降誕に備えたい。聖霊がわたしたちの霊の目を開いてくださり、この王こそがわたしたちの唯一の王であられることを深くさとらせてくださるようにと祈り求めたい。

## 「わたしたちの王」

今日は、イエスさまがまことの王であられることを学びましょう。

預言者、祭司とともに、王も神さまが旧約の時代のイスラエルに、聖なるつとめとして立てておられたつとめです。王のつとめは、神さまのみ言葉にしたがってイスラエルの民を治め、イスラエルを神さまにふさわしい民としてととのえることでした。ですから王が何よりも心がけなければならなかったことは、神さまのみこころにかなうように治めるということでした。王は自分の国を強くしたいと思うかもしれませんが、また、豊かな国にしたいと思うかもしれません。民も、自分たちの国を強くし、豊かにしてくれる王を求めるかもしれません。

でもイスラエルでは、どんなに強く、豊かな国をつくったとしても、王が神さまのみこころにかなわなかったなら、よき王とは認められなかったのです。神さまのよろこばれる国をつくることこそが、王のつとめであったのです。

そしてクリスマスこそ、まことの王がこの世に來られたとの、天からの知らせであったのです。

実はこのとき、世界にはもうひとりの王がありました。それはこの当時世界を支配していたローマという国の皇帝です（当時の皇帝は、アウグストゥスという名でした）。皇帝は全世界をその手に握る権力と、名誉と名声をほしいままにしてい

ました。のみならず、人々から崇拜されていました。皇帝はもちろん人間にすぎないのですが、神のようであがめられてまつられていたのです。

イエスさまがお生まれになる直前に、ローマ皇帝は全国におふれを出して、人口調査を命じました。それはローマの国民から国に納めるお金を取り立てることと、兵隊をとることのためでした。つまり、この人口調査の目的は、国を豊かにし、強くすることであったのです。強い軍隊を持ち、お金持ちになれば、その国は幸せだと考えるのは、このローマだけでなく多くの国々もそうかもしれません。でも、実際にはローマの人々の生活は決して幸せではありませんでした。国内の貧富の差は激しく、厳しい労働や取り立てに苦しめられる人も多く、病気の人、お年寄り、幼い子どもたちといった弱い人々の命もおびやかされていました。

聖書は語ります。このローマの王はまことの王ではない。世界のまことの王はほかにおられるーその王こそ、クリスマスの日に生まれたもうたイエス・キリストです。

イエスさまのお誕生は、このローマの王とくらべて何とみすばらしく、貧しいさまであったことでしょうか。この王にはあたたかいベッドもゆりかごもありませんでした。ベツレヘムの家畜小屋の、家畜のえさを入れる桶の中で、この王は産声

をあげられたのです。考えられないほどにみじめな場所で、この王はお生まれになったのです。

この乳飲み子がわたしたちの王だというのは、わたしたちには信じがたいことかもしれません。受け入れがたいことかもしれません。しかしクリスマスの夜、天使はこの小さな命をさして、高らかに告げたのです。この乳飲み子こそ神があなたがたに与えてくださったまことの王、平和の王であられる。この王こそ神の国の王であられる。この王がいますなら、あなたがたはもう恐れることはない。

ローマ皇帝は、人間が神にまつりあげられただけの人です。けれどもイエスさまはちがいます。このお方は天で父なる神さまと同じ栄光を分け持っておられたまことの神さまです。そのお方がこの世界を、そしてわたしたちを罪から救い、永遠の命を与え、まことの平和をもたらして下さるために、天の栄光を捨ててへりくだり、まことの神であられるまことにまことの人となってくださったのです。ベツレヘムの飼い葉桶に横たわる

乳飲み子の姿で、この世に来てくださったのです。

イエスさまがこんなにも貧しい、弱い、無力な姿でお生まれになったこと。それはどういうことを意味しているのでしょうか。

それは、イエスさまが王として治めたもうみ国では、どんなに貧しく弱い人も苦しめられることもいじめられることもなく、幸せに生きることができるということを意味しています。どんなに小さな命も殺されず、大切に守られることを意味しています。強い軍隊や、ほかの国から奪い取ってきた富が、ほんとうにその国を幸せにするものではありません。わたしたちを幸せにしてくださいのは、まことの王イエスさまの愛と平和なのです。イエスさまこそこの世界のまことの王です。そしてわたしたちのただおひとりの王です。この王にひざまずき、この王のみあとに従っていくなら、わたしたちも平和のみ国の民とらせていただけるのです。

わたしたちのまことの王が生まれてくださいました。心から喜び、祝いましょう。（木下裕也）

---

[今週の暗唱聖句]      フィリピの信徒への手紙 2章9節

このため、神はキリストを高く上げ、  
あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

---



〈ねらい〉

幼児でも「王」について多少なりともイメージできる。わたしたちを守り・治めてくださる王であり、服従すべきお方としての主イエス像を学ぼう。

〈展開例〉

皆さんは「王さま」というと、どんなことを思い浮かべますか？ 大きな冠をかぶっている・ひげをはやしている・大きなお城に住んでいる・家来がいっぱいいる・戦争に出かける等々いろいろあるでしょうね。「イエスさまはわたしたちの王さまです」と言ったらどう思いますか？ あんまりそんな風に思えない人も、ウンそんな感じ！という人もいるでしょう。イエスさまは王さまですがお城に住んで、ひげをはやしていただいている

王さまではありません。イエスさまのことが「王さまの中の王さま」と言われることがあります。世界で一番の王さまという意味です。さて、どんな王さまなのでしょう。

サタンをやっつけてわたしたちを守ってくださいます。教会も同じように守ってくださいます。わたしたちが安心して幸せにすごせるのは、イエスさまが王さまとして守っていてくださるからです。だから王さまのおっしゃることを、心から素直に聞きましょう。クリスマスは世界の王さまのお生まれになった日なのです。

〈お祈り〉

天の父なる神さま、イエスさまが王さまとして守っていてくださるので安心です。今週もお守りください。イエスさまによって、アーメン。

〈やってみよう〉

- 各教会のクリスマスの準備にあててください。
- とくになければ、黄色の色画用紙で「王冠」をつくり、それをホイルや折り紙などを切って飾りましょう。



## 〈ねらい〉

来週は教会のクリスマス！ 分級もいろいろな準備で忙しいことでしょう。「そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た」を一生懸命暗唱している子どもたちが、世界中にたくさんいることでしょう。（たしか、スヌーピーの四コマ漫画の登場人物たちもやっていたような……）。時間がとれるなら、今日の主題「皇帝アウグストゥスとの対比から、まことの王イエス様の誕生を祝おう」をクイズの形でやってみてはいかがでしょう。

## 〈展開例〉

## ○アウグストゥスとイエス様を比べてみよう！

## アウグストゥス

地上の生涯：BC63年～AD14年（76歳）  
 生まれ：騎士の子として生まれた  
 最初のベッド：（たぶん）りっぱなベッド  
 どういう人：ローマ帝国の初代皇帝《人》  
 したこと：「ローマの平和」を実現した  
 関係あるカレンダー：August（8月）  
 生活：富と権力をもって生きた  
 活動の範囲：地中海を囲む全範囲（ユダヤも）  
 死：病死（老衰？）  
 最期の言葉：私は人生という喜劇を演じきった。私を喝采で送ってくれ。  
 死の後：墓に眠り、最後のしんぱんを待っている  
 現在の影響範囲：？  
 私との関係：高校生になったら歴史で勉強する。

## イエス・キリスト

地上の生涯：紀元元年（ごろ）～AD30年ごろ  
 生まれ：ヨセフとマリアの子として生まれた  
 最初のベッド：かいばおけ  
 どういう人：神の独り子（三位一体の神：「子」）《まことの神・まことの人》  
 したこと：すくいをかんせいさせた  
 関係あるカレンダー：紀元（西暦）元年  
 生活：人々を教え、いやし、しいたげられた人々と共に生きた  
 活動の範囲：ガリラヤ、エルサレム（サマリアも）  
 死：十字架刑（じゅうじかけい）  
 最期の言葉：父よ、わたしのれいをみ手にゆだねます。  
 死の後：ふっかつ、しょうてん、そして、今、父なるかみさまの右にさしておられる  
 現在の影響範囲：せかいじゅう  
 私との関係：？

アンダーラインのところをタックシールなどで隠してお使いください。

生徒の学年に応じて、隠す場所を変えていただいても結構です。

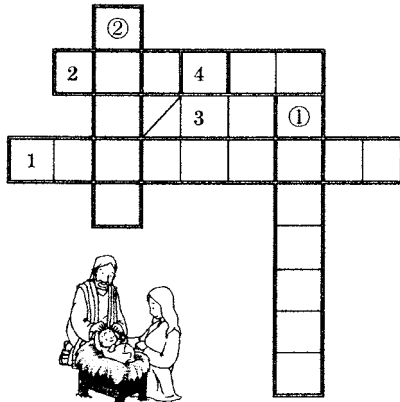
もちろん、別の紙に作っていただいても結構です。

最後のところが一番大切です。クラスで話し合ってください。

## 〈祈り〉

天のお父さま、まことの王様であるイエスさまを与えてくださって、ありがとうございました。主イエス様に喜んで従うことができますように。イエス様の御名によって祈ります。

✠ 聖書をひらいて (ルカによる福音書2章1~7節)



★数字の書いてあるマスから、ことばを入れてね。

〈タテ〉

- ① 皇帝の名前
- ② シリア州の総督の名前

〈ヨコ〉

- 1 何をするために自分の町に旅立った？
- 2 ナザレにある場所
- 3 身ごもっていたのは？
- 4 ヨセフがさがしていたものは？



✠ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒ 天使は、マリアさんのところへ来て「その子をイエスと名づけなさい」と言いました (ルカ1:31)

天使は、わたしのところにも現れて、神さまのみこころを教えてくださいませんか？ (Tちゃん・10才)

✠ 言ってみよう

問25

イエスさまの王としてのお働きは何ですか。

私たちの□□□□となってくださることで。

弱い私たちが悪に滅ぼされないように戦い、私たちを従わせ、治め、お守りくださいます。この□□□□こそ真の□□□□です。

ですから、私たちは心をこめて従います。

✠ やってみよう

★「系図」って知ってる？ ルカの福音書3：23~38の系図の中で、聖書に出てきた知っている名前を探してみましょう。(私たちの教会では、小学科上級クラスのお友達がクリスマスの祝会で、系図の名を初めから、最後まで全部、暗しょうして、発表してくれました。)

✠ 今週の暗唱聖句 (フィリピの信徒への手紙2章9節)

このため、神はキリストを□□□上げ、あらゆる名に□□□名をお与えになりました。



## 〈ねらい〉

## 1. 王のつとめについて考える

この世界の王様は自分の国を強く豊かにすることを目標としますが、旧約イスラエルの王様のつとめは、神様の御言葉に従って民を治め、民を神様にふさわしい民として整えることであった。

## 2. イエス様が真の王であることについて考える

イエス様は、真の王としてお生まれになったが、それは、とても貧しい環境の中で誕生であった。この貧しさにおける誕生こそ、神の御心にかなう真の王の誕生であった。この方が治める国では、貧しい者も弱い者も真の平安を得ることができる。そして、この方は、私たちの王として、私たちの敵を滅ぼし、危険や誘惑から私たちを守ってください。

## 〈子どもカテキズム〉

問27：イエス様の王としてのお働きは何ですか。

答：私たちの王様となってくださることです。

弱い私たち悪に滅ぼされないように戦い、私たちを従わせ、治め、お守りくださいます。この王様こそ真の王様です。ですから、私たちは心を込めて従います。

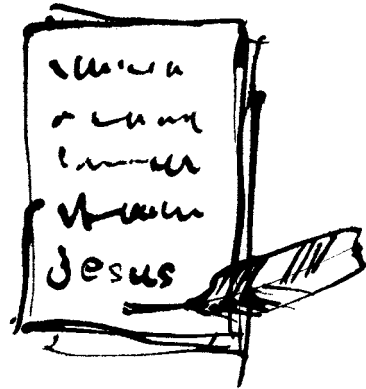
## 〈展開例〉

## 1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

- Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？  
Q. 分からなかったことは？

## 2. 生徒と一緒に考える。

- Q. 旧約イスラエルにおける王のつとめは何か？  
Q. イエス様は神の国の王様として生まれましたが、イエス様の誕生はこの世の王様の誕生とはどのように違っていた？  
Q. なぜイエス様は、貧しくお生まれになったのだろうか？  
Q. イエス様が王となって治める国はどんな国だろうか？



身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである

テキスト マタイによる福音書 2章1～12節

「ヘロデ王の時代に」(1節)という言葉は、一言で言えば血生臭さを意味している。ヘロデは強烈な独裁者であり、疑い深く、自分の妻や子どもさえをも、不信の思いから殺害するような領主であった。当時のユダヤは殺伐とした状況にあり、そこにはクリスマスの聖誕劇のような、温かい平和とは無縁の世界が現実には広がっていた。

そのヘロデ王は、「ユダヤ人の王」(2節)の誕生によって、今の自分の地位が失われることを恐れていた。しかし彼らの知らせに不安を覚えたのは、領主ヘロデだけではなかった。エルサレムもヘロデと同様に主イエスを拒絶する。この拒絶は、主イエスの十字架の際の「十字架につけろ」(マタイ27章23節)という群集の叫びや、また「これは、ユダヤ人の王イエスである」(マタイ27章37節)という、屈辱的な罪状書きを先取りしている。最もメシア(救い主)を待ち望み、歓迎すべきエルサレムの人々が、反対にメシアを拒んでしまうのである。ここに人間の罪の盲目さが明らかにされている。

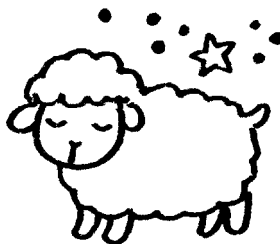
一方、学者たちは星に導かれてエルサレムに着いたが、占星術を頼りに自力でたどり着けたのはそこまでだった。更にベツレヘムに辿り着くには、旧約聖書の預言の言葉に聞く必要があった。ここには、イエス・キリストの救い主なる神のもとに辿り着くためには、どうしても神の言葉である聖書を通らなければならないという真理が現れている。

そして博士の到着の場面において、闇の中に現

れる光としての、クリスマスの平和が訪れた。そこに最初に招かれたのは、驚くべきことにユダヤ人たちではなく、全くの異邦人、地の果てからやって来た外国の学者たちであった。この御言葉は、キリストの救いが異邦人も含めたすべての民に開かれている事を示している。キリストは、この人々のような聖書を持たないような異邦人のためにも、あまねくこの地上すべての民たちのためにも、すべての民の喜びとしてお生まれになった。

驚くべきことに、主イエスの救いはその誕生の時から、既にユダヤ人を飛び越して、異邦人に広がっていた。このような順番の逆転は、ユダヤ人のメシア思想から言えば、とても考えられないことであったが、この主イエス・キリストの救いの前には順番の後先はない。むしろ主イエスは自ら、「先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」(マタイ19章30節)と語っておられる。民族や、国籍や、あるいは主を知るのが早かったのか遅かったのかということも、キリストの救いの前では、前提にも、また障害にもなることなく、主なる神による救いは広く、また大きく、全くの異邦人であるこの私たちの所にまでも、豊かに及ぶのである。

福音書記者マタイは、6節でミカ書5章の御言葉を引きながら、この神の救いの大きさ広さは、ここに新しく立ち現れた新奇な事柄なのではなく、既に旧約聖書の時代から、預言者たちの口を通して約束されていた、一貫した神の救いの御心であったことを、明らかにしている。(吉岡契典)



**(単元のねらい)**

カリキュラムではクリスマスについての直接のメッセージはこの日だけである。心を込めて、ていねいにクリスマスの恵みを伝えるようにしたい。また、先週まで子どもカテキズムを通して主イエスについて学んできているので、その主イエスのお働きの出発点としてのクリスマスの意味を明らかにしたい。そして、マタイが記したこの学者たちのストーリーには、主イエスの恵みとそれに応える者の信仰が豊かに現されているので、子供たち一人一人を主イエスのもとへ招き、主イエスと共に、そして主イエスに礼拝を献げて歩むように導きたい。

**「クリスマスの贈り物」**

今年もクリスマスが来ました。みんなでイエスさまのお誕生をお祝いしたいと思います。

先週まで、子どもカテキズムを読んでイエスさまについて学んできました。神であり人であるイエスさま、私たちのためにへりくだってくださり、私たちのために高く挙げられたイエスさま、預言者、祭司、王として今も生きて働いておられるイエスさまです。そして、そのイエスさまのお働きのスタートが、今日みんなでお祝いしているクリスマスです。クリスマスに、イエスさまは人となって私たちのところに来てくださったのです。

今日の聖書のお話は、聞いたことがあるでしょうか。東の国の学者さんたちが、イエスさまに会いたいと言って来たのです。途中、ヘロデ王というイエスさまの誕生を喜ばなかった王様も出てくるのですが、しかし学者さんたちはイエスさまのところに行くことができました。そして、イエスさまを拝み、黄金、乳香、没薬というとても高価な贈り物を献げたのです。

このように誰よりも早くイエスさまに出会うことができた学者さんたちをとてもうらやましく思いますが、この学者さんたちは実は私たち一人一人がどんなふうにイエスさまに出会うことができるのかということを教えてくれています。

まず、学者さんたちは星に導かれてやってきました。私たちにも、教会学校に来るようになったきっかけがあると思います。お父さんお母さんが

教会に来ているとか、お兄ちゃんお姉ちゃんと一緒に来るようになったとか、お友達にさそわれて来たという人も多いかもしれません。先生も、高校生のときにお友達にさそわれて初めて教会に行ったのですが、そういう人たちはみんな学者さんたちの星のような存在ではないかと思うのです。みんな、神さまが与えてくださった不思議な星に導かれて、イエスさまのところに来るのです。

そして、もう一つ大切なことがあります。それは聖書です。学者さんたちは、イエスさまの生まれた場所を聖書から教えられたのです。「ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである」。イエスさまはベツレヘムでお生まれになったのです。学者さんたちは聖書の言葉に教えられてイエスさまに出会うことができました。私たちも、イエスさまに会いたいと願うなら、聖書を読めばよいのです。聖書を読めば、イエスさまがどういうお方なのかが分かります。イエスさまに出会うということがどういうことなのか分かるのです。

クリスマスは、まさにそのことを教えてくれます。イエスさまはどういうお方なのでしょう。イエスさまは、神さまが私たちに与えてくださった贈り物です。しかも、私たちを罪から救ってくださるという、他にはない大切な贈り物です。私

たちは、もうたくさん持っているものをもらってもあまりうれしくないかもしれません。しかし、イエスさまというお方は、他のものと比べることができないすばらしい贈り物なのです。しかもイエスさまは、いつまでも私たちと一緒にいてくださいます。みんなは去年もらったクリスマスプレゼントを今も大切に持っているでしょうか。大切にしてほしいと思います。でもひょっとしたら、どこかになくしてしまったというお友達もいるかもしれません。遊んでいてこわれてしまったというお友達もいるかもしれません。でも、イエスさまというプレゼントは、なくなったり、こわれてしまったりしません。イエスさまは今も生きておられ、私たちを助け、私たちと一緒にいてくださるのです。神さまはそのようにして私たちを愛してくださっているのです。

そして、そのようなイエスさまと出会うとき、私たちはどのようにすればよいのでしょうか。このことも、学者さんたちが教えてくれます。まず、学者さんたちは「喜びにあふれました」。難しいことはありません。喜ばばよいのです。聖書を読んで、あるいは教会学校でお話を聞いて、イエスさまはすばらしいなあと思ったら、喜ばばいいのです。その素直な喜びを、イエスさまも喜んでくださいます。

次に、学者さんたちはイエスさまを「拝み」しました。これは、イエスさまを神さまと信じて礼拝するということです。イエスさまは私たちと同じように小さな赤ちゃんとしてお生まれになりました。でも私たちと違うところは、イエスさまは神

さまであるということです。イエスさまと出会うということは、私たちがイエスさまを神さまと信じ、イエスさまを礼拝することです。

そして、学者さんたちは「贈り物」を献げました。クリスマスにはお友達とプレゼントの交換をしたりすると思いますが、この交換をまず神さまとのあいだでするのです。神さまがイエスさまをすばらしい贈り物として与えてくださったので、私たちも、宝の箱を開けて、贈り物を献げるのです。

これはちょっと難しいなあと思うかもしれませんが、黄金なんか持ってないよと思うかもしれませんが、でも大丈夫です。贈り物は、値段ではないのです。神さまが与えてくださったイエスさまを感謝し、喜んで、自分も何かお返ししたいという気持ちがあれば、それで十分なのです。その気持ちをもって、お祈りをするなら、それが贈り物です。賛美するならそれが贈り物です。また、礼拝のときに、10円でも100円でも献金してはどうでしょうか。それは黄金には見えないかもしれませんが、イエスさまを喜び、礼拝する心をもって献げるなら、それはすばらしい黄金なのです。

みんなの宝の箱には何が入っているでしょうか。みんながお父さんお母さんからのプレゼントを楽しみに待っているように、神さまもみんなからの贈り物を楽しみに待っていてくださいます。そして、神さまは、イエスさまを信じて献げる贈り物をどんなものでも喜んでくださるのです。

(石原知弘)

---

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 2章11節

彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、  
黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

---



**〈ねらい〉**

東の国の博士が全身全霊をもって礼拝することを願った主イエスのお生まれの喜びをつたえよう。

**〈展開例〉**

（紙芝居があれば、博士の場面の絵をあるだけ部屋に飾って見せておきましょう）

イエスさまは昔話に出てくる作り話の人ではありません。昔本当にいた「ヘロデという王さまがいた頃にお生まれになった」と、聖書に書かれています。

イエスさまがお生まれになったとき、天の星も大喜びして光り輝くほどの喜びでした。イエスさまはユダヤという国にお生まれになったのに、よその国の博士までもが拝みたいと言って遠くから一生懸命やって来ました。反対にヘロデ王さまはイエスさまのお生まれをこわがりました。

このようにイエスさまのお誕生は世界中、いえ宇宙全体に関係がありました。つまりイエスさまはユダヤの国でお生まれになりましたが、全世界

の人々のためにお生まれくださったのです。だから二千年たった今も、世界中の人がお祝いするのです。

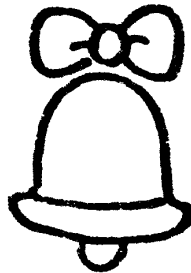
みんなは嬉しいプレゼントを誰かからもらったとき、黙ってそっと隠しておきますか？ それとも、「ねえ見て見て！」とみんなに見せて教えてくれるのでしょうか。見てほしくなりますね。最初にイエスさまを礼拝した羊飼いさんたちがそうでした。「みんなみんなイエスさまがお生まれになったよ！」と言いふらしながら帰りました。博士さんたちは遠い長い道も面倒くさいと思わず、一番大切な物をプレゼントにして、ヘロデ王さまに何かこわいことをされるかもしれないことも恐れず、イエスさまを捜し当て、心からの礼拝をして大喜びで帰りました。

**〈お祈り〉**

天の父なる神さま、イエスさまをくださってありがとうございます。博士さんや羊飼いさんのように嬉しいです。イエスさまによって、アーメン。

**〈やってみよう〉**

- 各教会のクリスマスにあててください。
- 時間のある教会は、博士の場面の紙芝居、絵本などをゆっくり読んであげましょう。



**〈ねらい〉**

東方の占星術の学者たちが、メシアとして誕生なさったイエスさまを拝みに出かけたことを通して、私たちがどのようにしてイエスさまと出会うのか、出会ったイエスさまに何をすればよいかを学びたい。子どもたちがクリスマスの喜びを日々感じ、感謝しながら歩むことを願う。

**〈展開例〉****1. 今日のお話のなかで、だれがイエスさまに会いに行きましたか。**

→東方の学者たちが会いに行った。

イエスさまの誕生に最初に招かれたのは、メシアを待ち望んでいたユダヤ人ではなく、異邦人であった。キリストの救いは、誕生の時からすべての民のためであったことがここからわかる。

**2. 学者たちは、すぐにイエスさまがいらっしゃる場所がわかりましたか。**

→わからなかった。

まず、ヘロデ王のところへ行き、そこでイエスさまがお生まれになった場所がベツレヘムだとわかった。

**3. どうしてベツレヘムだとわかったのですか。**

→聖書から教えられた。旧約聖書の預言の言葉に、「ユダの地、ベツレヘムよ、……お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者になるからである」とあった。

私たちが聖書を通して、救い主なるイエスさまに出会うことができ、イエスさまがどういうお方であるかがわかる。

**4. それから学者たちはどうしましたか。**

→暗闇のなか、東方で見た星に導かれ、ついに幼子イエスさまに出会った。そして、ひれ伏して拝み、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

**5. 学者たちは、そのときどんな気持ちだったのでしょうか。**

→イエスさまに出会えて喜びに満たされていた。その喜びの現れとして、また礼拝するにふさわしい贈り物として黄金、乳香、没薬を献げた。

私たちが東方の学者たちのように、最高の贈り物をもって、イエスさまに会いに行こう。  
※黄金：主への礼拝にふさわしい最高の金属、乳香：煙（薫香）は神を拝する人々と神を結ぶものとして用いられた、没薬：強い殺菌力と芳香を有する植物の樹脂。

**6. みんなにとって、イエスさまはどんなお方ですか。**

→東方の学者たちが会いに行ったすべての民の救い主は、私たちが礼拝で会いに行く救い主と同じである。神さまが私たちに与えてくださった最高の贈り物、救い主イエスさまを信じて喜んで礼拝したい。

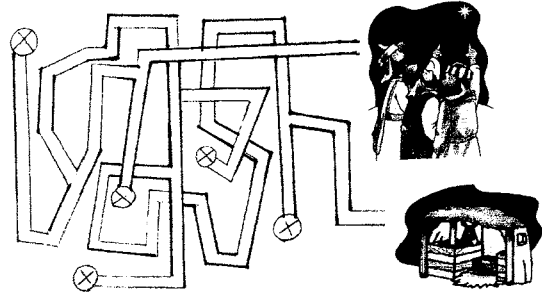
**〈祈り〉**

神さま、私たちがいつもクリスマスの喜びを忘れないで、感謝しながら歩むことができるようにお守りください。アーメン。



### ✠ 聖書をひらいて (マタイによる福音書2章1～12節)

さあ、イエスさまのところへ行こう！ 博士のいる所から馬小屋にたどり着いてね。同じ道は二度と通れませんか



### ✠ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒ 占星術の学者って、星占いをする人ですか？ 分級の先生は、星☆占いを信じたらいけないと言っていました。神さまは、神さまをまだ信じていない人も、愛してみちびかれるのですか？

(星占いが気になるA子より・12才)

### ✠ やってみよう

★日本で最初にクリスマスのお祝いをしたのは、いつだと思う？

1566年、<sup>みよしよしつぐ</sup>三好義継と<sup>まつながひさひで</sup>松永久秀という人が戦いをしようとしていた時、両軍のキリシタンの武士が、たがいにクリスマスを祝おうと話合ったんだって。両軍から数十人のキリシタン武士が集まって、神さまを礼拝し、そのあと持ち寄った料理を食べながら、神さまのことを語り合ったり、賛美歌を歌ったりして過ごしたそうです(※)。

\*キリシタン (イエスさまを信じる人)

★今日は降誕祭です。占星術の学者たちが、イエスさまにお会いして「喜びにあふれて」心からの贈り物の黄金・乳香・没薬をささげたように、私たちもイエスさまを心から感謝して、賛美とお祈りと献金をささげましょう。



### ✠ 今週の暗唱聖句 (マタイによる福音書2章11節)

彼らひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬をおくりものとしてささげた。

※『キミはVIP』(ラブキッズ・ブックス)、p58より

## 〈ねらい〉

## 1. 神様は私たち一人一人をイエス様のもとへ導いてくださっている。

“星”が博士たちをイエス様のもとに導いたように、神様は、私たち一人ひとりをイエス様のもとに導くために必要なものを与えてくださっている。イエス様のもとに導く最も確かな案内役は、聖書の御言葉である。

## 2. イエス様の誕生が神様からの贈り物であることについて考える。

博士たちはなぜイエス様を見て心から喜び、礼拝し、贈り物を献げたのだろうか。それは、イエス様の誕生を神様からの貴い贈り物として受け止めたからである。私たちもイエス・キリストの誕生を神様からの贈り物として受け止めるときに、本当の喜びと礼拝と献げ物を献げることができる。

## 〈展開例〉

## 1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。

Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？

Q. 分からなかったことは？

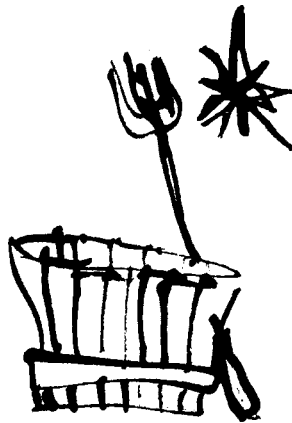
## 2. 生徒と一緒に考える。

Q. 自分にとって、イエス様のもとに導いてくれた“星”はなんだろう？

Q. 学者さんたちをイエス様のもとに導いたものは、星の他に何があったか？

Q. 学者さんたちがイエス様と出会った時にしたことは何？

Q. イエス様というプレゼント贈ってくださった神様に、あなたは何を献げることができますか？



宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた



テキスト 詩編 146編

詩編146編は、詩編150編を頂点とする、通称「ハレルヤ詩編」と呼ばれる五つの詩編の最初に位置している。146編から150編までの詩編はすべて、「ハレルヤ」という賛辞の枠の中で語られる、神への賛歌であり、詩編作者の視野は、高く天におられる神の支配を仰いでいる。

### 【1-2節】

1~2節において、主への賛美、主をほめたたえることこそが、人生の力強い目的であり、使命であることが断言され、宣誓されている。「命ある限り、長らえる限り」との言葉が、この詩編の読者に迫ってくる。我々はこれほどの思いと熱意を傾けて、この命を用いてこれまで何を為してきたのか、これから何を為そうとしているのかが強く問われる。

### 【3-4節】

人間に過ぎない指導者に信頼を置くことの愚かさが述べられ、それによって究極的に我々を支えるお方がどなたであるのかが指し示される。君候たりとも、それは死んで朽ち果てる人間なのであり、結果的には無力である。これに頼る者は、その誤った信頼に立つことによって、自らの愚かさをも露呈することになってしまう。

### 【5-6節】

主なる神を信頼し、主なる神の庇護の中に留まってこそ、我々は安全なのである。天地を造られた神は、君候らとは根本的に威力が異なっている。主なる神から来る助けこそが、確かなのである。

### 【7-9節】

ここには主なる神が我々を統治なさるその仕方が述べられており、それは弱い者にこそ愛が注がれる統治のあり方であり、これは聖書における政治の理想でもある。これらの神の御業は、ことごとくこの世の君候が為す統治の対称にあるものとして言い表されている。さらにここに述べられている救いのビジョンは、のちに地上に来られる主イエス・キリストによって、ひと言ひと言が文字通りの実現に至るのである。

### 【10節】

主が天地の全てを支配される終末において実現する永続的な救いの確立が、信仰の目によって豊かに思い描かれ、その終末における賛美の充満が先取りしてここに言い表されている。この世において神を賛美する者が、究極的に望み見ているものは、主なる神のとしえなる王権の確立という将来である。その約束されたゴールに希望を置いて歩む者こそが、主に頼む者なのであり、今のこの命を、神への賛美へと昇華させることを究極の目的に据えて、日々の人生を歩む者となるのである。

過ぎた一年の中にも、新しく与えられる一年の中にも、詩編146編が言い表す主にある現実が、確かに深く根を張っている。それが過ぎた年を振り返る際の我々の慰めであり、新しい年に踏み出す際の希望である。 (吉岡契典)



**(単元のねらい)**

一年の歩みを振り返りながら、神さまの恵みに感謝をささげましょう。そして、ただ楽しかったこと、うれしかったことを思い出して感謝するというのではなく、失敗したこと、うまくいかなかったことなども思い起こしてみたい。自分の小ささや貧しさを知るとき、神さまの大きさと豊かさを知ることにもなる。詩編が歌い、描いているそのようなスケールの大きな神さまについて、子供たちと一緒に学んでいきたい。子供たちと共に、悔い改めと信仰によって新しく生まれ、新しい年への歩みへと導かれていきたい。

**「一年の感謝、そして新しい年へ」**

2008年ももうすぐ終わろうとしています。今日が今年最後の日曜日、主の日です。

今年はどうな一年だったでしょうか。よくテレビや新聞で、「今年の十大ニュース」といったことを聞きますが、みんなにとって今年の大きなニュースはどんなことだったでしょうか。楽しかったことやうれしかったことがたくさん思い浮かぶでしょうか。そのときは、感謝して神さまを心から賛美したいと思います。「ハレルヤ。わたしの魂よ、主を賛美せよ」。うれしかったこと、楽しかったこと、それらはみな神さまが私たちに与えてくださったことです。十のニュースを数えることは、十の恵みを数えることです。私たちは、「ああ今年も楽しかった」で終わるのではなく、「ああ今年も神さまの恵みがたくさんあった、ハレルヤ」と言って一年を終わりたいと思います。

ところで、今年一番のニュースはあまりうれしきことではなかったというお友達もいるかもしれません。病気になったとか、けがをしてしまったというお友達もいるかもしれません。でも、そういうこともとても大事なことです。一年の思い出の中で、意味のない出来事などはないのです。ですから、楽しかったことばかり思い浮かぶお友達も、少し考えてみてください。長い一年、いろいろなことがあったはずです。失敗してしまって悔しかったことや、よくないことをしてしまって心が悲しくなったということもあったのではないで

しょうか。

そういう出来事も、大切な意味があります。一つの意味は、私たちがいばったり、偉そうにしたりしないようになるため、ということです。成功したり、うまくいったりしたとき、私たちは神さまに感謝しますが、逆に神さまのことを忘れてしまうということもあります。自分がかんばったからできたとか、自分は他のみんなよりすごいからできたんだ、というふうになってしまうのです。確かに、かんばったこともあるでしょう。他のお友達より立派にできたこともあるでしょう。でも、それも神さまが力を与えてくださったからできたことなのです。

逆に、失敗したり、うまくいかなかったりしたとき、神さまにいつもよりお祈りしたとかお願いしたということはなかったでしょうか。私たちは、自分の足りないところやできないところを知るときに、本当に神さまの力に頼りたいと思うようになるのです。「人間には救う力はない」とあります。人間を救ってくださるのは神さまなのです。

今年の十大ニュースなどをテレビで見ていると、今年亡くなった人が紹介されることがあります。見ていると、やはり少しさびしい気持ちになります。人はみんないつか死ぬのです。どれだけ成功した人も、有名になってお金持ちになった人も、みんな死ぬのです。「霊が人間を去れば、人間は自分の属する土に帰り、その日、彼の思いも

減びる」のです。人間の力というのは、どんなに大きく見えても、小さなものだと思わされます。

しかし、神さまは私たちよりもはるかに大きな力を持ったお方です。「天地を造り、海とそこにあるすべてのものを造られた神を」、私たちは信じるのです。失敗した私たちを神さまは励ましてくださいます。悪いことをしてしまった私たちを神さまは赦してくださり、正しいことを教えてくださるのです。

そして、神さまは私たちに永遠の命を与えてくださるお方です。イエスさまを信じる人は、永遠の命を約束されているのです。今年、みんなの教会ではお葬式があったでしょうか。知らないお友達は教会の先生に聞いてみてください。お葬式があったかもしれません。誰かが死んでしまうのはとてもさびしいことです。でも、教会のお葬式には不思議な力があります。さびしいのだけれど、希望があるのです。それは、教会が天地を造られた神さまを信じるからです。天地を造られた神さまは、私たち一人ひとりをも造ってくださり、さらにイエスさまによって終わりの日に復活させてくださるのです。だから、今年みんなの教会でたくさんお葬式があったとしても、そこで神さまの力を信じることができるのです。楽しかったときやうれしかったときだけでなく、どんなときでも神さまと一緒にいてくださり、その大きな力で私たちを助けてくださっていたのです。

さて、来週はもう2009年、新しい年です。来年はどんな年になるでしょうか。最後に、神さまを信じるみんなにお願いしたいと思います。来年は、そして来年も、その神さまの大きな力を伝えて、困っている人たちを助けてあげる年にしてほしいのです。「とこしえにまことを守られる主は、虐げられている人のために裁きをし、飢えている人にパンをお与えになる。主は捕われ人を解き放ち、主は見えない人の目を開き、主はうずくまっている人を起こされる。主は寄留の民を守り、みなしごとやもめを励まされる」。悔しいことがあった人は、今悔しい思いをしている人を励ましてあげることができます。悲しいことがあった人は、今悲しい思いをしている人を助けてあげることができます。神さまが、そのような私たちを助けてくださったからです。

今年あったことを感謝すると共に、また悪かったことは悔い改めて、神さまと一緒に新しい年を迎えましょう。来年も神さまが私たちを守ってくださいます。そして、その神さまを知っている私たちも、困っている人たちを守ってあげるのです。来年の最後の日にもまた、どんな一年でしたかと聞きたいと思います。そのとき、「困っている人を助けてあげることができた」という声がみんなから聞けることを楽しみにしたいと思います。

(石原知弘)

---

[今週の暗唱聖句] 詩編146編 1～2節

ハレルヤ。わたしの魂よ、主を賛美せよ。

命のある限り、わたしは主を賛美し、長らえる限り、わたしの神にほめ歌をうたおう。

---



**〈ねらい〉**

一人ひとりの一年の感謝や喜びを共有し、共に感謝する。

**〈展開例〉**

分級の生徒・先生全員が語り合う時としよう。「今年一番嬉しかったこと、悲しかった（いやだった）こと」などが、自由に何でも話せる雰囲気を作る。

（ラムネ1コ・煎餅1枚でも用意すると効果的かも知れない）

長く話すことはまだ無理な年齢だが、こちらの聴き方次第で心の内をみせてくれる。どんな話でも丁寧に傾聴しよう。それら一つひとつの中に働かれた主の御手の業に目を向けさせ、その場にい

る全員で共有できるように導こう。

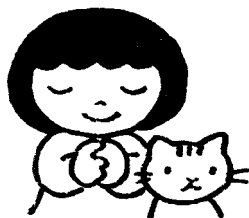
話がうまく進まないときは、まず教師が証しを試してみる。できれば失敗の中で主を見上げた経験などが話されると子どもたちも続いて話しやすいかも知れない。一人の子の話が終わったら、その子のために短く祈り次へ、というふうに進められると良い。表面的な話にならないよう深く話を聴いてやりたい。子どもから教えられる時でもある。来年への励ましも忘れないように。

**〈お祈り〉**

天の父なる神さま、いつも一緒にいてくださって一年間ありがとうございます。来年もよろしく願っています。イエスさまによって、アーメン。

**〈やってみよう〉**

- 展開例のような進め方で十分時間をかけましょう。
- クリスマスの感想などに話が飛んでもいいでしょう。
- 終わったら、ひとりひとりをしっかり抱きしめて、さよならをしましょう。



**〈ねらい〉**

神様が働き続けてくださった一年を賛美し、神様への信頼をもって来る年を迎える。

**〈展開例〉****○神様を賛美すること**

みんなは教会に来ると讃美歌を歌うよね？ 讃美歌っていうのは「賛美する歌」と書きます。じゃあ、賛美ってどういう意味だろう。……賛美っていうのはね、神様をおほめすること。「神様ってすばらしい方だなあ」という気持ちで神様のことを心からおほめすること。これが賛美です。

みんなは誰かにほめられるの好きかな？ 「○○くんは、すごいねえ」とか「○○ちゃんってえらいわねえ」なんて言われたら嬉しいよね。言われるだけじゃなくて、お友だちに向かって「おまえってすごいね！」とか、おとうさんに「おとうさんってすごいね！」なんて言えるときは言っているほうも嬉しい気分になるでしょ？

そして、みんなが誰かのことを「あの人はすばらしいな。すごいな。」と思うとき、その人は実際にみんながほめたくなるようなことをやっているのだと思います。では、神様はどうだろう？

**○神様と自分（たち）との一年を振り返る**

今週で一年が終わりますが、この一年間、神様はみんなにどんなことをしてくれたかな？

[子どもたちと一緒に話してみる]

みんなが話してくれた嬉しい思い出は全部、神様がくださった思い出だね？ すごくない？ 神様って。神様が自分のことをどれだけ大切にしてくださったかが分かると嬉しくなってくるでしょ。

**○神様を頼ること**

……でも、今年の思い出は嬉しいことばかりじゃないよね。大変だったこと、悲しかったことや辛かったことも色々あったと思います。今日のお話では、自分の力ではどうにもできないよう

な悲しいことや苦しいことには意味があるということを知りました。いろんなことが上手くいって楽しいときや嬉しいときは「俺ってすごいな！」とか「今日はめっちゃめっちゃ楽しかったな」なんていう風に自分のことで頭がいっぱいになってしまわないですか？

反対に何かを失敗したときや誰かとけんかしてしまったりしたときには「自分は本当にダメなやつだなあ。」と、自分が弱いことに気が付きます。また、苦しいときや辛いときに誰も力になってくれないようなことがおきると「誰も頼りにならないなあ」と、人間の力の小ささに気が付くかもしれません。

だけど、そういった「誰も頼りにすることができないなあ」という苦しさは神様にすがりついて頼ろうとする心を与えてくれます。「神様、私にも誰にもこの問題はどうにもなりません。誰も頼りにすることができません。頼れるのは神様だけです。神様！ 助けてください！」

神様は、みんなの「助けてください！」という心からの気持ちを無視するようなことはなさいません。みんなが「神様を頼りにして本当によかったなあ」と思えるような仕方で、みんなの気持ちに伝えてくださいます。神様にかかれば、みんなの弱いところも、人にはどうにもできないようなことも「神様ってすごい！」ということを知ることが出来るようになりますね。

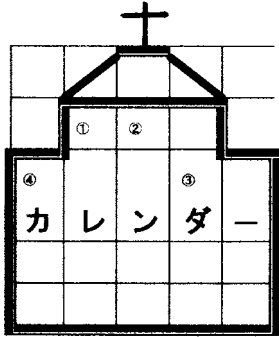
すごい方でしょ？ 神様って。こうやって一年を振り返ると嬉しいことの中にも悲しいことの中にも「神様って素晴らしい方だな」ということだらけですね。2009年もますます神様の素晴らしさを味わうことができるように、お祈りしましょう。

**〈祈り〉**

神様、あなたは本当に素晴らしい方です。どうかあなたの素晴らしさに気付ける心とあなたに頼る心を2009年にも育ててください。アーメン。

## ✝ 聖書をひらいて (詩編146編)

「カレンダー」も、終わりに近づいてきました。今年1年も、教会で子ども礼拝をささげることができたことを神さまに感謝します。(詩編146編1～2からさがしてね)



〈タテ〉

数字の書いてあるマスから書いてね。

- ①神さまを賛美することば
- ②主を〇〇〇しよう♪
- ③詩篇146編を作った人の名前は？
- ④命のある〇〇〇、長らえる〇〇〇



## ✝ 考えてみよう (質問に答えてあげてね！)

☒ぼくは今年、大きな病気をしました。とても苦しかったです。その病気のことを「神さまありがとうございます」とは言えません。今は良くなったけれど、その時は、神さまはボクといっしょにいて下さらなかったのですか？ (Tくん・11才)

## ✝ やってみよう「みことばのしおりを作ろう」

- ①詩篇146：1～20までをみんなで声に出して読んでみます。
- ②自分が心に残った1節をしおり(色画用紙)に書きます。
- ③リボンや、毛糸をつけてできあがり！



## ✝ 今週の暗唱聖句 (詩編146編1～2節)

ハレルヤ。わたしの魂よ、主を□□□せよ。命のある限り、わたしは主を□□□し、長らえる限り、わたしの神にほめ歌をうたおう。

〈ねらい〉

1. 一年を振り返り、神様の恵みと導きに感謝をする。
2. 一年を振り返り、神様に対する罪を悔い改める。

〈展開例〉

1. 説教を聞いて教えられたこと・考えたことを分かち合う。  
Q. 説教を聞いて新しく教えられたことは？  
Q. 分からなかったことは？

2. 生徒と一緒に考える。

一人ひとりの今年のビッグニュースを発表し合い、その出来事を通して、神様がどのような御業をなしてくださったかを話し合う。

また、この一年間、神様に罪を犯し続けてきたことをよく考え、悔い改めることの大切さをしっかりと伝えたい。

3. これからの信仰生活のために

新しい年を迎えるにあたって、それぞれの抱負を発表しあい、お互いのために祈り合う時間を持ちたい。



## 〈小学科上級の答えの参考〉

- 10/5 カテキズム20の答え「カミサマのイカリヲウケナケレバナリマセン」  
☒「悔い改め」とは、罪の大小ではなく、神から離れていた人間が、その全存在を神に復帰させる行為をあらわす用語、「神に帰る」ことを意味することを確認する。
- 10/12 「メグミニヨルノデス」(エペソ2:5)  
☒ エフェソ1:4~5「イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。」など。
- 10/19 「この **か** た **が** **か** **み** をしめされたのである」  
—「カテキズム問22」の答えがそのものです。
- 10/26 「ミコヲアイシテ、ソノテニスベテヲユダネラレタ」(ヨハネ3:35)  
ヘブライ2:18より
- 11/2 ☒ 国道1号線でも、東海道53次でもありません。「わたしが道であり真理であり命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとにいくことができない。」(ヨハネ14:6) イエスさまの救いの御業を信じて生きることであり、礼拝をささげ続ける、祈りの生涯を歩むこと。
- 11/9 「わたしを見たから信じたのか」  
☒ わたしたちは、【聖書に書かれた神のことば】を通して、イエスさまを信じます。  
ヨハネ20:31「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり……」
- 11/16 ☒ マタイ26:53~56
- 11/23 「かみはキリストをたかくあげ」(フィリピ2:9)  
☒ ヨハネ16:7~8「わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる……」
- 11/30 「ことばのうちにいのちがあった」(ヨハネ1:4)  
☒ 創世記2:7「……その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きるものとなった」
- 12/7 イザヤ53:12「……とりなしをしたのはこのひとであった」  
☒ ルカ11:2~4「祈るときには、こう言いなさい」  
ア○(6:12) × イ×○(ルカ11:5) ウ○(6:6) ×
- 12/14 ①アウグストゥス ②キリニウス 1住民登録2ガリラヤ3マリア4宿屋  
☒ マリアのところにも天使が、またヨセフのところへも主の天使が夢に現れましたね。イエスさまの御降誕には、天使も大切な働きをします。Tちゃんも、天使が現れるのを楽しみにしているのですね。天使は、多くは天において仕えています。しかし、神さまの救いの歴史の重要な部分において(荒野の誘惑、ゲッセマネの祈り、復活の朝、使徒たちの伝道etc)天から遣わされます。そのような、救いに関わる重要な時ということ覚えておいてね。
- 12/21 ☒ 占星術の博士たちは、おそらく、ペルシャ・バビロニア地方に住んでいた異教の地の民、異邦人でした。星占いをして、多神教の神の中で生活していたのかもしれませんが。しかし、神さまは、そのような異教の地の民をも眼に留められていました。異邦人が神の救いの約束の受け取り手とされる前ぶれでもありました。彼らは、「メシアの星」を見たとき、ためらうことなく何千kmもの長旅にでました。広大な砂漠、厳しい自然環境、危険を承知で、「メシアの星」に従ったのです。イエスさまに出会った彼らは、別の道を通って帰りました。かれらは、真の神さまを礼拝する民となったのです。大切なことは、信じ、従い、方向転換(生き方を変えること)をして、礼拝をささげることです。



# いのちのパン

「わたしは<sup>いのち</sup>命の<sup>ぱん</sup>パンである。



わたしは、<sup>てん</sup>天から<sup>くだ</sup>降って来た<sup>き</sup>きた<sup>い</sup>パンである。



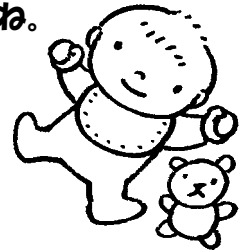
この<sup>ぱん</sup>パンを食べるならば、その<sup>ひと</sup>人は<sup>えいえん</sup>永遠に<sup>い</sup>生きる。」

(ヨハネによる福音書 第12章48節・512節)

あなたは、おしゃべりすることができますか？ あったいまえだよね。

どうして、できるようになったのですか…？

それは、赤ちゃんだった、あなたに、お父さんやお母さんが  
なんどもなんども話しかけてくれたからです。



もし、英語で話しかけられていたら、ペラペラだったはず!?

それなら、あなたは、神さまとおしゃべりすることはできますか？

神さまのおしゃべりは、「お・い・の・り」するってことです。

神さまは、僕たち私たちに、聖書のみことばをとおして、  
まいにちまいにち、おはなしくださいます。

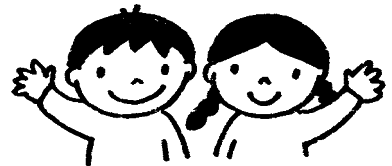
みことばをきいていると、神さまにお話できるようになるのです。

神さまは、あなたのお祈りを、毎日、

いまかいまか と 待っておられます！！

3ヶ月の間、旧約聖書の「詩編」を はげましあって

‘のろのろ’でもかまいません。‘こつこつ’と読んで行こう！！




# いのちのばん

<p>10月6日（月） 詩編1編6節  <b>主は知っていてくださる</b>            神様を信じてお祈りをしたのに、悲しいことが起きることがある。でもがっかりするのはやめよう。神様はお祈りをしたわたしのことを知っていてくださる。だからいつか悲しみを終わらせて、喜びをくださる。わたしはいつか実を結ぶ木のようなだ。神様を信頼して、神様の恵みを待とう。</p>	<p>10月9日（木） 詩編5編8節  <b>慈しみをいただいて、あなたの家に入り</b>            神様を礼拝する教会は神様の家のようだ。そこに行けば神様が迎えてくださる。そして私の悪いことをぜんぶ赦して「あなたが来てうれしい」と言ってください。友達にいじめられた時、いじわるな言葉で心が傷ついた時、神様の家、教会に行こう。神様の優しさで心は元気になって来る。</p>
<p>10月7日（火） 詩編3編4節  <b>あなたはわたしの盾、わたしの栄え</b>            槍や弓矢の攻撃から命を守ってくれる武器。それが盾だ。神様はその盾のような方だ。私に意地悪な人がどんなに増えても、神様はいつまでも私の味方、私を守ってください方。神様の守りを打ち破ることは誰にもできない。だから安心だ。夜にも心配は広がらない。安心して眠ることができる。</p>	<p>10月10日（金） 詩編6編9節  <b>主はわたしの泣く声を聞き</b>            泣くところを人に見られたら恥ずかしい。だから、我慢しているけれど、声を上げて泣きたいほどにつらいこともある。神様の前なら泣いてもだいじょうぶ。神様は私を大好きだから、私の泣く声を聞いてくださる。お祈りのときは泣いてもよいとき、心の中の思いを神様に見てもらおうとき。</p>
<p>10月8日（水） 詩編4編8節  <b>それにもまさる喜びをわたしの心に</b>            おいしいチョコレートをいっぱい食べて毎日遊園地で遊ぶことができたなら喜びだけど、そんな毎日を過ごしたらいつか寂しい心がやって来る。神様がくれるのはもっと大きな喜び。お祈りをしたら分かる。神様はだれよりも優しく、私を大事に思ってください方。すべてにまさる大きな喜び。</p>	<p>10月11日（土） 詩編8編2節  <b>天に輝くあなたの威光をたたえます</b>            目を上げて夜空を見よう。輝く月やたくさんの星。気が遠くなるほどに神様は大きい。そして、私の私は豆粒みだ。こんなに大きな神様がこんなに小さな私を大切にしてください。驚きだ。神様、本当にありがとう。</p>



# いのちのばん


<p>10月13日（月） 詩編9編19節  <b>貧しい人の希望は決して失われない</b></p> <p>お金が増えれば希望はふくらみ、お金が減れば希望はしぼむ。神様を忘れたら、そう思うかもしれない。でも、それは大きな間違いだ。お金がなくなっても弱い人になった時も、神様は私を忘れないでいてくださる。私が弱いときは助けてくださる。この希望がなくなることは決してない。</p>	<p>10月16日（木） 詩編14編5節  <b>神は従う人々の群れにいます</b></p> <p>「神などいない」と言う人がどんなに多くても、信じてはいけない。鯨を知らない人が「鯨などいない」と言うのと同じだ。神様を知らないから「神などいない」と言うのだ。神様は従う人々といっしょにいてくださる。神様に従おう。そうしたら、神様がいることがはっきりと分かる。</p>
<p>10月14日（火） 詩編11編4節  <b>主は天に御座を置かれる</b></p> <p>友だちをいじめる人やずるいことをする人がまわりにたくさんいて、その人たちの力が強いと、神様に従う勇気が弱ってくる。でも、この世界を見ているだけでは分からない。神様は天におられて、悪い心と優しい心を見分けておられる。勇気を出そう。神様に従う優しい心を持ち続けよう。</p>	<p>10月17日（金） 詩編16編11節  <b>わたしは御顔を仰いで満ち足り</b></p> <p>友だちといっしょにいるだけでうれしくて満足なことがある。家族といっしょにいるだけで心から楽しいときがある。とても大きな幸せだ。神様といっしょにいることは、もっと大きな幸せだ。教会に続けて通おう。私を見ている神様の優しい顔が分かる。心に喜びが満ちてくる。</p>
<p>10月15日（水） 詩編12編5節  <b>（悪人は言う）自分の唇は自分のためだ</b></p> <p>言葉を話すことができる唇は神様からのすばらしい贈り物。この唇で友達や家族をカづけ、神様を賛美することができる。「自分の唇は自分のためだ」と言って、ずるいうそをついてはいけない。神様はうそをつかない方、うそを嫌われる方だ。神様を恐れ、よいことのために唇を使おう。</p>	<p>10月18日（土） 詩編19編4、5節  <b>声は聞えなくても、その響きは全地に</b></p> <p>耳に聞えないけれど、この世界には「神様はすばらしい！」という声が鳴り響いている。美しい花や大きな海や輝く太陽や、神様が造った全部のものが「神様はすばらしい！」と叫んでいる。私も声を合わせよう。「神様はすばらしい！」。</p> 

# いのちのばん

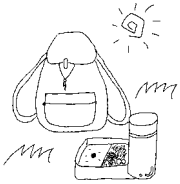


<p>10月20日（月） 詩編22編2節</p> <p><b>なぜわたしをお見捨てになるのか</b></p> <p>とてもつらいとき「なぜわたしをお見捨てになるのか」と神様に叫んで救ってもらった人がいた。イエス様も十字架で同じ言葉を叫んで神様に助けられ、新しい命に復活された。どんなにつらい時でも、神様に向かって叫べば、神様は助けてくださる。神様に叫ぼう。心から祈ろう。</p>	<p>10月23日（木） 詩編28編6節</p> <p><b>わたしの声を聞いてくださいました</b></p> <p>悲しい時、心配な時、お祈りをしたのに神様は黙ったまま、答えてくださらない。神様を信じる人にはだれでもそういうことがある。でも神様は必ず答えてくださる。「神様はわたしの声を聞いておられた」と神様を賛美する時が来る。神様が黙っておられる時も希望を持とう。お祈りを続けよう。</p>
<p>10月21日（火） 詩編23編1節</p> <p><b>主は羊飼い</b></p> <p>羊をいちばん良い場所に連れて行く人。それが羊飼いだ。神様は私の羊飼い。私を導いていちばん良い場所に連れて行ってくださる。生きている間、私が導かれた場所で神様の恵みがなくなることはない。最後には、神様は私を喜びあふれる天国に連れて行ってくださる。本当に安心。</p>	<p>10月24日（金） 詩編30編6節</p> <p><b>喜びの歌と共に朝を迎えさせて～</b></p> <p>暗い夜のあとには必ず明るい朝が来る。私が過ごす暗くてつらいときもそれに似ている。いつまでも暗くてつらいままではない。神様が必ずそのときを終わらせて、明るい喜びのときを与えてくださる。神様は私を悲しみの中に見捨てない方だから。私が喜びの事を願ってくださる方。</p>
<p>10月22日（水） 詩編27編8節</p> <p><b>わたしは御顔を尋ね求めます</b></p> <p>つらいことがあって心細いとき、だれの顔を見たい？ 意地悪な人の顔を気にしたら、もっと心細くなる。友達の顔を見たら少し元気になるけれど、心細さはなくなる。神様の顔を見ることができたら、きっと勇気がわいてくる。神様の顔を尋ね求めよう。お祈りをしよう。教会に行こう。</p>	<p>10月25日（土） 詩編32編5節</p> <p><b>罪を～示し、咎を隠しませんでした</b></p> <p>人に「ごめんなさい」と言えないといやな気持ちが続く。「ごめんなさい」は大切だ。神様に向かっての「ごめんなさい」はもっと大切だ。素直な心で「ごめんなさい」と言えば、神様は赦してください。すると深い幸せが心に広がる。</p>






# いのちのばん

<p>10月27日（月） 詩編34編19節  <b>主は打ち砕かれた心に近くいまし〜</b>            神様はいばる人を嫌われる。ほんとうは、悪いことをたくさんした私だから、いばることはできない。苦しいときに神様の助けが必要な弱い私だから、いばることはできない。いばることをやめて心を低くし、神様にお詫びし神様に頼ろう。そのとき、神様は私の近くにきてくださる。</p>	<p>10月30日（木） 詩編42編2節  <b>涸れた谷に鹿が水を求めるように〜</b>            いつまでも水を飲まないと、のどがかわいてつらくなる。神様を礼拝することは水を飲むことに似ている。神様を礼拝しない時が続くと心がかわいてしまう。優しい心や喜びや勇気がしぼんでつらくなる。神様を礼拝する時を大切にしよう。水を求める鹿のように、神様を礼拝することを求めよう。</p>
<p>10月28日（火） 詩編37編5節  <b>あなたの道を主にまかせよ</b>            神様に従わないでするいことをした方がうまく行きそうに思える時、それは危ない道の入口だ。神様がおられる。ずるいことをして本当の幸せを手に行けるはずがない。神様に従おう。そして神様におまかせしよう。神様はきっと私を幸せにしてください。倒れても必ず起き上がらせてくださる。</p>	<p>10月31日（金） 詩編46編2節  <b>苦難のとき、必ずそこにいまして〜</b>            苦しいことや悲しいことがある時、心がいっぱいになって神様を忘れてしまうことがある。でも、苦しいときこそ神様は私といっしょにいてくださる。苦しいときにお祈りをしたら、そのことがよく分かる。神様がいつもより近くにいてくださることが分かる。神様が助けてくださると分かる。</p>
<p>10月29日（水） 詩編40編7節  <b>わたしの耳を開いてくださいました</b>            神様の心が分かるのは、神様の声が聞えたのと同じだ。私を愛してください。神様の心が分かる。優しい心を持つようにと私に命じておられる神様の心が分かる。神様が私の耳を開いてくださったからだ。神様の声に従うとき、神様は私を特別に喜んでくださる。神様の声に従おう。</p>	<p>11月1日（土） 詩編50編15節  <b>苦難の日、わたしはお前を救おう</b>            神様は誰からも助けられる必要がない。私が神様に何かをしてあげることとはできない。私にできるのは神様に感謝すること、そして神様に頼ること。それだけでよい。神様はそれを喜んで、苦しいときには救ってください。</p> 


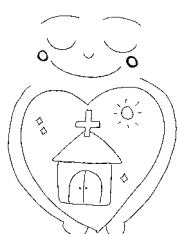

# いのちのばん

<p>11月3日（月） 詩編51編19節</p> <p>しかし、神の求るいけにえは 打ち砕かれた霊</p> <p>詩編51編は罪を犯した者の祈りです。神様、わたしを憐れんでください。罪から清めてください。わたしは罪を犯しました。打ち砕かれて罪を悔いる心を、神様は受け入れてくださいます。イエスさまの救いのゆえにわたしの口は主を賛美します。</p>	<p>11月6日（木） 詩編57編6節</p> <p>彼らの歯は槍のように、矢のように 舌は剣のように、鋭いのです</p> <p>神様、わたしはあなたの翼の下に避難します。わたしの悪口を言う人たちから守ってください。あなたは天の高いところにおいて、全世界に栄光を輝かせてください。あなたが守ってくださるので、わたしは心を強められて、あなたに賛美の歌をうたいます。</p>
<p>11月4日（火） 詩編53編2節</p> <p>神を知らぬ者は心に言う 「神などない」と</p> <p>学校の友だちや先生は「神などない」と言ったり、神社にお参りしたりするかもしれませんが。私たちは、真の神様を信じているために、いやな思いをさせられることがあります。でも神様は私たちに救いを与えてくださり、喜び躍らせてくださいます。</p>	<p>11月7日（金） 詩編60編14節</p> <p>神と共に我らは力を振るいます</p> <p>神様、あなたは私たちにつらい思いをさせ、あなたから離れた私たちがあなたに立ち帰るようにされました。どうぞ私たちをお救いください。人間の与える救いは虚しいものです。私たちと共に困難に立ち向かってください。</p> 
<p>11月5日（水） 詩編56編10節</p> <p>神を呼べば、敵は必ず退き</p> <p>神様、わたしを憐れんでください。人に踏みにじられています。戦いを挑む者がいます。あなたはわたしが嘆くのを知っているはずです。わたしはあなたに頼ります。人に何ができるでしょう。あなたがわたしの味方ですから。</p>  	<p>11月8日（土） 詩編62編6節</p> <p>わたしの魂よ、沈黙して、 ただ神に向かえ</p> <p>悪口を言われたり暴力を受けたり、人から苦しめられることがあります。しかし私たちの救いは神様にかかっています。神様に比べれば、人は息よりも軽いものです。力は神様のものです。この方が私たちを愛し、いつくしんでくださいます。</p>

# いのちのばん



<p>11月10日（月） 詩編63編2節 わたしの魂はあなたを渴き求めます</p> <p>神様、あなたは私の神です。私に悪 を行う者、毒のある言葉の矢から救 い出してください。渴き きた大地が雨を求める ように、あなたを渴き求 めます。必ず助けてくだ さるあなたの翼の陰で私 は喜び歌います。</p> 	<p>11月13日（木） 詩編69編22節 渴くわたしに酢を飲ませようと</p> <p>神様、私を救ってください。叫び続 けて疲れ、のどがかわきました。理由も なく私を憎む者がいます。私は自分の せいでないことまで責任を負わされ ます。主よ、御心にな うとき、豊かな慈しみの ゆえに、私に答えて確か な救いをお与えください。</p> 
<p>11月11日（火） 詩編66編13節 満願の献げ物をささげます</p> <p>神様、あなたは私たちを試されまし た。銀を火で精錬するように、私たち が苦しみを経験することを許されま した。しかし、あなたは私の祈りを聞 き入れ、慈しんでくださいました。苦 しんでいるときに祈りの中で誓った とおり、願いを聞かれたあなたに感謝 の献げ物をささげます。</p>	<p>11月14日（金） 詩編71編6節 母の胎にあるときから あなたに依りすがって来ました</p> <p>主よ、あなたは私の希望です。幼い ときからあなたに依り頼んで来まし た。あなたは私が逃げこめるところで す。年老いて白髪になっても、どうか 捨て去らないでください。あなたの恵 みの御業、力強い御業を次の世代に語 り伝えさせてください。</p>
<p>11月12日（水） 詩編67編3節 御救いをすべての民が知るために</p> <p>神様、私たちを憐れみ、祝福してく ださい。あなたの顔の輝きを私たちに 向けてください。あなた による救いをすべての人 が知るようにしてくださ い。それによって皆が喜 び歌い、あなたに感謝を ささげますように。</p> 	<p>11月15日（土） 詩編73編28節 神に近くあることを幸いとす</p> <p>神様を信じない人のほうが苦勞が 少なく、お金儲けも上手で、病気にも ならないように見えます。神様に近づ き、神様のことをもっとよく知ったと き、神様がご計画にしたがって私を導 き、栄光に入れてくださることがわか りました。神様とは、永遠に一緒にい ることが出来ます。</p>

# いのちのばん

<p>11月17日（月） 詩編77編3節</p> <p><b>苦難の襲うとき、 わたしは主を求めます</b></p> <p>神様に向かって私は助けを求めて 叫びます。神様は同情することをやめ られたのでしょうか？ 私はずっと昔 に神様がなされた奇跡を思い続けます。 モーセを遣わして、大水の中、御 自分の民を導かれました。あなたより 優れた神はいません。</p>	<p>11月20日（木） 詩編84編11節</p> <p><b>あなたの庭で過ごす一日は 千日にまさる恵みです</b></p> <p>神様、あなたのいますところにいる ことができるなら、ましてあなたを賛 美することができるなら、何と幸いで しょう。あなたと共にある道 を歩む者にあなたは良いも のを与えられます。あなたを 頼りにする人は幸いです。</p> 
<p>11月18日（火） 詩編78編19節</p> <p><b>荒れ野で食卓を整えることが 神にできるのだろうか</b></p> <p>イスラエルの人々が荒れ野を旅し たとき、食べ物を与えることが神様に できるのかとつぶやきました。私たち も自分たちの常識で判断して神様 の力を信じないことがあります。しか し、神様は荒れ野でもマナを降らせて 食べ物を与えられました。</p>	<p>11月21日（金） 詩編85編11節</p> <p><b>正義と平和は口づけし</b></p> <p>主は平和を宣言されます。私たち は、学校のこと、友だちのことなどで、 不安になったり、つらい経験をしたり します。しかし、神様の愛を信じて生 きる人の近くに、神様の救いがありま す。神様の正義が実行されます。主は 必ず良いものを私たちに与えてくだ さいます。</p>
<p>11月19日（水） 詩編81編7節</p> <p><b>わたしが、彼の肩の重荷を除き</b></p> <p>神様に向かって喜び歌いましょう。 神様は私たちが抱えている問題を取 り去ってくださり、苦しんで呼び求め る私たちを救ってく ださい。神様の 道を歩む者を、主は 最良のもので養って くださいます。</p> 	<p>11月22日（土） 詩編88編15節</p> <p><b>なぜ御顔をわたしに 隠しておられるのですか</b></p> <p>主よ、あなたに叫びます。朝ごとに 祈ります。あなたの怒りが私を圧倒し ています。愛する者をあなたは私から 遠ざけてしまわれまし た。耳を傾けてくださ い。あなたは私を救っ てくださる神です。</p> 

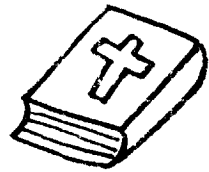


# いのちのばん



<p>11月24日（月） 詩編89編10節</p> <p>波が<sup>なみ たか</sup>高く<sup>お</sup>起これば、 それを<sup>しず</sup>静められます</p> <p>神様は、海を支配し、嵐で荒れる波を静める力をお持ちです。主は北から南まですべてのものを造られました。その神様が、私たちの力の輝き、私たちの盾、私たちの王です。</p> 	<p>11月27日（木） 詩編95編1節</p> <p>主に<sup>しゅ む</sup>向かって<sup>よろこ</sup>喜び歌おう</p> <p>私<sup>わたし</sup>たちを救<sup>すく</sup>われる神<sup>かみさま</sup>様に喜<sup>よろこ</sup>びの叫<sup>さけ</sup>びをあげよう。音楽に合<sup>あ</sup>わせて、喜<sup>よろこ</sup>びの歌<sup>うた</sup>を歌<sup>うた</sup>おう。太平洋<sup>たいへいよう</sup>の底<sup>そこ</sup>からヒマラヤ<sup>さんみやく</sup>山脈<sup>いただき</sup>の頂<sup>しゅ</sup>まで、すべてが主<sup>しゅ</sup>のものです。それを造<sup>つく</sup>られたのは神<sup>かみさま</sup>ご自<sup>じ</sup>身<sup>しん</sup>です。わたしたちは神<sup>かみさま</sup>の民<sup>たみ</sup>、主<sup>しゅ</sup>に牧<sup>ぼく</sup>される羊<sup>ひつじ</sup>の群<sup>む</sup>れ。共<sup>とも</sup>に神<sup>かみさま</sup>を礼<sup>れい</sup>拝<sup>はい</sup>し、その言葉<sup>ことば</sup>に聞<sup>き</sup>き従<sup>したが</sup>いましょう。</p>
<p>11月25日（火） 詩編91編4節</p> <p>翼<sup>つばさ</sup>の下<sup>した</sup>にかばってくださる</p> <p>神様はあなたを、仕掛<sup>し</sup>けられた<sup>し</sup>畏<sup>おそ</sup>から、だます言葉<sup>ことば</sup>から、救<sup>すく</sup>い出<sup>だ</sup>してくださいます。飛<sup>と</sup>んでくる矢<sup>や</sup>も暗黒<sup>あんこく</sup>を行<sup>い</sup>く疫<sup>えき</sup>病<sup>びょう</sup>も恐<sup>おそ</sup>れることはありませ<sup>しゅ</sup>ん。主<sup>しゅ</sup>は御使<sup>みつか</sup>いに命<sup>めい</sup>じて、あなた<sup>あなた</sup>の道<sup>みち</sup>のどこにおい<sup>ま</sup>ても守<sup>まも</sup>らせてくださいます。</p> 	<p>11月28日（金） 詩編97編1節</p> <p>主<sup>しゅ</sup>こそ王<sup>おう</sup>。全<sup>ぜん</sup>地<sup>ち</sup>よ、喜<sup>よろこ</sup>び踊<sup>おど</sup>れ</p> <p>神<sup>かみさま</sup>様は私<sup>わたし</sup>たち<sup>わたし</sup>の王<sup>おう</sup>さまです。私<sup>わたし</sup>たち<sup>わたし</sup>だけでなく、全<sup>ぜん</sup>世界<sup>せかい</sup>の王<sup>おう</sup>さまです。だから聖<sup>せい</sup>書<sup>しょ</sup>は、全<sup>ぜん</sup>世界<sup>せかい</sup>が神<sup>かみさま</sup>様を<sup>かみさま</sup>賛<sup>さん</sup>美<sup>び</sup>し喜<sup>よろこ</sup>び踊<sup>おど</sup>るよう<sup>よう</sup>に呼<sup>よ</sup>びか<sup>か</sup>けま<sup>ま</sup>す。偶<sup>おど</sup>像<sup>ぞう</sup>を<sup>おど</sup>拜<sup>はい</sup>む者<sup>もの</sup>は、それ<sup>それ</sup>が全<sup>ぜん</sup>く力<sup>ちから</sup>のな<sup>な</sup>いもの<sup>もの</sup>である<sup>である</sup>こと<sup>こと</sup>を知<sup>し</sup>ること<sup>こと</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>りま<sup>ま</sup>す。神<sup>かみさま</sup>様<sup>様</sup>に<sup>に</sup>従<sup>したが</sup>う<sup>う</sup>人<sup>ひと</sup>に<sup>に</sup>主<sup>しゅ</sup>は<sup>しゅ</sup>光<sup>ひかり</sup>と<sup>と</sup>喜<sup>よろこ</sup>び<sup>び</sup>を<sup>を</sup>与<sup>あた</sup>えて<sup>て</sup>く<sup>く</sup>だ<sup>だ</sup>さ<sup>さ</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す。</p>
<p>11月26日（水） 詩編94編7節</p> <p>彼<sup>かれ</sup>らは言<sup>い</sup>います。「主<sup>しゅ</sup>は見<sup>み</sup>てい<sup>い</sup>ない」</p> <p>神<sup>かみさま</sup>様は全<sup>ぜん</sup>地<sup>ち</sup>を正<sup>ただ</sup>しく裁<sup>さば</sup>く方<sup>かた</sup>です。自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の力<sup>ちから</sup>を誇<sup>ほこ</sup>る者<sup>もの</sup>、神<sup>かみさま</sup>様<sup>様</sup>に逆<sup>さか</sup>らう者<sup>もの</sup>を裁<sup>さば</sup>かれます。彼<sup>かれ</sup>らは「主<sup>しゅ</sup>は見<sup>み</sup>てい<sup>い</sup>ない」と侮<sup>あな</sup>りますが、自<sup>じ</sup>を造<sup>つく</sup>った方<sup>かた</sup>が見<sup>み</sup>えな<sup>な</sup>いとでも言<sup>い</sup>うのでし<sup>し</sup>ょうか？ 私<sup>わたし</sup>たち<sup>わたし</sup>が理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>もな<sup>な</sup>く苦<sup>くる</sup>しめ<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>れて<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>とき<sup>き</sup>も、主<sup>しゅ</sup>は知<sup>し</sup>っ<sup>つ</sup>てお<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>れて、や<sup>や</sup>が<sup>が</sup>て正<sup>ただ</sup>しく裁<sup>さば</sup>いて<sup>て</sup>く<sup>く</sup>だ<sup>だ</sup>さ<sup>さ</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す。</p>	<p>11月29日（土） 詩編100編1節</p> <p>全<sup>ぜん</sup>地<sup>ち</sup>よ、主<sup>しゅ</sup>に向<sup>む</sup>かって 喜<sup>よろこ</sup>びの叫<sup>さけ</sup>びをあげよ</p> <p>神<sup>かみさま</sup>様<sup>様</sup>を喜<sup>よろこ</sup>び祝<sup>いわ</sup>おう。主<sup>しゅ</sup>こそ、私<sup>わたし</sup>たち<sup>わたし</sup>の神<sup>かみさま</sup>様<sup>様</sup>。私<sup>わたし</sup>たち<sup>わたし</sup>は主<sup>しゅ</sup>のもの<sup>もの</sup>です。神<sup>かみさま</sup>様<sup>様</sup>へ<sup>へ</sup>の感<sup>かん</sup>謝<sup>しゃ</sup>の歌<sup>うた</sup>をう<sup>う</sup>た<sup>た</sup>って、神<sup>かみさま</sup>様<sup>様</sup>を礼<sup>れい</sup>拜<sup>はい</sup>する<sup>する</sup>場<sup>ば</sup>所<sup>しょ</sup>へ向<sup>む</sup>か<sup>か</sup>お<sup>お</sup>う。神<sup>かみさま</sup>様<sup>様</sup>を<sup>さん</sup>美<sup>び</sup>しな<sup>な</sup>が<sup>が</sup>ら、礼<sup>れい</sup>拜<sup>はい</sup>の場<sup>ば</sup>に入<sup>はい</sup>ら<sup>ら</sup>う。主<sup>しゅ</sup>は恵<sup>めぐ</sup>み深<sup>ふか</sup>く、永<sup>えい</sup>遠<sup>えん</sup>に私<sup>わたし</sup>たち<sup>わたし</sup>を愛<sup>あい</sup>して<sup>て</sup>く<sup>く</sup>だ<sup>だ</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>方<sup>かた</sup>です。</p>

# いのちのばん

<p>12月1日（月） 詩編102編19節  <b>主を賛美するために民は創造された</b>          主の日の礼拝では必ず賛美歌を歌います。顔を神様に向け、大きな声で、喜びと感謝をもって歌うとき、神様は心から喜んでくださいます。私たちは、主を賛美するために創造されたのです。ですから、賛美とは、日曜日だけではなく毎日、そして永遠まで続けられるものです。</p>	<p>12月4日（木） 詩編105編45節  <b>主の教えに従わなければならない</b>          天のお父様は、あなたに素晴らしいことをしてくださいました。あなたのご両親にも数々の素晴らしいことをしてくださいました。あなたの通う教会にも数え切れないほど素晴らしいことをしてくださいました。これからもして下さるでしょう。それゆえ、主の教えに従うべきです。</p>
<p>12月2日（火） 詩編103編2節  <b>御計らいを何一つ忘れてはならない</b>          学校に行く前に「忘れ物ない？」と          言われていませんか？「言ってくれて助かったあ！」と思ったことのあるお友だちも少なくないはず。一番してはならない忘れ物は何でしょう。神様とその恵みや愛を忘れることです。今日のみことばを、毎日、自分に言い聞かせ、主に感謝しましょう。</p>	<p>12月5日（金） 詩編106編45節  <b>彼らに対する契約を思い起こし</b>          神様が私たちをこんなに愛し祝福しておられるのは、神様が一方的に私たちを愛し、救うと約束（契約）して下さったからです。神様のお約束にうそは一つもなく、真実に守られます。</p>
<p>12月3日（水） 詩編104編31節  <b>主がご自分の業を喜び祝われるように</b>          神様がお作りになられた天と地、すべての生き物はもともとみな美しいものでした。汚してしまったのは人間の罪です。けれども神様が喜び祝われるなら、美しさは続きます。神様、地球環境をお守りください。</p>	<p>12月6日（土） 詩編107編6節  <b>苦難の中から主に助けを求めて叫ぶ</b>          「困ったときの神頼み」という悪い意味の言葉があります。いつもは神様のことを無視しているくせに、自分が困ったときだけ、苦しいときだけ、自分勝手に「神様助けて！」と叫ぶことです。けれども、神様は信じている私たちが「助けて」と叫ぶ祈りを聞き逃すことのないお方です。</p>



# いのちのばん

<p>12月8日（月） 詩編109編28節  <b>あなたは祝福してください</b></p> <p>友達にからかわれたり、意地悪をされたりするとき、とっても悲しい。苦しい。けれども、神様はちゃんと見ておられる。あなたを悲しませ苦しませる悪口は、神様によって祝福の言葉に変えられる。神様に逃げ込む人は、強い人になれる。昨日いただいた祝福の言葉を心に唱えよう！</p>	<p>12月11日（木） 詩編113編3節  <b>日の昇るところから日の沈む所まで</b></p> <p>私たちは毎日、「主の祈り」で「御名をあがめさせたまえ」とお祈りしています。このお祈りは、丸い地球を東から西まで、祈りの鎖でぐるぐる包んでいます。あなたの町では、あなたと教会が祈っています。</p> 
<p>12月9日（火） 詩編110編1節  <b>わたしの右の座に着くがよい</b></p> <p>今、イエスさまは天のお父さまの右におられます。イエスさまを死人の中から復活させ、ご自身の右に座らせて、イエスさまこそ王の王とされました。またイエスさまをわたしたちの祭司としてくださいました。イエスさまは、王さまとしてわたしたちを守り、執り成し祈っていてくださいます。</p>	<p>12月12日（金） 詩編115編3節  <b>わたしたちの神は天にいまし</b></p> <p>教会に来たことのないお友だちは、真の神様を知りません。「口があっても話せず、目があっても見えない」偶像のカミガミを信じることは、愚かなことです。私たちの神様は天におられるので目に見えません。しかし、天から私たちのすべてを見つめ、守り、祝福してください。</p>
<p>12月10日（水） 詩編111編4節  <b>驚くべき御業を記念するよう定め</b></p> <p>天のお父さま、イエスさまを人間として地上に送ってくださり、十字架につけ、死人の中から復活させて、私の罪をお赦しくださった、その驚くべき御業をいつも心に覚えさせてください。それこそ、人間として一番大切な知恵となるからです。</p> 	<p>12月13日（土） 詩編116編2節  <b>生涯、わたしは主を呼ぼう</b></p> <p>詩人は歌います。「わたしは主を愛する。主は、死んでしまうかもしれない病気で苦しみ、嘆いて祈る声を聞いてくださった。」ですから、死ぬまで主イエスのお名前をお呼びするのです。そして自分に言います。「わたしの魂よ、安心しなさい。」主を信じた人ほど幸せな人はいません。</p>

# いのちのパン

12月15日（月） 詩編118編22節  
**家を建てる者の退けた石が隅の親石**  
 クリスマスの日、わたしたちに救い主が与えられました。しかし、人々は、イエスさまを殺してしまいました。ところが、神様はそれによって、わたしたちの救いをなしとげられました。神様の方法やご計画、神様のときは、わたしたちが願ったり、予想したりするものとは違うことが多いのです。

12月18日（木） 詩編121編2節  
**わたしの助けは来る～主のもとから**  
 エルサレムの神殿をめざし、はるばる旅をする人の詩です。山々を見上げて道のりの遠さや険しさを思います。そのとき祈りの声が聞こえてきます。「主があなたを助けて、見守ってくださいるように……。」祭司のお祈りです。たった今も大祭司イエスさまは、あなたのために祈っておられます。

12月16日（火） 詩編119編103節  
**仰せ～わたしの口に密よりも甘い**  
 「いのパン」で毎日お祈りするとき、神様が私たちの魂に静かに御言葉を語りかけてくださることに気づきます。食パンの上ののせるはちみつやジャムも甘～いですが、魂には御言葉が一番甘く、栄養があります。



12月19日（金） 詩編122編8節  
**あなたのうちに平和があるように**  
 ついに神殿に到着できた人たちは、うれしさにふるえます。礼拝の喜びは神様の平和に包まれることです。それは、神様との間にわだかまりがなく、神様の愛とやさしさで包まれることです。世界の平和は全ての人々が礼拝することによって実現します。世界の平和を祈りましょう。

12月17日（水） 詩編119編130節  
**御言葉が開かれると光が射出で**  
 詩編第119編は、神様の生きた御言葉のすばらしさを繰り返し力の限り賛美します。そのように歌うことができるのは御言葉の命と力を体験しているからです。「理解できるように」と祈って御言葉を聴きましょう。御言葉の方から開かれて、天国の光がパツと私たちの心に射し込むまで。


12月20日（土） 詩編124編8節  
**わたしたちの助け～主の御名にある**  
 あなたも苦しい目にあったことがあるでしょう。しかし、ダビデ王さまのように殺されるような目にあったことはないでしょう。ダビデ王は神様は信じる人の味方となつて必ず助けてくださると確信しました。イエスさまの御名を賛美しよう！



# いのちのばん

12月22日（月） 詩編125編2節  
**主はご自分の民を囲んでいてくださる**

エルサレム神殿で礼拝をささげた人たちは心から感動し心は平和に満ちています。主なる神様が上からも下からも横からも囲んで守ってくださると分かったからです。私たちも、昨日、イエスさまの愛に取り囲まれました。そして、今日も！




12月25日（木） 詩編132編11節  
**あなたの～王座を継ぐ者を定める**

神様は、ダビデの子孫からイスラエルの王を起こすと誓われました。ダビデがお母さんの胸に抱かれて眠っている赤ちゃんのように神を信頼し、謙虚にしていたからです。そして、クリスマスの日、ダビデの子孫として、イスラエルの真の王さま、イエスさまがお生まれくださいました！


12月23日（火） 詩編127編1節  
**主御自身が建ててくださるので**

エルサレムの町を守る人は夜通し働きます。クリスマスの夜、夜通し働いていたのは羊飼いたちでした。わたしたちが夜、つまり暗い悩みのトンネルを進むときも、神様は守っていてくださるのです。信じる人は幸いです。



12月26日（金） 詩編133編1節  
**兄弟が共に座っている～恵み、喜び**

ここでの兄弟とは神様を信じている仲間たちのことです。日曜学校のお友達も教会の人たちもイエスさまによって集められました。血のつながりはなくてもイエスさまによって兄弟姉妹とされているのです。なんといふ恵みでしょう。




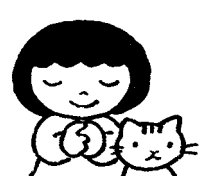
12月24日（水） 詩編130編6節  
**見張りが朝を待つにもまして**

詩人は神様の前に犯した自分の罪に悩み苦しみ、悔い改めの祈りをささげます。町を守る見張りが朝日が昇るのを今か今かと待ちこがれるように、自分の罪が赦されることを待っています。そして、ついにクリスマス！イエスさまによって罪の赦しが確定しました。世界に朝日が昇りました。

12月27日（土） 詩編139編1節  
**あなたは～わたしを究め～知って**

真の神様はあなたのことを何から何まで知っておられます。神様から離れたり隠れたりすることは、まったくできません。困っちゃう？ こわい？ 嬉しいよね！ だって、あなたのことを神様は心から愛してくださっているのですから。だから、心を開いて何でもお祈りしよう。

# いのちのばん

<p>12月29日（月） 詩編142編3節 御前にわたしの悩みを注ぎ出し</p> <p>教会に来たことのないお友達も、「神様助けて！」と心の中で叫びます。けれども、本当にきかれているのかわからないので、不安が残ります。私たちの祈りは独り言ではありません。手ごたえがあります。神様はあなたの悩みを誰よりも真剣に聴いて、導いてくださいます。</p>	<p>1月1日（木） 詩編149編、150編 主を賛美せよ ハレルヤ</p> <p>元旦の朝、お祈りで始めることができましたか？ 新しい一年、嬉しいときはもちろん、悲しいときも苦しいときも、どんなことがあっても、自分の心にこう命じ、言い聞かせよう！ 「主を賛美せよ！ ハレルヤ！」</p> 
<p>12月30日（火） 詩編144編3節 人間とは何ものなのでしょう</p> <p>神様はことばをお持ちになられます。神様は人間に、ことばを聴いたり、しゃべったりする力を与えてくださいました。もともと、ことばは、人とお話すためよりも神様とお話すための道具です。神様は今あなたに聖書を通して親しく呼びかけ、語りかけていてくださいます。</p>	<p>1月2日（金） 詩編147編11節 主が望まれるのは主を畏れる人</p> <p>学校では、勉強ができる、スポーツができる、何ができる、そのようなことが評価されます。しかし、主があなたに望まれることは、どんなことができるかということではありません。イエスさまを心から信じ、神様の御言葉に心から従い、神様に頼って生きることです。だまされないでね。</p>
<p>12月31日（水） 詩編145編13節 あなたの主権はとこしえの主権</p> <p>天のお父さま、今日まで私を、そして世界中の人々をお守りくださったことを心から感謝します。神様のお力がなければ世界は滅んでしまいます。世界中の人たちが神様の主権をたたえますように！</p> 	<p>1月3日（土） 詩編147編15節 御言葉は速やかに走る</p> <p>神様は御言葉によって世界を造られました。御言葉によって世界を救い、完成されます。その力ある御言葉は、今日もあなたに届けられました。神様は、御言葉を聞き取った人を神様の救いの道具とされます。神様のお役に立つため、明日、みんなで御言葉を聴きに教会へ行こう！</p>

# 2009年1～3月カリキュラム (第32号)

— 『子どもカテキズム』に基づく二年サイクル第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単 元 の 目 標			
1月4日 新年	恵みのみ	問28	ウ大58、ハイデ60, 61
		マタイ9:1-8	マタイ9:2 後半
神の救いはただ恵みとして与えられる。救いを与えるお方の前にひれ伏そう			
11日	選びと有効召命	問29	ウ小29-32、ウ大59、ハイデ21
		マタイ9:9-13	マタイ9:13 後半
主なる神は罪人を愛して選び出しておられる。神の選びの恵みを喜ぼう			
18日	キリストとの結合	問30	ウ小29, 30、ハイデ53, 65
		ヨハネ15:1-10	ヨハネ15:5 前半
聖霊によりキリストと結びあわせられている。キリストとの絆のうちに歩もう			
25日	罪の赦しと義認	問31	ウ小33、ハイデ56
		ヨハネ8:1-11	ヨハネ8:11 後半
神の御前に打ち砕かれ、罪を赦されて生きる幸いを知ろう			
2月1日	神の子とされる幸い	問31	ウ小34、ハイデ59
		ガラテヤ4:1-7	ガラテヤ4:6
罪赦されて、神の子とされている。聖霊を注がれて、「アッバ、父よ」と呼ぼう			
8日 (信教の自由)	聖化の恵み	問32, 33	ウ小35, 36
		ガラテヤ2:19-21	ヨハネ1:7
キリストがわたしたちのうちに生きておられ、聖とされていることを喜ぼう			
15日 レント	愛の歩み	問32, 33	ウ小35, 36、ハイデ60, 61
		コロサイ3:12-17	ヨハネ2:6
神の完全な愛で愛されて、わたしたちも喜びをもって愛に生きていこう			
22日 レント	主イエスと共に歩む	問34	ウ小30、ウ大54, 82, 83
		マタイ28:16-20	詩編119:9
信仰者の歩みは孤独ではない。主イエスと共に歩み、神の民と共に歩もう			
3月1日 レント	聖徒の交わり	問34	ウ小88、ウ大63, 82, 83
		コリント12:12-26	詩編89:16
信仰者は神の民の交わりに生かされる。聖徒の交わりに生きる信仰を養おう			
8日 レント	再臨の約束	問35	ウ小28、ウ大56、ハイデ52
		テサロニケ5:1-5	テサロニケ5:4 後半
主イエス・キリストは再び来られる。そのことを知る幸いを感謝しよう			
15日 レント	再臨に備える	問35	ウ小36、ウ大79-83、ハイデ52
		テサロニケ5:6-11	テサロニケ5:8
主の再臨を待ち望み、身を慎んで、光の子として歩もう			
22日 レント	死のときの祝福	問36	ウ小37、ハイデ1
		ルカ23:39-43	ルカ23:43
主イエスに結ばれて、恐れから解放されて死ぬことの幸いを知ろう			
29日 レント	復活のときの祝福	問36	ウ小38、ハイデ57, 58
		黙示録7:9-17	コリント15:55
主イエスに完全に一つにされ、涙をぬぐわれる復活の幸いを待ち望もう			

## 2008年度 年間カリキュラム

二年サイクル第1年（子どもカテキズム問1～36）

	月 日	教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム
2008年 第29号	4月6日	進級式	第一部 人生の目的 人生の目的……礼拝	問1
	4月13日		神の栄光をあらわす	問1
	4月20日		救いの喜び	問2
	4月27日		神の子の喜び	問2
	5月4日		霊と真理による礼拝	問3
	5月11日	聖霊降臨祭 母の日	聖霊降臨祭・教会の誕生	問3
	5月18日		神と人を愛する（一）	問4
	5月25日		神と人を愛する（二）	問4
	6月1日		神の御言葉	問5
	6月8日	花の日	愛の手紙	問6
	6月15日	父の日	第二部 信仰の道 霊なる神	問7
	6月22日		唯一の神	問8
	6月29日		生ける神	問9
	30号	7月6日		三位一体の神（一）
7月13日			三位一体の神（二）	問10
7月20日			主権者なる神	問11
7月27日			天地創造（一）	問12
8月3日			天地創造（二）	問12
8月10日		(平和)	平和を創り出す	
8月17日			摂理の神（一）	問13
8月24日			摂理の神（二）	問14
8月31日			人間の創造	問15
9月7日			人間の罪	問16
9月14日		(敬老の日)	罪と墮落	問17
9月21日			罪の悲惨	問18
9月28日			わたしも罪人	問19



年・号	月 日	教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム
2008年 第31号	10月5日		神の怒り	問20
	10月12日		贖い主の必要性	問21
	10月19日		二性一人格（一）	問22
	10月26日	宗教改革記念日	二性一人格（二）	問22
	11月2日		主は救い、イエス	問23
	11月9日		神の御子、キリスト	問23
	11月16日		謙卑のキリスト	問24
	11月23日		高挙のキリスト	問24
	11月30日	アドベント	預言者イエス	問25
	12月7日	アドベント	大祭司イエス	問26
	12月14日	アドベント	真の王イエス	問27
	12月21日	降誕祭	御子イエスの誕生	—
	12月28日	年末	一年の感謝	—
2009年 第32号	1月4日	新年	恵みのみ	問28
	1月11日		選びと有効召命	問29
	1月18日		キリストとの結合	問30
	1月25日		罪の赦しと義認	問31
	2月1日		神の子とされる幸い	問31
	2月8日	(信教の自由)	聖化の恵み	問32, 33
	2月15日	レント	愛の歩み	問32, 33
	2月22日	レント	主イエスと共に歩む	問34
	3月1日	レント	聖徒の交わり	問34
	3月8日	レント	再臨の約束	問35
	3月15日	レント	再臨に備える	問35
	3月22日	レント	死のときの祝福	問36
	3月29日	レント	復活のときの祝福	問36

### 〈執筆者よりひとこと〉

- お話を作られるときのヒントくらいのつもりで書きました。より良いお話に育ててください（石川千鶴子）。
- 教師会メンバーで分担し一生懸命書き上げましたが、やはりどのお話を見ても、とても小学科下級とは言えないほどに難しくなってしまう反省至極です。どうかお話になる先生方が内容を汲み取ってくださり、子どもたちには優しく伝えてくださることを願っています（神港教会聖書学校教師会）。
- ワークシートのご感想、ご提案などを教えてくだされば幸いです。次回に生かしたいと思います（相馬直子）。
- 一人でも多くの中学生たちが、若い時に主を信じていけることができますようにお祈りしています（立石彰）。
- 地域の子どもたちに、教会が貢献すべきこと、できることを、教師会だけではなく会員皆で考え、皆の奉仕を集めて、担って行きたいと願います（相馬伸郎）。
- 読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、御言葉の秋でもありますね。ゆっくりと御言葉に親しむときを楽しみましょう（望月信）。

### 〈あとがき〉

- 今号の「諸教派の教会教育事情」は日本同盟基督教団のキャンプ宣教について、辻浦信生牧師より文章をお寄せいただきました。わたしたち日本キリスト改革派教会でも、全国高校生キャンプが模索されるなど、キャンプ宣教への取り組みが始められています。同盟基督教団の取り組みから学んで参りましょう。
- イラストに岡野美佳姉の協力をいただくことになりました。新海敬造兄にも引き続き協力いただいています。ありがとうございます。
- 滋賀摂理教会の信濃郁恵姉は日曜学校の生徒です。子どもたちのイラストをぜひお送りください。掲載いたします。お待ちしております。
- 「いのちのパン」の掲載は、今号で休止させていただきます。2009年から、日本キリスト改革派教会による教育機関誌『リジョイス』（聖書日課）が発行されることになっており（2009年1月号が2008年11月に発行される予定）、その『リジョイス』誌上に「いのちのパン」が掲載される予定です。おとなも子どもも、御言葉に親しむ生活を整えて参りましょう。
- 副読本『主は羊飼ひ』（木下裕也著）を再発行しました。ぜひ各教会の学びのテキストとしてお使いください。

### 〈購読の申し込み〉

- 『教会学校教案誌』をぜひご購入ください。また、別冊『子どもカテキズム』（300円）をぜひお買い求めください。バックナンバーもあります。第24号までは一部500円で販売しています（品切れの号もあり）。

名古屋岩の上传道所 相馬伸郎まで  
〒458-0021 名古屋市緑区滝の水2-2012  
Tel/Fax. 052-895-6701

---

☆ 執筆者一覧 ☆

まえがき	辻幸宏 (大垣伝道所協力牧師)
芦田高之 (新浦安伝道所宣教教師)	望月信 (高蔵寺教会牧師)
巻頭説教	木下裕也 (名古屋教会牧師)
吉田隆 (仙台教会牧師)	石原知弘 (前北神戸キリスト伝道所宣教教師)
教会学校・日曜学校訪問	分級展開例
久保浩文 (高知教会牧師)	幼稚科
諸教派の教会教育事情	石川千鶴子 (横浜教会)
辻浦信生 (日本同盟基督教団東御キリスト教会 牧師)	小学科下級
聖書研究	神港教会聖書学校教師会
赤石純也 (西神伝道所協力牧師)	小学科上級
西堀則男 (関キリスト教会牧師)	相馬直子 (名古屋岩の上伝道所日曜学校校長)
後藤公子 (前インドネシア派遣女性宣教教師)	中学科
小堀昇 (いずみ伝道所協力牧師)	立石彰 (東仙台教会牧師)
三川栄二 (稲毛海岸教会牧師)	いのちのパン (子ども聖書日課)
吉岡契典 (仙台カナン教会牧師)	10月 山中雄一郎 (板宿教会牧師)
カテキズム研究	11月 大西良嗣 (滋賀摂理伝道所宣教教師)
梶浦和城 (豊明教会牧師)	12月 相馬伸郎 (名古屋岩の上伝道所宣教教師)
吉田崇 (坂出飯山教会牧師)	イラスト作画
松田基教 (高松教会牧師)	表紙 引間裕子 (秩父教会)
説教展開例	本文・いのちのパン
相馬伸郎 (名古屋岩の上伝道所宣教教師)	信濃郁恵 (滋賀摂理伝道所)
袴田康裕 (園田教会牧師)	岡野美佳 (青葉台教会)
	新海敬造 (名古屋岩の上伝道所)

---

☆ 編集部 ☆

相馬伸郎 (長)	名古屋岩の上伝道所宣教教師
木下裕也	名古屋教会牧師
辻 幸宏	大垣伝道所協力牧師
望月 信	高蔵寺教会牧師
梶浦和城	豊明教会牧師

---

日本キリスト改革派教会 中部中会 『教会学校教案誌』  
2008年10・11・12月号 (季刊)  
第31号  
2008年8月17日発行

---

発行	日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校委員会
発行所	日本キリスト改革派教会 中部中会 教会学校教案誌編集部 名古屋岩の上伝道所 宣教教師 相馬伸郎
	〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012
	Tel/Fax. 052-895-6701
郵便振替口座	00890-2-148183 「伊藤治郎」
編集・印刷	株式会社あるむ
	〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田3-1-12 第三記念橋ビル3F
頒価	900円 (本体価格)

---